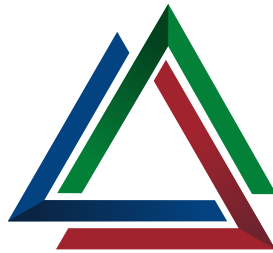


調 査 レ ポ ー ト

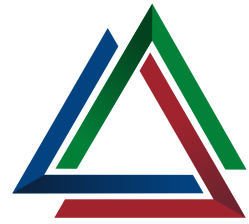


日中韓地方都市

トライアングル交流 2022

本調査レポートは、[日中韓三国協力事務局ホームページ（www.tcs-asia.org）](http://www.tcs-asia.org)にて、日・中・韓・英の4言語で最新版をご覧ください。





日中韓地方都市  
トライアングル交流2022



## 刊行によせて

この度、調査レポート「日中韓地方都市トライアングル交流 2022」を発刊できることを大変嬉しく思います。日中韓三国協力事務局（TCS）が2019年に初版を発行した本報告書は、日中韓の地方都市交流の先行事例に関する情報を充実させ、更なる交流の活性化を目的として編纂されました。2022年版は過去1年半の交流の最新動向を反映し、以前の事例についても更に充実させました。さらに日中韓の自治体・地方政府首長へのインタビューも掲載しました。調査レポートの改編にあたり、ご協力いただいた地方自治体及び関係機関の皆様にご心より感謝申し上げます。

第3回ASEAN+3首脳会議（APT）での三国首脳間の朝食会がきっかけとなり、それ以来三国協力は政府及び民間レベルにおいて、大きな進展を遂げました。2008年からは、APT首脳会議とは別に日中韓サミットが開催され、外交・経済・防災・環境・保健・文化・教育など21分野での閣僚級会合が行われています。民間や地方自治体間でも、様々な分野における交流が増加し、観光や青少年交流を通じた人的交流も拡大しています。2019年12月に開催された第8回日中韓サミットでは「次の10年に向けた3か国協力に関するビジョン」が採択され、2030年に向けた三国協力の基礎が築かれました。TCSも設立以来、様々な分野の日中韓メカニズムを支援し、協力事業を実施して参りました。2021年に10周年を迎えたTCSは、次の10年を見据えた新たな目標を立て、三国協力の発展により実質的に貢献できるよう尽力して参ります。

ここ数年、新型コロナウイルス感染症の流行により、世界各国は様々な困難に直面しています。日中韓三国の地方自治体においても対面交流が困難になった中、多くの自治体が新たなIT技術を活用し、内容の充実した交流事業を継続することで、力強い回復力と柔軟性を見せました。また、オンラインプラットフォームを用いることで財政的な負担が軽減され、より多くの人々との交流が可能になり、効果的な交流事業の新たな形を開拓できました。3か国の地方自治体は、このような成功事例や経験の共有を通じ、パンデミック等の外的要因に左右されることなく、今後も友好的な協力関係を維持できると確信しています。

TCSは「恒久の平和、地域の繁栄、共通の文化的価値」というスローガンの下、政府間のみならず、民間や地方レベルの交流における三国協力を推進するため、最大の努力を傾注して参ります。本調査レポートが日中韓の地方交流の最新状況や事例を共有し、3か国の地域社会が一層活発に協力するための契機となれば幸いです。



欧渤芊（オウ・ボーチエン）  
日中韓三国協力事務局(TCS)事務局長



## 日中韓三国協力事務局の紹介

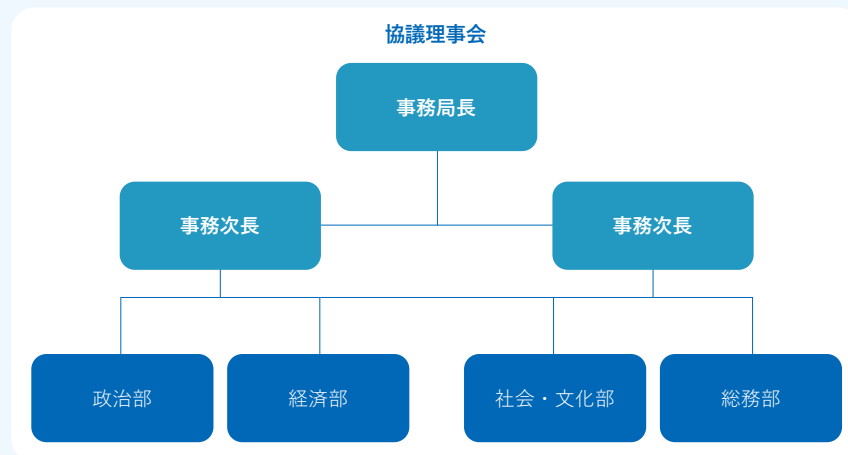
日中韓三国協力事務局（Trilateral Cooperation Secretariat, TCS）は、日中韓三国の平和と繁栄を促進するために設立された国際機関です。三国政府によって署名及び批准された協定に基づき、2011年9月に韓国・ソウルにて正式に活動を開始しました。当事務局では三国の平等性を基本とし、運営予算の3分の1ずつを各国が負担しています。

TCSの目的は、三国間の協議メカニズムの運営及び管理のための支援、協力事業の模索及び実施により、三国協力の促進に寄与することです。

### 主な機能

- ・日中韓サミット、日中韓外相会議、その他閣僚級会合等の三国政府間協議メカニズムへの支援及び参加
- ・三国政府及び他の国際機関、特に東アジア協力機関との連絡と調整
- ・三国間の協力事業の開拓と分析及び事業実施のための関連協議体への報告
- ・協力事業の評価及び報告書作成、必要文書のデータベース構築及び年間実績報告書の提出
- ・三国協力における重要なテーマについての研究、事務局ホームページの管理、三国協力に対する理解増進

### 組織構成



### 協議理事会

協議理事会は事務局の最高意思決定機関であり、各国から2年ごとに持ち回りで任命される事務局長(Secretary-General) 1名および事務次長(Deputy Secretary-General) 2名で構成されています。

#### 第6期協議理事会（2021年9月—2023年8月）

事務局長	中国	欧渤芊（オウ・ポーチエン）
事務次長	韓国	白範欽（ベク・ボムフム）
事務次長	日本	坂田奈津子

### 部署

三国政府から派遣された部長及び各国から公募形式で選抜されたプログラム・オフィサーで4つの部署が構成されています。

政治部	経済部	社会・文化部	総務部
<ul style="list-style-type: none"> <li>・外交</li> <li>・安全保障</li> <li>・地域情勢</li> <li>・国際情勢</li> <li>・防災</li> <li>・シンクタンクネットワーク</li> <li>・広報</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・貿易・投資</li> <li>・運輸・物流</li> <li>・税関</li> <li>・知的財産権（IPR）</li> <li>・情報通信技術（ICT）</li> <li>・財政・金融</li> <li>・科学技術</li> <li>・標準化</li> <li>・エネルギー</li> <li>・消費者対策</li> <li>・環境保護</li> <li>・農業</li> <li>・水資源</li> <li>・森林・林業</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文化</li> <li>・青少年交流</li> <li>・教育</li> <li>・保健・福祉</li> <li>・観光</li> <li>・地方自治体交流</li> <li>・人事行政</li> <li>・スポーツ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・企画・調整</li> <li>・人事</li> <li>・行政・法務支援</li> <li>・予算・会計業務</li> <li>・文書管理</li> </ul>

### 沿革

- 1999.11 **三国協力のはじまり**  
第3回ASEAN+3サミットの際、初の日中韓首脳朝食会開催（フィリピン・マニラ）
- 2008.12 **三国協力の制度化**  
ASEAN+3首脳会議という枠組みから独立し、第1回日中韓サミットを開催（日本・福岡）
- 2009.10 **三国協力のための常設事務局の必要性を確認**  
第2回日中韓サミットで、三国協力のための常設事務局設立の必要性について合意（中国・北京）
- 2010.05 **「三者間協力事務局の設立に関する覚書」**  
第3回日中韓サミットで、「三者間協力事務局の設立に関する覚書」を発表（韓国・済州）
- 2010.12 **「三者間協力事務局の設立に関する協定」**  
三国政府が「三者間協力事務局の設立に関する協定」に署名（韓国・ソウル）
- 2011.09 **TCS開設・TCS開設記念式典**（韓国・ソウル）
- 2012.05 **TCSが第5回日中韓サミットに参加**（中国・北京）
- 2015.11 **TCSが第6回日中韓サミットに参加**（韓国・ソウル）
- 2016.09 **TCS設立5周年記念レセプション**（韓国・ソウル）
- 2018.05 **TCSが第7回日中韓サミットに参加**（日本・東京）
- 2019.12 **TCSが第8回日中韓サミットに参加**（中国・成都）
- 2021.04 **TCS設立10周年記念写真展**（韓国・ソウル）

## 目次

刊行によせて	1	
日中韓三国協力事務局の紹介	2	
編集にあたって	5	
日中韓地方都市交流の事例概観	6	
英文略称一覧	8	
第1章	3都市・地域間の交流	9
津市（日）－揚州市（中）－麗水市（韓）		10
鳥取県（日）－吉林省（中）－江原道（韓）		12
東京都（日）－北京市（中）－ソウル特別市（韓）		16
北九州市（日）－大連市（中）－仁川広域市（韓）		19
神奈川県（日）－遼寧省（中）－京畿道（韓）		24
山口県（日）－山東省（中）－慶尚南道（韓）		28
石川県（日）－江蘇省（中）－全羅北道（韓）		31
佐渡市（日）－漢中市（中）－昌寧郡（韓）		33
厚木市（日）－臨沂市（中）－軍浦市（韓）		36
金沢市（日）－蘇州市（中）－全州市（韓）		38
横浜市（日）－泉州市（中）－光州広域市（韓）		41
東京都目黒区（日）－北京市東城区（中）－ソウル特別市中浪区（韓）		48
新潟市（日）－青島市（中）－清州市（韓）		52
奈良市（日）－寧波市（中）－済州特別自治道（韓）		60
長崎県（日）－上海市（中）－釜山広域市（韓）		68
京都市（日）－長沙市（中）－大邱広域市（韓）		71
金沢市（日）－ハルビン市（中）－釜山広域市（韓）		77
東京都豊島区（日）－西安市（中）－仁川広域市（韓）		80
北九州市（日）－揚州市（中）－順천시（韓）		83
愛媛県（日）－陝西省（中）－慶尚北道（韓）		85
北九州市（日）－紹興・敦煌市（中）－順천시（韓）		87
大分県（日）－温州・済南市（中）－慶州市（韓）		89
第2章	3国の地方都市交流 メカニズムと行事	91
東アジア文化都市		92
日中韓3か国地方政府交流会議		99
東アジア経済交流推進機構（OEAED）		101
環黄海経済・技術交流会議		106
韓日中公務員3国協力ワークショップ		109
特別セッション：自治体・地方政府首長インタビュー		111
協力機関		120
その他TCS出版物およびウェブサイト		121

## 編集にあたって

・本冊子のタイトルは、「日中韓地方都市トライアングル交流」ですが、市レベルだけでなく、県（日）・省（中）・道（韓）や区レベルの交流も含まれています。また、姉妹/友好都市を基盤とした民間団体、学校、図書館、博物館等の関係機関が独自で実施している交流事例についても紹介しています。

・本冊子に記された国名の順序は、日本語版においては日本の都市・地域を先頭とし、日中韓の順としています。中国語及び韓国語版においては、それぞれの国の都市・地域を先頭とし、2番目以降はその国で一般的に用いられている国名順としています。ただし、トライアングルの図の配置は、行事の開催順序や中心的役割を果たす都市・地域の要素などを考慮に入れつつ、日中韓版共通の配列にしています。また、第1章内の各都市グループの掲載順序は、原則として、3都市の交流開始順を参考としています。

・姉妹都市や友好都市の呼称については、同一の都市同士の関係に対しても、片方の国では「姉妹都市」と呼び、相手国では「友好都市」と呼ぶ事例が多くあります。日本語版にあたっては、日韓及び日中の都市関係については、日本における表記のみ記載しました。一方、中国と韓国における都市関係において、「姉妹都市」「友好都市」と異なる呼称を用いている場合、日本語版においては、中立性を保つため、「姉妹/友好都市」または「友好/姉妹都市」と併記しています。

・情報の分量、交流事業の規模や数によって、各都市グループにつき最大9ページまで扱っています。

・本調査レポートは、日中韓3国の交流に限定しています。紙面の都合上、それ以外の国を含む交流の場合については取り上げていません。また、2022年の調査レポート作成時点で過去に交流を行っていたが、現在継続していない日中韓交流都市については、本冊子の掲載対象外としています。

・本調査レポートは、2022年1月時点の情報に基づいています。したがって、それ以降の行事は、予定情報となります。東アジア文化都市（92ページ参照）の各都市の交流事業については、同都市に指定された当該年においては、極めて多くの事業を実施しているため、スペースの関係上、調査範囲を当該年の翌年以降に行われるフォローアップ交流事業に焦点を絞って掲載しています。

・本冊子に掲載された日中韓の地方都市事業の事例は、必ずしも現存するすべての事例を網羅したものではない可能性があります。これ以外の日中韓地方都市間交流のグループや事例についてご存知の場合は、下記宛にお知らせ頂ければ幸いです。
tlr@tcs-asia.org

# 日中韓地方都市交流の事例概観

本冊子で紹介する22の都市間交流グループの事例を類型化すると、以下のとおりとなる。

## 1

### 国家別

現在、日中韓交流事業を運営している国別の自治体は以下の通りである。自治体一地域で複数の交流都市グループに参加している場合があるため、下の数字は交流都市グループ全体の数と一致しない。

- (1) 日本：19か所（1都、7県、9市、2区）
- (2) 中国：23か所（5省、17市、1区）
- (3) 韓国：19か所（6道、11市、1郡、1区）

## 2

### 交流の背景

- (1) 姉妹/友好都市・交流協力協定等の締結に伴う交流：13組

[参考]日中韓の中での二国間友好/姉妹都市交流の現状

- ・日本（2022年2月基準）：378件（中国）、165件（韓国）
- ・中国（2021年12月基準）：213件（日本）、181件（韓国）
- ・韓国（2021年2月基準）：208件（日本）、672件（中国）

- (2) 東アジア文化都市を契機とする交流：9組（2014～2022年）  
⇒ 今後も年間1組ずつ増加予定

## 3

### 交流分野

一事業が複数分野の要素を有する場合や、一つの都市グループが複数の事業を行っている場合もあるため、合計の数字は都市グループ数と一致しない。相対的に、経済や環境などよりも、文化、スポーツ等を通じた国民間の相互理解を重視した交流事業が多い点が特徴である。

- (1) 青少年交流：10組
- (2) 文化交流：10組
- (3) 囲碁：3組
- (4) 経済：2組
- (5) スポーツ競技：3組
- (6) 博物館：2組
- (7) 図書館：1組
- (8) 環境（トキの保護活動含む）：2組
- (9) 観光：1組
- (10) 高齢化・高齢者福祉：1組

## 4

### 交流対象（世代別）

一つの交流都市グループが複数の事業を運営している場合があるため、下の数字は交流都市グループ全体の合計と一致しない。多くの交流事業の参加対象は成人であり、青少年交流の場合は中学高校生以上が多い。

- (1) 小学生：1組
- (2) 中学生：1組
- (3) 高校生：4組
- (4) 中高生混合：3組
- (5) 大学生・大学院生：3組
- (6) 社会人：20組
  - － 芸術家やアスリート等が中心：14組
  - － 公務員等実務者が中心：4組
  - － 官民共同（企業家や有識者がフォーラム等に参加）：2組

## 5

### 地方政府交流の規模

22個の交流都市グループ中、半数は市・郡間の交流に属する。

- (1) 県省道単位：5組
- (2) 市・郡単位：11組
- (3) 区単位：1組
- (4) 上記(1)と(2)の混合：4組
- (5) 上記(2)と(3)の混合：1組

## 6

### 交流の開始時期

90年代後半及び2015年以降に開始する例が多くみられる。最初の日中韓首脳会合も前者の時期（99年）に行われている。2015年以降の開始が多い理由は、東アジア文化都市事業が同年より始まり、毎年一組ずつ増加しているためである。多くの文化都市が現在まで交流を継続している。

- (1) 1994年以前：1組
- (2) 1995年～1999年：4組
- (3) 2000年～2004年：2組
- (4) 2005年～2009年：1組
- (5) 2010年～2014年：3組
- (6) 2015年～2019年：8組
- (7) 2020年～2022年：3組

## 7

### 交流開催の場所

3都市・地域が均等に関与する交流事業は、東アジア文化都市フォローアップ事業を除き、ほとんどが持ち回り開催となっている。東アジア文化都市フォローアップ事業の場合は、多くの都市で青少年交流や文化交流の事業のいずれか又は両方を毎年行い、それにパートナー都市等が参加する形になっている。

- (1) 持ち回り開催：12組
- (2) 毎回同じ都市での開催：10組
  - － 東アジア文化都市：9組
  - － その他：1組

## 英文略称一覧

AIR	Artist In Residence
APT	ASEAN Plus Three
ASEAN	Association of Southeast Asian Nations
CCEA	Culture City of East Asia
CJK	China-Japan-Korea
CLAIR	Council of Local Authorities for International Relations
EATOF	East Asia Inter-Regional Tourism Forum
GAOK	Governors Association of Korea
ICT	Information and Communications Technology
IPR	Intellectual Property Right
KYOTO STEAM	Kyoto Science, Technology, Engineering, Arts, Mathematics
METI	Ministry of Economy, Trade and Industry
MOU	Memorandum of Understanding
OEAED	The Organization for the East Asia Economic Development
TBD	To Be Determined
TCS	Trilateral Cooperation Secretariat

## 第1章

### 3 都市・地域間の交流



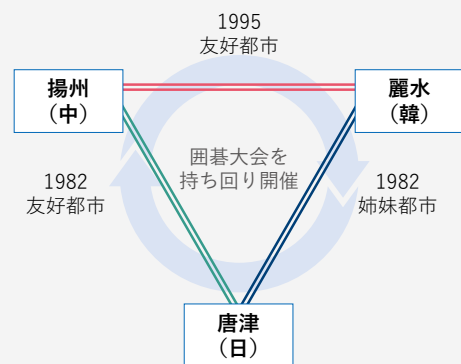


からつ ヤンチョウ ヨス  
唐津市（日） — 揚州市（中） — 麗水市（韓）

1999年から続く親善囲碁交流

佐賀県唐津市（日本）、江蘇省揚州市（中国）、全羅南道麗水市（韓国）の交流は、唐津市が1982年に揚州市と友好都市を締結したことにさかのぼる。同年3月に麗水市と姉妹都市協定を締結し、その後1993年から3市間で市長会議が実施され、揚州市と麗水市も1995年に友好提携協定を締結し、トライアングル交流の構図が完成した。

この関係を土台に、1999年より3市による国際交流都市親善囲碁大会がスタートし、今に至る。現在まで継続されている日中韓地方交流の中で、最も歴史が長い事例の一つである。なお、揚州市は、北九州市（日本）、順天市（韓国）とともに東アジア文化都市2020に選定された。



1999年～：3都市による親善囲碁大会

「日中韓友好姉妹都市囲碁交流大会」は、囲碁を通じて、唐津市・揚州市・麗水市の3都市の文化交流を深め、市民間の理解と友好増進を図ることを目的に、1999年より開催されている。毎年3都市の持ち回りで開催され、2019年には21回目の節目を迎えた。



第21回日中韓友好姉妹都市  
囲碁交流大会

写真提供  
唐津市

資料提供  
唐津市、麗水市

これまでの開催実績

回	開催都市（国）	開催日
第1回	揚州市（中）	1999年7月5日（月）～11日（日）
第2回	麗水市（韓）	2000年5月3日（水）～6日（土）
第3回	唐津市（日）	2001年6月29日（金）～7月2日（月）
第4回	揚州市（中）	2002年11月15日（金）～19日（火）
第5回	麗水市（韓）	2003年10月16日（木）～20日（月）
第6回	唐津市（日）	2004年8月6日（金）～8日（日）
第7回	揚州市（中）	2005年6月26日（日）～29日（水）
第8回	麗水市（韓）	2006年10月25日（水）～28日（土）
第9回	唐津市（日）	2007年8月28日（火）～31日（金）
第10回	揚州市（中）	2008年10月17日（金）～20日（月）
第11回	麗水市（韓）	2009年9月17日（木）～19日（土）
第12回	唐津市（日）	2010年8月23日（月）～26日（木）
第13回	揚州市（中）	2011年10月21日（金）～24日（月）
第14回	麗水市（韓）	2012年10月18日（木）～20日（土）
第15回	唐津市（日）	2013年8月29日（木）～31日（土）
第16回	揚州市（中）	2014年10月16日（木）～19日（日）
第17回	麗水市（韓）	2015年11月29日（木）～31日（土）
第18回	唐津市（日）	2016年11月11日（金）～13日（日）
第19回	揚州市（中）	2017年11月6日（月）～9日（木）
第20回	麗水市（韓）	2018年11月15日（木）～17日（土）
第21回	唐津市（日）	2019年11月9日（土）～10日（日）
第22回	揚州市（中）	2022年 [予定]

とっとり **鳥取県** (日) — **吉林省** (中) — **江原道** (韓)

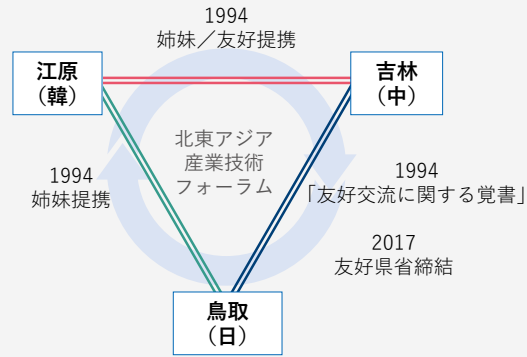
3 県省道・周辺地域と積極的な経済交流

鳥取県（日本）、吉林省（中国）、江原道（韓国）の3県省道は、地域経済圏構想の設立を目的として、1990年代から近隣のロシア、モンゴル等とともに交流を深めている。

3県省道での交流は、吉林省及び江原道が1994年6月に友好/姉妹省道締結、鳥取県及び吉林省が1994年9月に「友好交流に関する覚書」（2017年に友好県省締結）、鳥取県と江原道が1994年11月に友好県道締結を行ったことにはじまる。

3県省道による定例行事として代表的なものは、2008年より持ち回りで実施されている「北東アジア産業協力フォーラム」であり、近年は毎年実施されている。また、3県省道が主要メンバーとなる形で、日中韓以外の地域交流メカニズムを運営していることも特徴である。

江原道の提案で創設された「北東アジア地域国際交流・協力地方政府サミット」は1994年から、「東アジア地方政府観光フォーラム(EATOF)」は2000年から開始され、毎年地方政府間の持ち回りで実施されている。



第10回北東アジア産業技術フォーラム

写真提供 江原道

第6回	2016年9月	鳥取県米子市	新素材、地域の特色ある産業
第7回	2017年9月	江原道春川市	第4次産業革命時代のイノベーションにおける地方の参画
第8回	2018年9月	吉林省長春市	国際科学技術協力及び北東アジア地域のイノベーション復興
第9回	2019年10月	鳥取県米子市	食品分野の技術研究
第10回	2021年10月	江原道春川市 (オンライン開催)	ポストコロナ時代に備えた科学技術及び産業パラダイムシフト
第11回	2022年[予定]	吉林省	



2008年～：「産業技術交流協力協定」締結、「北東アジア産業協力フォーラム」持ち回りで開催

2006年の「北東アジア地方国際交流・協力地方政府サミット」で、先端科学技術交流の協力開拓を目的として2008年に鳥取県商工労働部長、吉林省科学技術庁長、江原道経済産業局長の間で「産業技術交流協力協定」を締結し、これに基づき、3県省道の間で「北東アジア産業協力フォーラム」が持ち回りで開催されている。

これまでの開催実績

回	日程	開催地	テーマ
第1回	2008年	江原道春川市	北東アジアの先端産業技術交流協力事業の開拓
第2回	2011年	吉林省長春市	産業政策とインフラ建設のパラダイムシフト及び地域活性化、先端産業とグローバル交流協力、北東アジアの都市（県省道）間の国際科学技術協力の推進
第3回	2012年	鳥取県米子市	生命工学、人材育成
第4回	2013年9月	江原道春川市	日中韓3か国の地方政府の戦略的産業活性化政策及び企業体の産業技術
第5回	2015年9月	吉林省長春市	

2009年、2014年：友好交流周年事業

2009年には、吉林省長春市にて、同省の友好交流地域である鳥取県、島根県、江原道との友好交流15周年を祝うため、7月に「日中韓国際文化美食祭」、8月に「日中韓青少年卓球大会」が実施された。

また、2014年には、友好交流20周年を祝賀するため、それぞれ二国間の記念行事が行われたほか、日中韓では、同年8月に吉林省にて同省の友好交流地域である鳥取県、島根県、江原道の「日中韓友好交流20周年記念青少年文化体験事業」が実施された。

また、同年10月に鳥取県にて、交流の歴史を振り返る写真展が実施され、江原道では、3県省道及びカナダ・アルバータ州（江原道の友好都市、40周年）の同様の写真展及び児童美術展が実施された。

## 1994年～：「北東アジア地域国際交流・協力地方政府サミット」

3県省道は、「北東アジア地方国際交流・協力地方政府サミット」の参加地方政府であるロシアの沿海地方及びモンゴルの中央県とともに、会議を持ち回りで毎年開催してきた。各首長が毎年一堂に会し、地域の発展や繁栄のための議論をしている。

### これまでの開催実績

回	日程	開催地
第1回	1994年11月	江原道・束草市
第2回	1995年11月	鳥取県・米子市
第3回	1996年11月	江原道・洪川郡
第4回	1997年8月	鳥取県・鳥取市
第5回	1998年8月	吉林省・長春市
第6回	1999年10月	江原道・束草市
第7回	2000年11月	鳥取県・米子市
第8回	2002年9月	吉林省・延吉市
第9回	2004年7月	モンゴル・中央県
第10回	2005年11月	江原道・春川市
第11回	2006年8～9月	吉林省・長春市
第12回	2007年10～11月	鳥取県
第13回	2008年9月	ロシア・ウラジオストク
第14回	2009年7月	モンゴル・中央県
第15回	2010年5月	江原道・平昌郡
第16回	2011年9月	吉林省・長春市
第17回	2012年4月	鳥取県
第18回	2013年10～11月	ロシア・ウラジオストク
第19回	2014年7月	モンゴル・中央県
第20回	2015年5～6月	江原道・束草市
第21回	2016年8月	吉林省・長春市
第22回	2017年10月	鳥取県・倉吉市
第23回	2018年10月	ロシア・ウラジオストク
第24回	2019年7月	モンゴル・中央県
第25回	2021年10月	江原道・江陵市（オンライン開催）
第26回	2022年[予定]	吉林省

## 2000年～：東アジア地方政府観光フォーラム（EATOF）

東アジア地域の繁栄と各地域間の緊密な交流を進め、各地域間の国際観光交流の促進を図るとともに、協力して世界各地からの観光客誘致を図ることを目的に、江原道の提唱により2000年に創設された。EATOF事務局は江原道春川市に置かれている。

EATOFは国家別に地方政府1地域のみが加入可能である。加盟地域は、3県省道のほか、中央県（モンゴル）、ジョグジャカルタ特別州（インドネシア）、セブ島（フィリピン）、サラワク州（マレーシア）、クアンニン省（ベトナム）、シエムリアップ州（カンボジア）、ルアンパバン県（ラオス）の10か国10都市。総会は隔年で、常任委員会は毎年開催されている。

### これまでの総会開催実績

回	日程	開催地
第1回	2000年9月	韓国・江原道
第2回	2001年9月	インドネシア・ジョグジャカルタ特別州
第3回	2002年9月	フィリピン・セブ島
第4回	2004年9月	日本・鳥取県
第5回	2005年9月	中国・吉林省
第6回	2006年9月	マレーシア・サラワク州
第7回	2007年9月	タイ・チェンマイ州
第8回	2008年7月	モンゴル・中央県
第9回	2009年9月	韓国・江原道
第10回	2010年9月	ベトナム・クアンニン省
第11回	2011年9月	フィリピン・セブ島
第12回	2012年11月	カンボジア・シエムリアップ州
第13回	2013年10月	ラオス・ルアンパバン県
第14回	2014年9月	マレーシア・サラワク州
第15回	2016年10月	インドネシア・ジョグジャカルタ特別州
第16回	2018年8月	日本・鳥取県
第17回	2022年 [下半期に開催予定]	ベトナム・クアンニン省

▶  
出典  
EATOFホームページ

とうきょう          ペキン  
**東京都（日） — 北京市（中） — ソウル特別市（韓）**

**3 国の首都の姉妹都市関係をベースにした博物館交流、4 都市の交流に拡大**

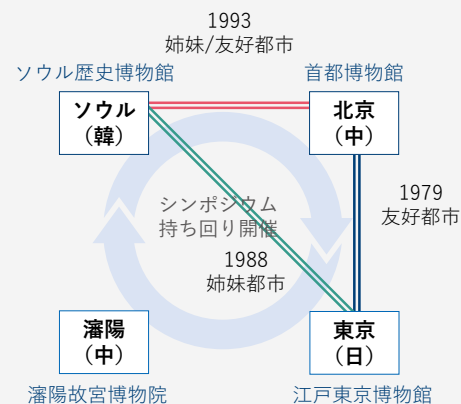
東京－北京間は 1979 年、東京－ソウル間は 1988 年、北京－ソウル間は 1993 年にそれぞれ姉妹/友好都市締結がなされている。

1995 年 3 月には「BESETO 協力に関する合意覚書」が 3 首長間で署名され、トライアングル体制が構築されたものの、この枠組みでの都市行政レベルでの協力は、諸般の事情により継続しておらず、美術祭や演劇祭など民間レベルでの交流が続けられている。

公共部門における協力においては、3 首都の博物館交流が続いている。2002 年に設立されたソウル歴史博物館で、同年、3 首都の博物館によるシンポジウムが行われ、定例化されることとなった。その後、中国側の推薦により、瀋陽故宮博物院が 2006 年から加わり、4 博物館の持ち回りでシンポジウムが行われるようになった。

シンポジウムを通じた交流を 10 年以上にわたり継続してきたひとつの結実として、東京、北京、ソウルのうち 2 都市の博物館の間で相互に展示が行われる取組みがここ数年の間で増えているのが特徴である。

博物館を通じた日中韓の都市間交流事例はまだ数が限られているが、他に北九州市（日）－大連市（中）－仁川広域市（韓）の博物館が巡回展を行っている例がある。



**2002 年 10 月：日中韓シンポジウムがソウルで開催、定例化に合意**

日中国交正常化 30 周年・中韓国交樹立 10 周年を迎え、更に FIFA ワールドカップが日韓共催で行われた 2002 年は、「日中韓国民交流年」に指定された。この年の 10 月 25 日、「第 1 回日中韓博物館国際シンポジウム」が、同年に開館したソウル歴史博物館の講堂で開催された。日本からは江戸東京博物館が、中国からは北京の首都博物館が参加した。

「21 世紀における博物館の役割と発展の方向性」というテーマの下、3 国の首都の歴史と文化を紹介することをコンセプトとする 3 館の館長及び学芸員がそれぞれの活動を報告し、意見を交わす初の試みとなった。この行事は本来、定例化を念頭に置いた行事ではなかったが、行事に参加した各館の間で交流の意義と継続の必要性についての共通認識が得られ、翌年より持ち回りで継続されることになった。

**2006 年以前の開催実績**

開催年	開催地	開催年	開催地
2002 (第1回)	ソウル	2005 (第4回)	ソウル
2003 (第2回)	北京	2006 (第5回)	北京
2004 (第3回)	東京		

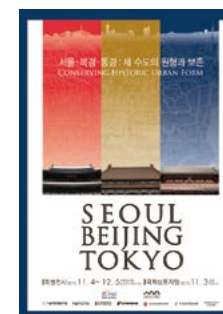
**2007 年～：瀋陽故宮博物院もシンポジウムに参加し、4 館の交流に拡大**

2007 年、首都博物館の推薦により、瀋陽故宮博物院も持ち回りシンポジウムの一員になった。同年以降、3 館交流から 4 館交流に拡大し、現在に至る。次のフォーラムは 2022 年ソウル歴史博物館で開催される予定である。

**2007 年以降の開催実績**

開催年	開催地	開催年	開催地
2007 (第6回)	東京	2014 (第13回)	北京
2008 (第7回)	瀋陽	2015 (第14回)	東京
2009 (第8回)	ソウル	2016 (第15回)	瀋陽
2010 (第9回)	北京	2017 (第16回)	ソウル
2011 (第10回)	東京	2018 (第17回)	北京
2012 (第11回)	瀋陽	2019 (第18回)	東京
2013 (第12回)	ソウル	2022 (第19回) [予定]	ソウル

2010 年イベントポスター



**2010 年 11 月：ソウル歴史博物館で初の日中韓特別展を開催**

2010 年 11 月 4 日から 12 月 5 日にかけて、「ソウル・北京・東京、3 都の原型と保全」をテーマとした特別展がソウル歴史博物館で行われた。11 月 3 日には、同館講堂にて、日中韓 3 か国の首都の都市専門家が都市の原型と遺産の保全策を模索するための国際シンポジウムが開催された。

**2013 年・2015 年：ソウル歴史博物館と首都博物館で特別展**

ソウルと北京の博物館が、2013 年と 2015 年に、二つの展示会を企画した。2013 年にソウル歴史博物館にて「北京 3000 年、受容と包容の旅程」が実施され、2015 年には、首都博物館にて「水路都市ソウル：清溪川の発展」をテーマに展示が実施された。

**2017 年・2018 年：江戸東京博物館と首都博物館で特別展**

2002 年から続く江戸東京博物館と首都博物館の交流の成果として、両館が共同して企画・調査・研究を行い、交流展を行った。

まず、2017 年 2 月 18 日から 4 月 9 日にかけて、特別展「江戸と北京－18 世紀の都市と暮らし」を江戸東京博物館にて実施した。翌 2018 年 8 月 14 日から 10 月 7 日にかけて、「都市・暮らし－18 世紀の東京と北京」を首都博物館で開催した。両展示会は、18 世紀を中心とした江戸と北京の成り立ちや、生活、文化を比較する点は共通しているが、来館者のニーズを考え、東京では北京の資料を、北京では東京の資料を多く展示した。

江戸東京博物館の広報資料によると、同館の収蔵資料が中国で展示されるのはこれが初めてであり、入場者は50日間で27万8790人（1日平均5576人）と大盛況で、多数のメディアにも取り上げられた。また、展示期間中の8月15日に、第17回日中韓博物館シンポジウムが首都博物館にて実施された。



◀ (左) 東京での展示会  
(右) 北京での展示会

写真提供  
江戸東京博物館提供

## 2019年：江戸東京博物館とソウル歴史博物館が共同展

江戸東京博物館は、2019年10月22日から12月1日にかけて、ソウル歴史博物館と初の共同展「ユ・マンジュのハニャン」を実施した。1755年漢陽（ハニャン、現在のソウル）に生まれたユ・マンジュは、20歳になった1775年から死没する直前の1788年まで、一日も欠かすことなく日記を書き続けた。ユ・マンジュの日記を通して、18世紀後半の漢陽の風景やそこに暮らす人々の日常生活を紹介するもので、ソウル歴史博物館にて2017年に展示された。なお、展示期間中の10月22日には「都市機能と博物館」というテーマで第18回日中韓博物館国際シンポジウムが江戸東京博物館にて実施された。



◀ 共同展（東京）

写真提供  
江戸東京博物館

## 2022年（予定）：ソウル歴史博物館・江戸東京博物館の共催による国際交流展

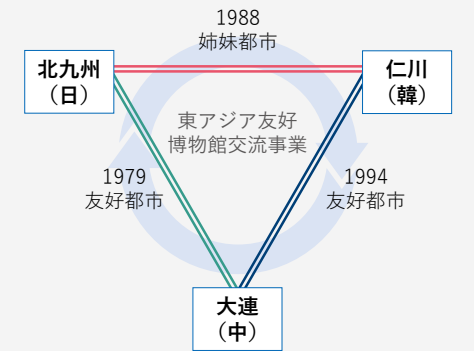
ソウル歴史博物館は、2022年9月から10月にかけて、「江戸時代隅田川の都市風景」をテーマに訪問展示会を行う予定である。日本の首都東京（江戸）の都市発展と密接な関係を持つ隅田川を背景にした絵、地図などの遺物を通じて近世日本の都市風景と生活文化を紹介する予定である。また、3博物館は9月4日から9月7日まで、「都市博物館と未来戦略」というテーマの下、第19回日中韓国際シンポジウムのオンライン開催について協議中である。

# きたきゅうしゅう 北九州市（日） — 大連市（中） — 仁川広域市（韓）

## 港湾都市による博物館交流、巡回展で着実に成果を積み上げる

福岡県北九州市（日本）、遼寧省大連市（中国）、仁川広域市（韓国）の3市は、ともに近代工業都市であり港湾都市という共通点をもつ。

3市での交流は、北九州市及び大連市が1979年に友好都市締結、北九州市と仁川直轄市（当時）が88年に姉妹都市締結したことから始まる。91年には日本の北九州市及び下関市と、その中韓の姉妹/友好都市4市（中国：大連、青島、韓国：釜山、仁川）からなる「東アジア都市会議」及び「東アジア経済人会議」が発足した（現在の「東アジア経済交流推進機構」の前身）。その後、94年に大連市及び仁川直轄市が友好都市締結を行い、日中韓のトライアングル姉妹/友好関係が成立した。



3市として現在も各市立博物館間で東アジア友好博物館交流事業を運営しており、「北九州市立自然史・歴史博物館（通称・以下：いのちのたび博物館）」、「大連市旅順博物館」及び「仁川広域市立博物館」は、2010年11月の合意書（2010-2015）に基づき友好博物館交流を開始した。同年より、毎年持ち回りで館長会議及び事前の実務者会議を開始し、2011年の第2回館長会議における合意に基づき、翌年より巡回展を開始した。2015年の第5回館長会議では2期目の合意書（2016-2021）に署名し、2016年に締結された「東アジア友好博物館巡回展に関する合意書」に基づき、「東アジアの生活文化：衣食住」をテーマとした隔年の巡回展の実施に合意した。2021年10月、三つの博物館は3期目の合意書（2022-2027）に署名し、今後6年間持続的な交流事業を推進することに合意した。

なお、仁川広域市は、2019年の東アジア文化都市として、東京都豊島区及び西安市とともに1年間、多彩な文化・交流活動を展開した。北九州市も2020年の東アジア文化都市に選定されている。また、3市が加盟する「東アジア経済交流推進機構」は、日中韓の11の大都市から構成される環黄海都市経済交流のプラットフォームとなっている。大連市は、2016年に北九州市、仁川市を含む日中韓の友好8都市を招いて卓球大会を実施したことがある。

## 2010年：東アジア友好博物館交流事業の開始、以降毎年持ち回りで実務者会議及び館長会議を実施

東アジア友好博物館館長会議は、2008年北九州市と仁川市の間で実施された姉妹都市締結20周年記念事業から始まり、北九州市の提案で3か国交流へと発展した。2010年8月に実務者会議で準備調整が行われた後、同年11月に「第1回東アジア友好博物館館長会議」が北九州市で開かれ、その際、「東アジア友好博物館に関する合意書」が3館長により署名され、3か国交流が開始した。両会議は、以後、それぞれの博物館が持ち回りで実施している。以来、両会議ともほぼ毎年実施され、今後の活動方針などについて話し合われている。交流事業計画は3年ごとに協議の上、決定される。



◀ 2021年第11回  
東アジア友好博物館館長会議

出典  
旅順博物館

これまでの開催実績

開催年	開催地	実務者会議	館長会議
2010	北九州	8月(第1回)	11月(第1回) 「東アジア友好博物館に関する合意書」署名
2011	仁川	7月(第2回)	10月(第2回)
2012	大連	6月(第3回)	
2013	北九州	8月(第4回)	12月(第3回)
2014	仁川	7月(第5回)	10月(第4回)
2015	大連	7月(第6回)	10月(第5回) 館長会議にて、2期目となる「合意書」に署名、隔年の巡回展の開催に合意
2016	北九州	7月(第7回)	11月(第6回)
2017	仁川	6月(第8回)	10月(第7回)
2018	大連	4月(第9回)	9月(第8回)
2019	北九州	7月(第10回)	10月(第9回)
2020	仁川	8月(第11回) *オンライン開催	11月(第10回) *オンライン開催
2021	大連	7月(第12回) *オンライン開催	10月(第11回) *オンライン開催 →3期目となる「合意書」に署名、今後6年間の交流推進に合意
2022	北九州	上半期予定 (第13回)	11月(第12回)[予定] *会議では東アジア友好博物館交流事業の成果や今後の展望をテーマに3館によるシンポジウム開催予定

▶  
いのちのたび博物館  
「東アジア文化コーナー」

写真提供  
いのちのたび博物館

## 2012年：協力展の第一弾「大連、都市の風景」を実施

大連の新旧の写真を対照して近代都市大連の歴史と現在の姿を示す展示。

日程	開催会場
2012年10月9日～11月4日	仁川広域市立博物館
2012年10月26日～11月25日	いのちのたび博物館

## 2013年：いのちのたび博物館に「東アジア交流コーナー」設置

2013年3月、いのちのたび博物館は、リニューアル・オープンにともない、3都市博物館の交流を紹介する観点から、同博物館内に「東アジア交流コーナー」を常設の形で設置し、大連市及び仁川広域市の歴史と文化、両博物館の活動について、写真などの関係資料や所蔵品の複製等を用いて紹介している。



## 2013年～2014年：協力展示第二弾「北九州—工業都市の風景」展を実施

鳥瞰図や炭鉱画の複製と写真により工業都市北九州の歴史と現在を紹介した。

日程	開催会場
2013年10月15日～11月10日	仁川広域市立博物館
2014年1月21日～2月16日	旅順博物館



▶  
仁川における展示「北九州—工業都市の風景」展ポスター

資料出典  
仁川広域市立博物館

## 2013年～2014年：北九州市制50周年記念、旅順と仁川の名品展」を実施

2013年12月21日から2014年2月11日にかけて、北九州の市制50周年を記念し、いのちのたび博物館にて「仁川広域市立博物館・旅順博物館の名品展」が実施された。両館所蔵の青銅器・絵画・陶磁器などが厳選後展示され、中韓両国の歴史と文化を紹介した。

## 2014～2015年：協力展の第三弾「モダン仁川画」展を実施

様々な印刷物の挿絵資料によって、近代都市仁川がどのように表現され、伝達されたか、またそのイメージがどのように受容されたかを探る展示。

日程	開催会場
2014年12月4日～2015年1月4日	旅順博物館
2014年12月6日～2015年1月12日	いのちのたび博物館

## 2016年～2017年：「東アジアの生活文化」巡回展の第一弾「着物」展を実施

2014年第4回博物館館長会議において、「東アジアの生活文化（衣食住）」を共通のテーマとした巡回展を隔年で実施することで合意し、2016年には「東アジア友好博物館巡回展開催に関する協議書」に署名した。

シリーズ第一弾として、日本の衣類文化をテーマとした特別展は、いのちのたび博物館が主催し、担当の北九州市から始まり、旅順市、仁川市の順に巡回で実施された。

日程	開催会場	展示テーマ
2016年11月12日～12月11日	いのちのたび博物館	「着物が語る日本の心」展
2017年1月10日～2月5日	旅順博物館	「布衣人生—日本近代平民服飾」展
2017年2月14日～3月19日	仁川広域市立博物館	「着物が語る日本の情緒」展



## 2018年～2019年

### 「東アジアの生活文化」巡回展の第二弾「箸」展を実施

箸文化をテーマに二弾目の展示会が行われた。展示会は旅順博物館の所蔵品をベースに各博物館の固有の特性を反映した。

日程	開催会場	展示テーマ
2018年5月18日～9月20日	旅順博物館	
2018年10月20日～12月9日	いのちのたび博物館	「箸と生活—中日韓箸文化展」を「食のたび—箸と和食の文化史—」展の一部として実施
2019年1月22日～2月24日	仁川広域市立博物館	「偉大な道具箸」展

旅順における展示「布衣人生—日本近代平民服飾」展

写真提供  
いのちのたび博物館

仁川における展示  
「偉大な道具箸」展

写真提供  
仁川広域市立博物館



## 2020年～2021年「東アジアの生活文化」巡回展の第三弾「厠」を実施

第三弾の企画展は「韓国の住居文化の中のトイレ」をテーマとする仁川広域市立博物館主催の「厠、トイレになる」の所蔵品展示を皮切りに、旅順市と北九州市で開催された。

日程	開催会場	展示テーマ
2020年11月24日～ 2021年3月1日	仁川広域市立博物館	「厠、トイレになる」
2021年11月19日～ 2022年2月19日	旅順博物館	「中国トイレ文化の変遷」
2021年11月19日～ 2022年3月13日	いのちのたび博物館	「厠、トイレになる」 *2022年10月「日本のトイレの歴史」 自主企画展開催

仁川における展示  
「厠、トイレになる」

出典  
仁川広域市立博物館

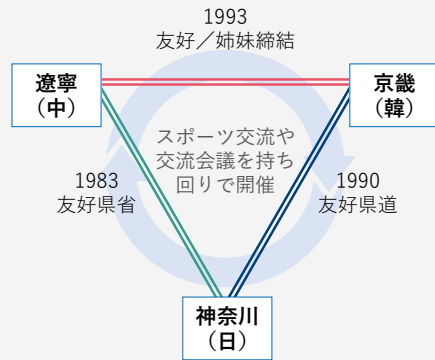


### 1996年から続く3地域の友好交流会議、青少年スポーツ交流の拡大

神奈川県（日本）、遼寧省（中国）、京畿道（韓国）の3県省道は、神奈川県が1983年5月に遼寧省と友好県省、90年4月に京畿道と友好県道締結、遼寧省と京畿道も93年10月に友好/姉妹提携締結を行い、トライアングルの構図ができあがった。

1995年に遼寧省の提案で3地域の相互理解とつながりを土台とした協力ネットワークを構築するために、96年より「友好県省道交流会議」を開始した。3地域は代表者の話し合いを通じて、共通課題の解決策や交流促進について定期的に議論し、具体的な事業として、2004年から青少年スポーツ交流事業や学術フォーラムを開始した。毎年持ち回りで開催される3県省道スポーツ交流事業は現在まで継続されており、参加者（年間約150人）や競技種目（サッカー、バスケットボール、卓球の3種）も拡充してきている。

他のトライアングル交流と比較すると、最も歴史が長い交流の一つであり、交流規模の面でも最も充実している。



### 1996年～：「友好県省道交流会議」

3県省道は、地域協力ネットワークを強化するために、1996年以来、「友好県省道交流会議」を行っている。毎年各地域を巡回しながら開催され、3県省道の地方公務員約100人が参加する。共通の課題の解決方法や文化交流等の促進について議論を行っている。

#### これまでの開催実績

回	日程	開催地	参加者数	テーマ
第1回	1996年8月	遼寧省	147人	3県省道の友好交流に関して討議
第2回	1998年9月	京畿道	150人	環境問題と地域の役割
第3回	2000年9月	神奈川県	145人	科学技術と文化
第4回	2002年10月	遼寧省	250人	3県省道の地方自治体間の協力模索
第5回	2004年10月	京畿道	230人	3県省道の全面的協力の強化
第6回	2006年11月	神奈川県	150人	東アジア繁栄のための共通認識強化
第7回	2008年10月	遼寧省	100人	3県省道の環境保護分野の協力強化
第8回	2010年10月	京畿道	100人	3県省道の地域発展と協力
第9回	2013年3月	神奈川県	100人	3県省道の経済交流活性化
第10回	2014年8月	遼寧省	50人	高齢化克服のための社会構築
第11回	2017年11月	京畿道	70人	スタートアップ等の交流活性化

2021年第13回3地域友好交流会議

出典  
遼寧省



### 2004年～：3県省道青少年スポーツ交流事業

2002年の第4回「友好県省道交流会議」において、スポーツ交流の推進に関する3者の合意がなされ、2004年から毎年夏季休業中に、スポーツ交流事業が行われている。同事業は、3地域の青少年に国際交流の機会を提供し、スポーツや文化交流を通して相互理解を深めるとともに、国家間のつながりを強化することを目的として推進された。当初、男子サッカー1種目だった競技も、2007年には女子バスケットボール、2014年には男女卓球が追加され、参加者・競技種目を拡大しながら実施している。

第15回大会の様

写真提供  
神奈川県



神奈川県側実行委員会のまとめた2018年度事業報告書によると、参加した日本の高校生からは、①言葉は通じなかったがジェスチャーなどでコミュニケーションがとれた、②中国、韓国の選手たちがフレンドリーに接してくれた、理解や関心を高めるきっかけになった、③皆同じ高校生であり、スポーツに国境や言葉の壁はないと実感した、などの感想の声が寄せられた。



これまでの実績

回	日程	開催地	参加者	内容
第1回	2004年8月 23～27日	京畿道	神奈川県24人 遼寧省21人 京畿道20人	サッカー交流親善試合、 学校訪問、文化体験等
第2回	2005年8月 25～29日	遼寧省	神奈川県24人 遼寧省23人 京畿道25人	サッカー交流親善試合、 学校訪問、文化体験等
第3回	2006年8月 23～27日	神奈川県	神奈川県27人 京畿道24人	サッカー交流親善試合、 学校訪問、文化体験等
第4回	2007年8月 24～28日	京畿道	神奈川県42人 遼寧省42人 京畿道35人	サッカー（男子）・バス ケットボール（女子）交 流親善試合、学校訪問、 文化体験等
第5回	2008年8月 25～29日	遼寧省	神奈川県42人 遼寧省45人 京畿道35人	サッカー（男子）・バス ケットボール（女子）交 流親善試合、学校訪問、 文化体験等
第6回	2009年8月 24～28日	神奈川県	神奈川県39人 京畿道38人	サッカー（男子）・バス ケットボール（女子）交 流親善試合、学校訪問、 文化体験等
第7回	2010年8月 23～27日	京畿道	神奈川県42人 遼寧省33人 京畿道39人	サッカー（男子）・バス ケットボール（女子）交 流親善試合、文化体験等
第8回	2011年8月 22～26日	遼寧省	神奈川県40人 遼寧省37人 京畿道39人	サッカー（男子）・バス ケットボール（女子）交 流親善試合、文化体験等
第9回	2012年8月 27～31日	神奈川県	神奈川県37人 遼寧省19人（女子バス ケットボールのみ） 京畿道39人	サッカー（男子）・バス ケットボール（女子）交 流親善試合、学校訪問、 文化体験等
第10回	2013年8月 26～30日	京畿道	神奈川県41人 遼寧省15人（女子バス ケットボールのみ） 京畿道49人	サッカー（男子）・バス ケットボール（女子）交 流親善試合、学校訪問、 文化体験等
第11回	2014年8月 26～30日	遼寧省	神奈川県47人 遼寧省48人 京畿道45人（男子サッカ ー・女子バスケットボ ールのみ）	サッカー（男子）・バス ケットボール（女子）・ 卓球（男女）交流親善試 合、学校訪問、文化体験 等
第12回	2015年8月 24～28日	神奈川県	神奈川県46人 遼寧省51人 京畿道54人	サッカー（男子）・バス ケットボール（女子）・ 卓球（男女）交流親善試 合、学校訪問、文化体験 等

◀  
出典  
神奈川県、京畿道

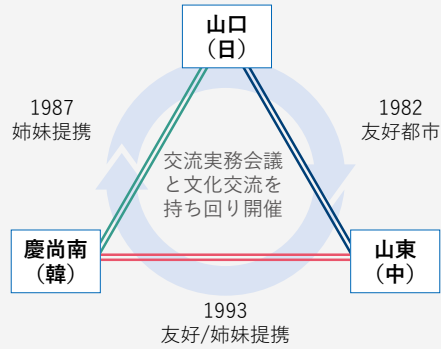
第13回	2016年8月 22～26日	京畿道	神奈川県50人 遼寧省47人 京畿道50人	サッカー（男子）・バス ケットボール（女子）・ 卓球（男女）交流親善試 合、文化体験等
第14回	2018年8月 20～24日	遼寧省	神奈川県49人 遼寧省53人 京畿道51人	サッカー（男子）・バス ケットボール（女子）・ 卓球（男女）交流親善試 合、文化体験等
第15回	2019年8月 19～22日	神奈川県	神奈川県45人 遼寧省10人（男女卓球 のみ）	卓球（男女）交流親善試 合、学校訪問、文化体験 等
第16回	2022年 [予定]	京畿道	未定	未定

### 1997年にはじまった日中韓3地域交流、2006年から本格化

山口県（日本）、山東省（中国）、慶尚南道（韓国）の3地域は、ともに隣国への海の玄関口を有するという共通点をもつ。

3地域交流に先立ち、山口県と山東省が1982年8月に友好協定を締結、山口県と慶尚南道は87年6月に姉妹提携締結、山東省と慶尚南道は93年9月に姉妹/友好都市締結を行った。

97年、山口県－山東省15周年、山口県－慶尚南道10周年を契機に、双方間の交流からもう一段階発展した協力強化のため、トライアングル交流の推進が始まった。2006年からは具体的な協力アジェンダを話し合うため、交流実務会議と交流事業を毎年開催してきた。以来、文化・青少年・福祉分野等、多方面での交流を続けている。一方、大学単位での交流も行われている。



### 2006年～：3地域交流実務会議を持ち回りで開催

山口県、山東省、慶尚南道の協力事業は山口県・山東省友好協定15周年、山口県・慶尚南道姉妹提携10周年を契機に、3者による広域連携・施策連携を図るため、共同交流事業が開始された。以来、文化・青少年の分野を中心に交流を続けてきた。2006年からは交流実務者会議を持ち回りで開催し、3地域の交流事業を実施している。

近年開催された第10回3地域交流実務者会議は、2021年12月に山口県の主催によりテレビ会議形式で行われ、高齢者福祉政策をテーマに3地域の国際交流部署及び高齢者福祉部署の実務者が参加し、政策発表及び意見交換を行った。

#### 各種行事の開催実績

日程	開催地	イベント
1997年11月	山口県	・東アジア文化の集い ・第1回国際文化シンポジウム
1998年2月	山口県	・国際環境シンポジウム
1999年11月	山東省	・第2回国際文化シンポジウム
2001年10月	慶尚南道	・第3回国際文化シンポジウム
2006年11月	山口県	・第1回3地域交流実務会議 ※実務会議の定期開催に合意 ・3県省道観光交流フォーラム
2007年9月	山東省	・第2回3地域交流実務会議

2007年10月	山口県	・山口県・山東省25周年、山口県・慶尚南道20周年記念事業 →山口県・山東省・慶尚南道トライアングルフォーラム〈国際交流・国際観光・自然環境〉 →三県省道高校生スポーツ交流
2011年3月	慶尚南道 山東省	・第3回3地域交流実務会議 ・3者メディア交流・協力事業
2012年2月	山東省	・第4回3地域交流実務会議
2012年7月	山東省	・山口県・山東省30周年、山口県・慶尚南道25周年記念事業 →伝統文化芸術交流 →報道交流協力の検討会 →体育友好交流（種目：卓球） →青少年政策専門家シンポジウム
2014年8月	山東省	・第5回3地域交流実務会議 ・3県省道青年卓球友好交流試合
2015年9月	慶尚南道	・第6回3地域交流実務会議 *開催周期を1年おきに変更 MERSによりバスケットボール大会が中止
2017年8月	山口県	・第7回3地域交流実務会議 *開催周期を隔年から毎年に変更 ・山口県・山東省35周年、山口県・慶尚南道30周年記念事業 →3地域青少年文化公演
2018年8月	山東省 山口県	・第8回3地域交流実務会議三県省道書画交流 ・山口ゆめ花博
2019年11月	慶尚南道	・第9回3地域交流実務会議 ・馬山菊祭りでの伝統武道公演にて、薙刀（日本）、太極拳（中国）、テコンドー（韓国）を披露
2020年11月	山口県 *オンライン開催	・第10回3地域交流実務会議（事前準備会議） ・2021年交流行事（高齢者福祉交流）推進事項協議 ・その他新規事業開拓の可能性について（2022年山口県・山東省友好都市40周年、山口県・慶尚南道姉妹都市35周年記念交流協力等）
2021年12月	山口県 *オンライン開催	・第10回3地域交流実務会議 ・高齢者福祉政策の情報交換及び2022年度開催計画議論
2022年〔未定〕	山東省 *オンライン開催予定	・第11回3地域交流実務会議 ・韓方を通じた国際交流会議に関する情報交換会及び青少年伝統楽器演奏会開催予定



2020年第10回3地域交流  
実務会議

写真提供  
山口県

### 1997年～：山口県立大学、曲阜師範大学、慶南大学校の交流事業を継続

山口県立大学は、曲阜師範大学（山東省）、慶南大学校（慶尚南道）と学術交流協定を締結し、2000年度から両大学の学生が毎年夏期に来日している。同事業は、1997年から99年に実施された「3大学トライアングル交流事業」が前身であり、それが発展する形で2000年から行われているものである。

「グローバル学生交流事業」は、毎年6月末から7月の約3週間にわたり実施されている。学内外との交流を図りながら、学生と地域の国際化を目的としている。そのため、プログラム期間中は、中韓からの学生達は日本語講義をベースに、ホームステイ、日本文化体験、学部学科交流、学生交流会など多岐にわたる活動に参加する。新型コロナウイルス感染症の影響で2020年より2年間事業が中断され、今後は新型コロナウイルスの感染拡大を考慮し再開する予定である。

なお、山口県立大学の学生も、短期留学プログラムで曲阜師範大学及び慶南大学校にそれぞれ学生を送っている。前者は同県立大学の学生のみが対象であり、後者は日本、中国以外の提携校の学生も含まれている。



山口県立大学の各学部学科との  
交流の様子

写真提供  
山口県立大学

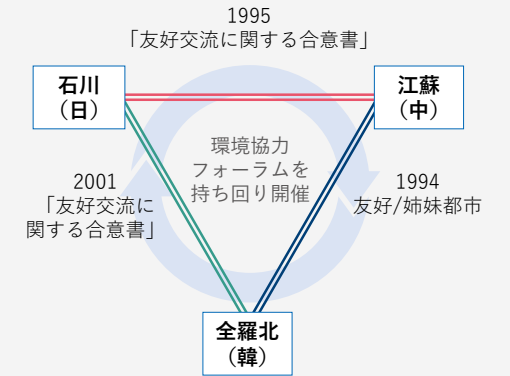
## いしかわ ジャンスー チョルラプクト 石川県（日） — 江蘇省（中） — 全羅北道（韓）

### 環境協カトライアングル事業を継続

石川県（日本）、江蘇省（中国）、全羅北道（韓国）の3県省道は、環境面での実務者間の交流を継続している。

3県省道での交流は、江蘇省及び全羅北道が1994年10月に友好/姉妹提携締結、石川県及び江蘇省が95年11月に「友好交流に関する合意書」締結、石川県と全羅北道が2001年9月に「友好交流に関する合意書」締結を行ったことから始まる。

3県省道による定例行事としては、持ち回りで実施されている環境協カトライアングル事業が行われている。2003年に石川県と全羅北道から始まった事業は、2006年から江蘇省を含めた3県省道事業へと拡大し、現在まで続いている。



2019年日中韓  
環境協カフォーラム

写真提供  
全羅北道



### 2003年～：日中韓環境協カフォーラムを持ち回りで開催

3地域は、各国に共通する重要課題である環境問題に関し、相互協カと認識の共有を図るため、環境保全分野の実務者による意見交換会と文化交流行事を持ち回りで実施している。新型コロナウイルスの感染拡大により、2020年から二度延期された本フォーラムは、各国の感染状況が緩和され次第、再開する予定。

これまでの実績

回	開催年度	開催地	テーマ
第1回	2003年度	石川県	環境教育
第2回	2004年度	石川県	企業及び行政機関における環境配慮と環境教育
第3回	2005年度	石川県	循環型社会の推進
第4回	2006年度	江蘇省	水環境保全対策
第5回	2007年度	全羅北道	地球温暖化対策
第6回	2008年度	石川県	地球温暖化対策
第7回	2009年度	江蘇省	生物多様性の保全
第8回	2013年度*	石川県	地球温暖化対策
第9回	2014年度*	全羅北道	生物多様性の保全
第10回	2015年度*	石川県	資源循環政策
第11回	2016年度	江蘇省	固体廃棄物の管理及び再資源化
第12回	2017年度	全羅北道	PM2.5の総合対策について
第13回	2018年度	石川県	里山の利用・保全
第14回	2019年度	江蘇省	土壌汚染の管理と復元・利用
第15回	2022年度 [未定]	全羅北道	

\*日韓2地域により開催

◀  
出典  
石川県庁。「開催年度」は日本の会計年度（4月1日～3月31日）

さ ど      ハンジョン      チャンニョン  
佐渡市（日） — 漢中市（中） — 昌寧郡（韓）

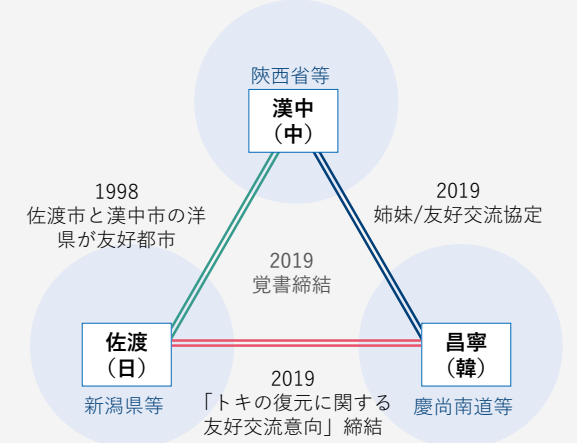
トキを通じた3市・郡協力の多様化

新潟県佐渡市（日本）、陝西省漢中市（中国）、慶尚南道昌寧郡（韓国）の3市・郡は、トキの生息地として、県省道を含め、交流を深めている。

かつて、トキは日中韓等で広く生息していたが、乱獲等により絶滅の危機に瀕していた。実際、韓国では1979年に非武装地帯で目撃されたのを最後に、絶滅したとみられており、日本でも2003年に日本生まれのトキは絶滅した。一方、中国では絶滅したとみられていたトキが1981年に発見され、増殖に成功した。国レベルの友好の証として、99年に中国から日本に2008年には韓国にトキのつがいが贈呈され、それぞれ増殖に成功した。

以降、三国協力として、2012年からトキの野生復帰や生息地管理等に関する国際会議が行われ、2都市間での協力が進んだ。

2019年7月に行われた「トキ国際フォーラム」においては、トキの保護、野生復帰、生殖地保護・復旧の分野で交流を持続的に促進し、これを土台に人的交流、エコツーリズム、観光産業の振興など、3者間の交流強化のための覚書が締結された。



▶  
2019年7月の覚書署名式  
左から日中韓三国協力事務局長、昌寧郡守、漢中市副市長、佐渡市長

出典  
日中韓三国協力事務局



1999年、2008年：中国から日本、韓国にトキ寄贈

日本は、1985年より中国からトキを借り受ける等により日本のトキとのペアリングを試みたが成功していなかった。98年11月、江沢民国家主席が国賓として訪日をした際に天皇陛下にトキのつがいの贈呈を表明、99年1月に佐渡に到着し、その後増殖に成功した。韓国は、2008年5月に李明博大統領が国賓として訪中した際に胡錦涛国家主席より同大統領にトキのつがいの贈呈を表明し、同年11月に韓国・昌寧郡に到着、増殖に成功した。

## 2012年～：トキ保護増殖事業のための日中韓の情報共有

日中韓3か国において、トキの保護増殖事業に携わっている各国の関係者が集い、トキの保護の現状などを報告するとともに、情報の共有を図るため、国際会議やシンポジウムを行っている。最近の事例として、2014年11月に中国、16年12月に日本、19年5月に韓国にて実施されている。

## 2018年～：中国で第1回トキ国際フォーラム開催、2019年に交流を本格化させるため覚書を締結

2018年5月、陝西省漢中市洋県にて、日中韓のトキに携わる関係者らが各地の取り組みを紹介する初の「トキ国際フォーラム」が実施された。同フォーラムは、トキの保護に関する協力にとどまらず、トキを媒介として産業、観光、文化交流等幅広い交流を旨とするために企画されたものである。

2019年7月11日、韓国ソウルにて、日中韓三国協力事務局主催、中国・トキ国際フォーラム事務局共催で「トキ国際フォーラム2019 inソウル」が開催された。2019年は、韓国で初めて野生放鳥に成功した記念すべき年であり、初の日中韓首脳会合から20周年でもあることから、日中韓三国協力事務局が所在する韓国ソウルで実施する運びとなった。

同フォーラムにおいては、三浦基裕佐渡市長、張建国（ジャン・ジエングオ）漢中市副市長、韓理宇（ハン・ジョンウ）昌寧郡守及び李鍾憲（イ・ジョンホン）日中韓三国協力事務局事務局長による覚書が締結され、今後、トキに関連した行事を実施していくこと等、トキを媒介にした文化、観光、青少年交流など様々な交流を実施していくことにつき合意された。各セッションでは、トキを通じた地方交流や観光の活性化について議論がなされた。また、本フォーラムに併せて日中韓のトキ生息地の子ども交流プログラムが実施され、同フォーラムの午後にはセッションに先立ち、3か国の子どもたちによる公演が行われた。



▶ 2019年ソウルのフォーラムで韓国のトキの童謡を歌う日中韓の子どもたち

出典  
日中韓三国協力事務局

これまでの実績			
回	日程	開催地	テーマ
第1回	2018年5月22～24日	中国・陝西省漢中市	トキの縁で共に未来を創ろう
第2回	2019年7月11日	韓国・ソウル市	新たな旅立ち・新たな高みへ：トキを通じた持続的な日中韓三国協力に向けて
第3回	2022年 [予定]	日本・新潟県佐渡市	

## 2019年5月：3か国の来賓が見守る中、韓国で初の野生放鳥に成功

2019年5月22日、韓国における唯一のトキ生息地である慶尚南道昌寧郡において、長年の念願であった野生放鳥が実現した。放鳥式には日本と中国の来賓が出席した。出席した佐渡副市長と昌寧郡守との間で、「トキの復元に関する友好交流意向」を締結した。また、翌23日、同郡にて、トキの増殖や野生復帰のための日中韓シンポジウムが実施された。

## 2021年5月：トキ発見記念40周年日中韓オンライン記念イベント開催

2021年5月21日、新潟県・中国陝西省・韓国慶尚南道道庁は「未来に向けて：トキ発見記念40周年日中韓オンライン記念イベント」を共同開催した。佐渡市・漢中市・昌寧郡の実務関係者はオン・オフラインでトキの保護経験及び未来のビジョンについて発表し、日中韓学生のトキ童謡公演を実施した。

▶ 「未来に向けて：トキ発見記念40周年日中韓オンライン記念イベント」現場の姿

出典  
中国陝西省



▶ 「未来に向けて：トキ発見記念40周年日中韓オンライン記念イベント」にてトキの童謡を歌っている中国の学生達の姿

出典  
中国陝西省

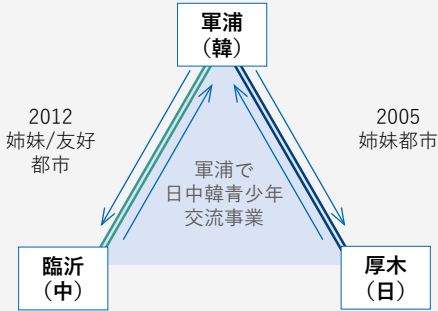


### 軍浦市が中心となり、2010年より3都市青少年交流事業を運営

京畿道軍浦市（韓国）は、同市が主導する形で、2010年より神奈川県厚木市（日本）及び山東省臨沂市（中国）と3都市間青少年交流事業を開始し、現在まで継続している。2010年の開始時点で、軍浦市は厚木市と友好都市（2005年締結）、臨沂市とは2008年より交流関係にあった（その後、2012年に姉妹/友好都市関係締結）。

軍浦市は、厚木市及び臨沂市との間で、青少年の派遣と招へいを毎年1回ずつ実施しており、軍浦から派遣する際は、2都市間での交流事業となっているが、招へいする際は、同時期に両都市から青少年を招へいすることにより、3都市による「国際青少年フェスティバル」と題する日中韓青少年交流事業を成立させている。

日中韓3都市間で姉妹/友好締結が成立していない場合にも、日中韓交流の実施が可能であることを示す好事例と言える。



これまでの開催状況

回	日程	参加国
第1回	2010年7月23～29日	日本・中国・韓国
第2回	2011年7月21～29日	日本・中国・韓国
第3回	2012年7月20～30日	日本・中国・韓国・ロシア（ウスリースク）
第4回	2013年7月22～28日	日本・中国・韓国・ロシア（ウスリースク）
第5回	2016年7月25～30日	日本・中国・韓国
第6回	2017年7月25～31日	日本・中国・韓国
第7回	2018年7月23～29日	日本・中国・韓国
第8回	2019年7月20～25日	日本・韓国
第9回	2022年[予定]	



「2019 軍浦国際青少年フェスティバル」K-POP教室

写真提供  
軍浦市

### 2010年～：軍浦市主催で「国際青少年フェスティバル」実施

2010年7月、軍浦市の主催により厚木市・軍浦市・臨沂市の3都市から青少年が集まり、第1回「軍浦国際青少年フェスティバル」が開催された。第1回以来現在に至るまで、プログラムの大枠は、①軍浦市の参加学生の家で日中の学生がホームステイ（近年は3泊）、②全体合宿を通じた交流（近年は1泊）、③市長等への表敬、④韓国語教室、K-POP、伝統的な礼儀作法、陶芸などの文化体験及び見学等で構成されている。軍浦市で募集される学生（中学高校生）は、日中それぞれの言語に関心のある人々が別に募集され、同フェスティバル実施後、厚木市（近年は翌年1月）又は臨沂市（近年は8月）を数日間訪問することも定例化している。

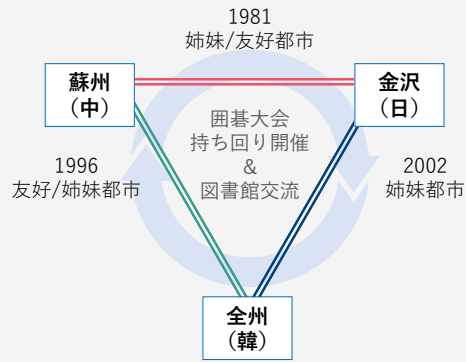
かなざわ 金沢市 (日) — スーチョウ 蘇州市 (中) — チョンジュ 全州市 (韓)

囲碁と図書館を通じたトライアングル交流

石川県金沢市（日本）、江蘇省蘇州市（中国）、全羅北道全州市（韓国）の3市は、「ユネスコ創造都市ネットワーク(UNESCO Creative Cities Network)」指定都市という共通点がある。金沢市と蘇州市は「クラフト&フォークアート」、全州市は「食文化」の分野で創造都市として指定されている。

3市での交流は、金沢市及び蘇州市が1981年に姉妹/友好都市締結、蘇州市と全州市が96年に姉妹都市締結、金沢市及び全州市が2002年に姉妹都市締結したことから始まる。2010年から囲碁交流を、2015年以降は図書館交流をそれぞれ開始した。姉妹都市関係を基盤として、2013年から15年にかけて金沢海みらい図書館、蘇州図書館及び全州市の完山図書館は、2館間で友好協力に関する覚書をそれぞれ締結し、3館間によるトライアングルの協力構図も完成した。

なお、金沢市は2018年に「東アジア文化都市」として、中国のハルビン市及び韓国の釜山広域市とともに、1年間にわたり多彩な文化交流活動を展開した。



2010年～：日中韓姉妹都市囲碁親善大会を隔年開催

囲碁の交流は、2009年に金沢市が提案し、2010年に蘇州市で第1回を開催、以後持ち回りで実施している。第1回から第3回までは毎年実施し、第4回から隔年実施となった。金沢市側は民間団体（金沢国際囲碁協会）が主催で実施している一方、蘇州市及び全州市は行政が主催者となっている。2018年の第6回大会には金沢市から10人、蘇州市から10人、全州市から20人の全40人のアマチュア選手が参加した。

これまでの開催実績

回	開催年	開催地	回	開催年	開催地
第1回	2010年	蘇州市	第5回	2016年	金沢市
第2回	2011年	金沢市	第6回	2018年	全州市
第3回	2012年	全州市	第7回	2022年[未定]	蘇州市[未定]
第4回	2014年	蘇州市			

2018年日中韓姉妹都市 囲碁親善大会の様子

写真提供 全州市



2013年～：3市図書館が交流協力の了解覚書を締結し、図書館交流を開始

友好/姉妹都市関係を背景として、2013年12月、金沢海みらい図書館と蘇州図書館は、友好交流協力に関する覚書を締結した。翌2014年9月には蘇州図書館と完山図書館が、2015年10月には金沢海みらい図書館と完山図書館もそれぞれ覚書を締結し、3図書館間で、トライアングル協力の構図が完成した。金沢海みらい図書館と完山図書館は2017年から2年周期で相互に図書交換事業を推進している。

その後の3館としての主な交流事業としては、以下のものが挙げられる。

(1) 2016年10月6日～25日

金沢海みらい図書館は蘇州図書館と完山図書館の協力のもと、蘇州市及び全州市を紹介する文化紹介展示事業を実施した。期間中には、子どもに本を推奨するための企画「日本・中国・韓国にみる家庭でできる子どもの読書推進」を実施した。

(2) 2017年6～8月

金沢海みらい図書館と完山図書館は、両者が基本同意書を締結した後、初の図書交換を行った。6月には完山図書館から金沢海みらい図書館へ全州市を紹介する書籍、当時のベストセラー、韓国文化に関連する図書など43冊を寄贈し、8月には金沢海みらい図書館から完山図書館へ金沢市の歴史や文化にまつわる書籍50数冊を寄贈した。

(3) 2018年3月～2019年2月

海みらい図書館は蘇州図書館と約100冊の図書を交換した。海みらい図書館は2018年3月に日本の文化・経済・郷土・児童関連書籍を寄贈し、蘇州図書館からは2019年2月に海みらい図書館へ中国の歴史・文化関連書籍を寄贈した。

(4) 2018年10月11日～30日

金沢海みらい図書館は蘇州図書館と完山図書館の協力で、「金沢市図書館と姉妹都市図書館 交流のあゆみ」を実施した。蘇州市及び全州市の概要、文化・伝統工芸、各市図書館、「日本・中国・韓国 子ども童話交流事業」について、パネルや工芸品、関連図書等の展示を通して紹介。期間中には、「絵本と歌でつなぐ三都物語 ～金沢・蘇州・全州～」と題する絵本づくりのワークショップや音楽会が行われた。

(5) 2019年4月9日～2020年6月

金沢海みらい図書館から金沢市の東アジア文化都市2018事業の一環で開催された「絵本と歌でつなぐ三都物語 ～金沢・蘇州・全州～」で展示された6冊の図書（「日本・中国・韓国童話集1～3」、「日本・中国・韓国こども童話交流事業報告書2015～2017」）を蘇州図書館と完山図書館に寄贈した。翌年の2020年6月には完山図書館から韓国全州市を紹介する書籍・ベストセラー・ポップカルチャーに関連する書籍など50数冊を金沢海みらい図書館へ寄贈した。

(6) 2019年12月10～11日

蘇州図書館の第二図書館の開館式を記念して、3図書館の関係者による交流会を開催した。約20人の日中韓図書館関係者が出席し、各国の図書相互貸借制度の運営状況と発展方向に関しての情報共有が行われた。

(7) 2021年2～4月

金沢海みらい図書館は、2021年2月蘇州図書館へ郷土・日本文学・児童関連書籍を50冊送付し、同年4月蘇州図書館からも金沢海みらい図書館へ出版物を寄贈した。

(8) 2021年7月22～27日

金沢市と蘇州市の姉妹都市提携40周年記念を迎え、金沢海みらい図書館にて「蘇州・金沢交流展」が開催された。本交流展では、蘇州市の8種類の工芸品37品を中心に金沢市と蘇州市の交流写真展や蘇州市の風景写真展などが同時に実施された。展示期間の24～25日の二日間は2回に渡り金沢市の市民を対象に中国紙工芸「剪纸」講座も開かれた。



◀ 姉妹都市提携40周年記念「蘇州・金沢交流展」広報ポスター

出典  
金沢市

◀ 姉妹都市提携40周年記念「蘇州・金沢交流展」に展示された蘇州工芸品

出典  
蘇州市

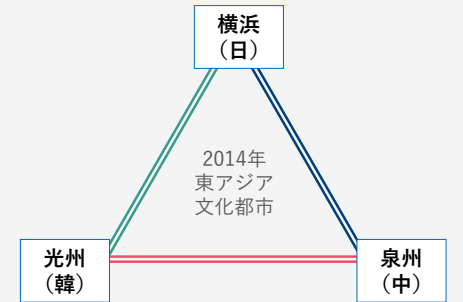


よこはま 横濱市 (日) - 泉州市 (中) - 光州広域市 (韓) - 2014年 東アジア文化都市

「東アジア文化都市2014」

神奈川県横浜市（日本）、福建省泉州市（中国）、光州広域市（韓国）の3都市は、2014年の1年間、初代「東アジア文化都市」として多彩な交流事業を展開した。同年11月、3市の市長は「東アジア文化都市 友好協力都市協定」に署名し、今後も3都市間の文化・芸術・観光等、多方面の分野で交流を継続し、共に発展することを約束した。

この3都市は、この協定に基づき、2015年以降も活発に交流を継続している。主な取組みとして、それぞれの都市で年間1回ずつ他の2都市の代表団を招へいする形で文化交流や青少年交流を実施している。各都市で実施する大型文化行事に芸術団が参加する機会が多い。



「友好協力都市協定」締結、交流の継続に合意

2014年から始まった「東アジア文化都市」の初代開催都市として、横浜市、泉州市、光州広域市は、多彩な文化芸術事業を通じて1年間活発に交流を行った。同年11月の横浜閉幕式典のタイミングに合わせ、同月18日、3都市間で「東アジア文化都市 友好協力都市協定」を締結した。この協定は3都市が初代東アジア文化都市として1年間構築してきた友好関係を維持し、文化・芸術・観光分野での継続と交流を発展させるという目的で締結された。協定の内容は以下のとおりである。

1. 相互主義の原則に従った交流と友好の促進。
2. 文化・芸術団体、企業、市民など民間レベルの交流活性化に向け努力。
3. 東アジア文化都市発展のため互いの経験を共有し、協力して事業を推進するよう努力。
4. 3都市の代表と関係部署が緊密な関係を維持し、交流、協力業務、共通関心事項につき協議。



## 2015年の主な交流活動

### 中核事業

開催地	内容
横浜	8月：「横浜ダンスパレード」に泉州、光州の芸術団が参加
光州	9月：「日中韓書道交流展」開催、泉州、横浜、清州、青島、新潟の6つの東アジア文化都市で活躍する作家23人を招待、全61点の作品を展示
光州	10月：「思い出の7080忠壮祭り」に横浜（公演とパレード）、泉州（人形劇）の芸術団が参加
泉州	11月：「第14回アジア芸術祭」に横浜、光州の芸術団が参加

### その他事業事例

開催地	内容
横浜	11月：光州広域市と国際女性美術交流協会（韓国）からの呼びかけにより、横浜のBankART Studio NYK（横浜の「創造界隈拠点」の一つ）、国際女性現代アート・フォーラム及び美術展を実施
光州	11月～12月：光州市立美術館にて、BankART 1929の活動を紹介する展覧会を実施
光州	12月：金大中コンベンションセンターで泉州と「光州—泉州メディア交流イベント」実施、両都市間の相互記者派遣と文化関連内容の取材時の協力事項等を議論

## 2016年の主な交流活動

### 中核事業

開催地	内容
光州	6月：「国立アジア文化殿堂フリンジフェスティバル」に横浜、泉州の芸術団が参加
横浜	9月：「横浜音楽祭2016」に泉州、光州の芸術団が参加するとともに、学校訪問も実施
泉州	10月：「第2回海上シルクロードフェスティバル国際演劇展」に横浜、光州の芸術団が参加



2016 横浜音楽祭での光州芸術団の公演

写真提供  
横浜市

### その他事業事例

開催地	内容
横浜・光州	1～3月：「黄金町×光州AIR交換プログラム2016」を開催し、横浜と光州のアーティストを派遣し合うプログラムを実施
光州	7月：「東アジア文化都市 建築フォーラム」に横浜市が参加

## 2017年の主な交流活動

### 中核事業

開催地	内容
光州	6月：「光州アジア文化殿堂インターナショナルフリンジフェスティバル」に横浜、泉州の芸術団が参加
横浜	8月：「東アジア文化都市2014横浜」青少年文化交流を実施。日中韓の高校生と教師36人が横浜に集まり、「ヨコハマトリエンナーレ2017」鑑賞や、日本文化体験等を通じて交流
泉州	12月：「第3回海上シルクロード国際芸術祭」に横浜、光州の芸術団が参加

### その他事業事例

開催地	内容
光州	11月：「東アジア文化都市ネットワークフォーラム」に横浜、泉州を含む歴代「東アジア文化都市」及び学会専門家が参加

泉州のイベントにおける横浜の公演団

写真提供  
横浜市



## 2018年の主な交流活動

### 中核事業

開催地	内容
光州	7月：「2019光州世界水泳選手権大会大国民ハンマダン」を実施 横浜、泉州の芸術団が参加
横浜	9月：泉州、光州の芸術団が「Dance Dance Dance @YOKOHAMA 2018」等のイベント出演及び学校訪問
泉州	11月：「東アジア文化都市・中日韓都市美術作品展」を実施。期間中に横浜、光州から派遣されたアーティストが現地で制作活動を行う等、交流を深めた



### その他事業事例

開催地	内容
横浜・光州	1月～3月：「黄金町×光州AIR交換プログラム2017」を開催し（注：「2017」は日本の会計年度によるもの）、横浜と光州のアーティストを派遣し合うプログラムを実施。2018年11月～2019年2月に同プログラム2018を実施
泉州	2月～3月：「黄金町×泉州 アートのまちづくりプログラム」泉州海外交通史博物館にて、横浜の初黄・日ノ出町地区における「アートによるまちづくり」の取組みの資料展示及びトークイベントを実施
光州	9月：「東アジア文化都市ネットワーク・メディアフォーラム」に横浜、泉州を含む歴代「東アジア文化都市」に拠点を有するメディアが参加

◀ 横浜のイベントにおける中国公演団

写真提供  
横浜市

▶ 泉州市の行事に参加した光州公演団

写真提供  
アジア文化センター都市造成支援フォーラム(ACCF)

▶ 光州の行事に参加した横浜公演団

写真提供  
アジア文化センター都市造成支援フォーラム(ACCF)

## 2019年の主な交流活動

### 中核事業

開催地	内容
光州	7月：「2019光州FINA世界水泳選手権大会」を実施祝賀公演に横浜、泉州、済州（2016年文化都市）の芸術団が参加
横浜	9月：「横浜音祭り2019」に横浜、泉州、済州の芸術団が参加
泉州	11月：「第4回海上シルクロード国際芸術祭」を実施 一帯一路の芸術公演ワークショップイベントに横浜、光州、清州（2015年文化都市）、済州の芸術団が参加



### その他事業事例

開催地	内容
横浜	1月：「黄金町×泉州 アートのまちづくりプログラム2018」を実施。泉州よりアーティスト等を招へいし、資料展示及び
横浜・光州	7月～8月：「黄金町×光州AIR交換プログラム2019」を開催し、横浜と光州のアーティストを派遣し合うプログラムを実施
光州	10月：「2019アジア文化フォーラム」にて「空間とコミュニティ、路地の再発見」というテーマで東アジア文化都市特別セッションを実施

## 2020年の主な交流活動

### 中核事業

開催地	内容
横浜・泉州・光州 (オンライン)	11月～12月：横浜市・中国泉州市・韓国光州広域市の3都市が東アジア文化都市広報映像「映像芸術でご挨拶(Communication by Arts)」を共同制作し、YouTubeにて公開



### その他事業事例

開催地	内容
横浜・光州 (オンライン)	1～3月：既存の「AIR交換プログラム」に替え「黄金町×光州 オンライン交流プログラム」を実施し、芸術家たちによるオンライン会議を通じて作品を制作し、黄金町と光州でそれぞれ成果展示会を開催

◀ 東アジア文化都市2014が共同制作した広報映像「映像芸術でご挨拶」の導入部画面

写真提供  
アジア文化都市造成委員会  
(ACCF)

## 2021年の主な交流活動

### 中核事業

開催地	内容
横浜	7月～11月：「Dance Dance Dance @YOKOHAMA 2021」に泉州・光州の芸術団が映像出演。日韓・日中チームがオンライン合同練習を通じて、オン・オフライン創作ダンス公演を実施
光州	11月：「日中韓文化都市アマチュア声楽コンクール」に横浜・泉州推薦の声楽家映像出演
光州	8月～11月：横浜・泉州の協力のもと、東アジア文化都市観光映像を制作し、地域放送局及びYouTubeで放映・公開

▶ 「Dance Dance Dance @ YOKOHAMA 2021」に参加した日韓チーム合同公演の様子

出典  
横浜市



### その他事業事例

開催地	内容
光州	10月：「2021アジア文化フォーラム」の「脱境界時代：都市と青年文化」をテーマにしたセッションにて、横浜・泉州の講師による映像講演
泉州	11月～2022年1月：「国民大祭り」に青森・対馬・東京、中国の上海・寧波・海南、韓国の光州・清州・大邱など地域より映像を通じた公演及び写真展

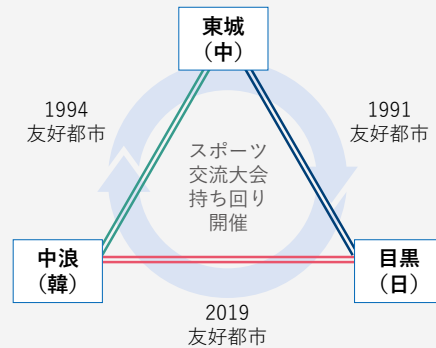
めぐろ ドンジョン チュンナン  
**東京都目黒区（日）—北京市東城区（中）—ソウル特別市中浪区（韓）**

**前例のない「区」同士のトライアングル交流**

東京都目黒区（日本）、北京市東城区（中国）、ソウル特別市中浪区（韓国）の三区は、2017年からスポーツ交流事業を開始した。「区」同士のトライアングル交流は、これまで前例がなく、また、姉妹都市や友好都市関係のトライアングルが完全に形成される以前からこのような交流が開始していた点も注目に値する。

三区の交流は、目黒区及び中浪区が、90年代からそれぞれ北京市東城区と友好都市関係であったことに由来する。この縁で、目黒区及び中浪区は、2010年に交流を開始し、2013年には「友好増進及び交流協力覚書」が締結された。

三区による中学生スポーツ交流は、2015年に提案がなされ、翌2016年に実施合意、2017年度から開始となった。その後、目黒区と中浪区の姉妹締結に向けた調整も本格化し、2019年7月に友好都市締結が実現した。また、今後は、スポーツ分野だけではなく、文化交流の分野への拡大について検討されている。



2019年バスケットボール親善競技の様子

写真提供  
中浪区庁

**2016年7月：「三区間協議」にて、中学生のスポーツ交流実施で合意**

2016年7月、東城区長の招へいにもとづき、3区間の交流事業の実現と、継続した友好交流関係を築くため、目黒区及び中浪区の代表団が訪中し、3区の実務者による三区間協議を実施した。この協議の結果、①2017年度に次代を担う青少年たちたちによるスポーツ交流を行うこと、②実施場所は東城区にすること、③対象は中学校2学年の男子生徒とすることなど、今後の交流事業実施の大枠について合意し、詳細について今後実務者レベルで協議していくこととなった。

**2017年7月：第1回「三区間スポーツ交流事業」が東城区で開催**

2017年7月25日から29日にかけて、第1回の三区間スポーツ交流事業が実施された。この事業は次世代を担う青少年がスポーツを通して、相互理解を促進し、三区間の交流を持続的に推進するという目的で実施された。主な日程は以下の通り。

日程	内容
7月25日(火)	目黒区・中浪区一行、北京着 歓迎晩餐会
26日(水)	三区間バスケットボール大会開会式 第1試合（東城区対中浪区） 第2試合（目黒区対東城区）
27日(木)	第3試合（目黒区対中浪区） 三区間バスケットボール大会閉会式 中国伝統文化体験（うちわづくり、お面の絵付け、北京市第五中学校訪問） 東城区内見学（南鑼鼓巷） 送別晩餐会（東城区人民代表大会主任主催）
28日(金)	三区の学生が共に北京市内を視察（故宮他）
29日(土)	北京発

目黒区作成の事業報告書は、本件事業の成果として、目黒区から参加した区立学第2学年12人の生徒にとって、バスケットボールという共通のルールに基づいたスポーツを通じて、三国の歴史や文化、言葉や考え方の違いなどを超えて、互いを理解し交流を深めることで、国際人として未来に羽ばたいていくための貴重な経験となったと書き記している。各生徒の感想文をみると、「相手国に対するイメージが改善した」「中国、韓国に対する興味をもつようになった」との意見がみられた。との意見がみられた。印象的なエピソードとしては、試合中に日本人選手が中国人選手に押されて転倒したところ、そのファウルをした選手が立ち上がる手助けをしてくれたことに、国が違っても、日本人と同じような優しさを感じられ、嬉しく感じたというものがあり、複数の生徒が紹介をしていた。言語面では、①言葉が通じなくてもプレーを通じて友達になれることに気づいた、②晩餐会では片言の英語とジェスチャーを通じて交流ができた、③英語や他国の言語を学ぶことが大切だと感じた、などといった意見がみられた。

## 2018年7月：第2回「三区間スポーツ交流事業」が目黒区で開催

2018年7月24日から27日にかけて、2回目の三区間スポーツ交流事業が目黒区で実施された。前年同様、中学校第2学年男子生徒によるバスケットボールの試合が行われた。

参加した生徒からは、「大好きなバスケット交流できるというのはすごい光栄なこと」（目黒区選抜チーム・キャプテン）、「言葉の交流ではなくスポーツでの技術交流ができ、日本選手からいいところを学ぶことができた」（東城区チーム・キャプテン）、「歓迎会で（日本と中国の）友達が増えた。今後も付き合いを続けていきたい」（中浪区チーム・キャプテン）などの所感があった。

### [コラム：言葉が通じない学生たちが交流するために]

3か国の中学生たちは、お互い言葉も通じず、国際交流の経験もない者も多く、最初はなかなかお互いに打ち解けることができない。この問題を解決するために、主催者は、ゲームを通じた「アイス・ブレイキング」に成功した。

そのゲームは、全試合終了後に行われた。大好きなバスケットボールを通じて、選手たちがより交流を深めることのできる取組みとして、国の枠を超えて、混合チームを6つ作り、フリースローによる交流ゲームを行ったのだ。チームごとに話し合い、「投げ役」と「拾い役」に分かれて、1分間に何ゴール入るかを競い合った。言葉は通じなくともジェスチャーで意思を伝え、バスケットボールのゲームを通してお互いの距離が縮まり、この後のグループでの交流活動をスムーズにするきっかけをつくることができた。フリースローの結果は、この日の夕食時に発表し、同点一位が出たため、三国共通の「じゃんけん」を通じて決着をつけるなどし、大いに盛り上がった。

食事の席でも、3国の中学生たちが固まらないように工夫し、最初はコミュニケーションができずに困っていた者たちも、通訳の手を借りたり、片言の英語で頑張ったり、ジェスチャーを使ったりして次第に打ち解けていくことができた。携帯電話にあらかじめ自動翻訳機のアプリを入れておき、意思疎通を楽しむ者もいる等、今の時代ならではの工夫をした者もいたという。

## 2019年7月：第3回「三区間スポーツ交流事業」が中浪区で開催、目黒区と中浪区が友好都市協定を締結

3回目の三区間スポーツ交流事業は、2019年7月23日から26日にかけて、中学校男子生徒によるバスケットボール試合がソウル市中浪区で実施された。

参加した生徒達は、試合のみならず、中浪区に所在する「龍馬滝公園」を訪問、東アジア最大規模の人工滝を見学し、クライミング経験を共に行うことにより、交友を深めた。また、「中浪体験の森」でジップライン体験、「オンギ（味噌甕）テーマ公園」で韓紙工芸、木工芸体験等の文化体験を一緒に行き、思い出づくりの機会となった。

25日には、三区の代表団が集まり、次回の交流種目としてバドミントンを選定した。26日には、青木英二目黒区長と柳昶基（リュウ・ギョング）中浪区庁長との間で友好/姉妹都市協定の締結が行われた。これをもって、目黒区、中浪区、東城区の3区で友好都市のトライアングルが確立された。

2019年に日中韓3区の代表  
が集まり協議する様子

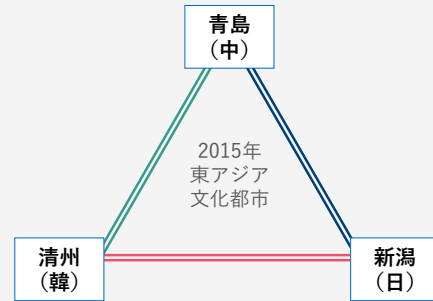
写真提供  
中浪区庁



「東アジア文化都市2015」

新潟県新潟市（日本）、山東省青島市（中国）、忠清北道清州市（韓国）の3都市は、2015年の1年間、「東アジア文化都市」として多彩な交流事業を展開した。

2015年の閉幕にあたり、3都市は共同宣言文を採択して継続的な友好・交流を促進していくことで合意した。以降、青少年交流事業（夏の短期交流プログラム）及び文化交流事業（代表的なフェスティバルの公演団派遣）を中心に活発に交流してきた。新型コロナウイルスの影響で青少年交流事業はオンライン形式に、文化交流事業は相互映像交換の形式に切り替わり継続されている。



2015年12月：「2015東アジア文化都市共同宣言」採択、交流継続に合意

新潟市、青島市、清州市は「2015東アジア文化都市青島閉幕式」で継続的な東アジア文化都市交流と協力を約束する共同宣言文を採択し、署名式を行った。共同宣言文は以下のとおり。

1. 3都市は相互協力のもと、文化・芸術分野などにおいて継続的に交流と友好を促進するとともに、民間レベルによる交流の活性化を図る。
2. 東アジア文化都市発展のためお互いの知見や経験を共有し、協力して事業を促進するよう努める。
3. 歴代の東アジア文化都市をはじめとした新たなネットワーク構築を視野に入れて協力連携し、文化の力による社会的課題の解決に貢献する。

2016年～：夏季青少年交流プログラム運営

新潟市、青島市、清州市は文化都市に選定された2015年以降も相互派遣を通して青少年交流事業を継続している。例年、あらかじめ規模・時期・参加青少年の年齢などを決め、夏季休暇中に各都市で3～5日間の短期交流プログラムを実施している。

2016年

主催	日程	参加者
新潟市	7月26日～28日	3市から青少年各15人
清州市	7月30日～8月2日	3市から青少年各15人
青島市	8月10日～13日	3市から青少年各15人

2017年

主催	日程	参加者
新潟市	7月25日～28日	新潟市及び清州市から青少年各15人
清州市	7月30日～8月1日	新潟市及び清州市から青少年各15人

2018年

主催	日程	参加者
新潟市	7月28日～31日	新潟市及び清州市から青少年各15人
清州市	8月1日～4日	新潟市及び清州市から青少年各15人

2019年

主催	日程	参加者
新潟市	7月27日～30日	・新潟市及び青島市の青少年が参加 ・農業やマンガ・アニメなど新潟市の文化体験を通じた交流
清州市	8月1日～5日	・3市の青少年が参加 ・伝統楽器体験、文化施設見学等を通じた交流
青島市	8月11日～15日	・青島市及び清州市の青少年が参加（台風の影響により新潟市は不参加） ・伝統工芸体験、文化施設見学等を通じた交流



2019清州市主催青少年文化交流プログラム参加者たちの姿

写真提供  
清州市



2020清州市主催青少年オンライン文化交流プログラム参加者たちの姿

出典  
新潟市



2020清州市主催青少年オンライン文化交流プログラム参加者たちの姿

出典  
青島市



2020年(予定)

主催	日程	参加者	内容
新潟市・清州市	10月17日	新潟市・清州市青少年各5人	・新型コロナウイルス感染症によりオンライン文化交流開催(映像交換)
青島市・清州市	10月24日	清州市・青島市青少年各5人	・参加者による各交流都市の都市文化、観光地、飲食等についての発表及び学校生活を中心としたテーマのフリートーク、感想発表、お菓子と記念品の交換等
新潟市・青島市	10月24日	新潟市・青島市青少年各5人	

2021年

主催	日程	内容
新潟市・清州市	7月27日 (1回目) 8月11日 (2回目)	・青少年オンライン文化交流プログラム開催 ・新潟市青少年20人(各回当たり10人)、清州市青少年10人参加 ・参加者による自己紹介、各都市及び飲食文化についての発表及び質疑応答、ゲーム、ドラマ、おやつ、教育、学校生活、オリンピック等様々なテーマを用いたフリートーク及び感想発表等
青島市・清州市	7月31日	・青少年オンライン文化交流プログラム開催 ・清州市10人、青島市10人参加 ・参加者による自己紹介、都市紹介、ドラマ、芸能人、流行り言葉、学校生活、外国語学習、飲食等様々なテーマについてのフリートーク及び感想発表等
新潟市・青島市	7月31日	・新潟市青少年7人、青島市7人 ・参加者による自己紹介、自都市の文化、観光スポット、食べ物等の紹介、フリートークや感想発表等
清州市	10月12日 ～31日	・青少年オンライン文化交流写真展 ・青少年オンライン文化交流プログラムに参加した三都市の青少年達が出品した都市紹介写真54点をオンラインで展示

2020清州市主催青少年オンライン文化交流プログラム参加者たちの姿

写真提供  
清州市





◀ 2021 青少年オンライン文化交流写真展  
清州市

写真提供  
清州市



◀ 2021 清州市主催のオンライン文化交流プログラムでパフォーマンスを披露する中国参加者の姿

出典  
青島市

### 2022年（予定）

主催	日程	内容
新潟市	1月～	・オンライン文化交流展関連写真を新潟市多数の展示場でパネル形式で展示
新潟市・青島市 ・清州市	未定	・青少年オンライン文化交流

## 2016年～：公演団の相互派遣を通じた連携、文化交流

3都市は、各都市の代表的な行事に公演団を相互派遣し、イベントの国際化を図る一方、文化芸術を通じた市民レベルでの相互理解も促進している。その他、清州市は済州特別自治道、光州広域市、中国の泉州市等の歴代東アジア文化都市とも活発な文化交流を実施してきた点が注目されている。

### 2016年

主催	日程	内容
新潟市	8月4～8日	「新潟まつり」に青島市、清州市から伝統芸能団等を招待
清州市	11月9～12日	「2016年箸フェスティバル」に新潟市から太鼓演奏グループ等を招待

### 2017年

主催	日程	内容
新潟市	8月4～7日	「新潟まつり」に清州市及び済州道（韓国、2016年東アジア文化都市）から伝統芸能団等を招待
清州市	11月9～12日	11月10日～19日に開催された「2017年箸フェスティバル」に新潟市太鼓演奏グループを招待

### 2018年

主催	日程	内容
新潟市	8月10～13日	「新潟まつり」に合わせて清州市から伝統芸能団等、済州道からK-POPダンスグループを招いて公演等を実施
清州市	9月7～10日	9月9日～16日に実施された「2018年箸フェスティバル」に新潟市から太鼓演奏グループ等を招待

### 2019年

主催	日程	内容
新潟市	8月10～11日	「新潟まつり」に青島市から伝統芸能団等を招いて公演を実施
清州市	9月20～22日	「2019年箸フェスティバル」に新潟市、青島市、光州市・泉州市（2014年文化都市）、済州道（2016年文化都市）の伝統芸能団を招待
青島市	10月25～28日	26日「2019東アジア文化都市（青島）と“楽しい青島”広場ウィークフェスティバル」閉幕式に新潟市と清州市の伝統芸能団を招待 27日には東アジア文化都市実務者会議を開催





◀ 清州市主催「2019年箸フェスティバル」に参加した新潟市伝統芸能団

写真提供  
清州市



◀ 青島市で開催された「2019東アジア文化都市実務者会議」

写真提供  
青島市

### 2020年

主催	日程	内容
新潟市	6月16日～9月14日	東アジア文化都市交流事業パネル展（複数の会場にて開催） 各都市の独自文化を生かした芸能パフォーマンス動画を撮影し、各都市で実施されるイベント等で上映
清州市	10月6日～16日	東アジア文化都市公演映像文化交流（新潟市1編、青島市2編、清州市3編）
青島市	未定	青島東アジア文化都市フェスティバル



◀ 2020年新潟市で撮影され各都市で上映された「にいがた総おどり」のパフォーマンス

出典  
新潟市

### 2021年

主催	日程	内容
清州市	8月25日～12月31日	「2021清州ストーリー映像」（ウェブドラマや日中留学生と共に過ごす「清州ステイ」の紹介）を新潟市、青島市と共有
清州市	11月13日～12月31日	地域芸術文化交流（太平舞や『怪の指輪』等合計12編の公演映像を新潟市公式YouTubeや青島市Weiboに掲載）
新潟市	常時	新潟市の独自文化を生かした芸能パフォーマンス動画「新潟古町芸妓」を撮影し、各都市で実施されるイベント等で上映

▶ 清州市地域芸術公演映像『怪の指輪』南石橋編

出典  
清州市



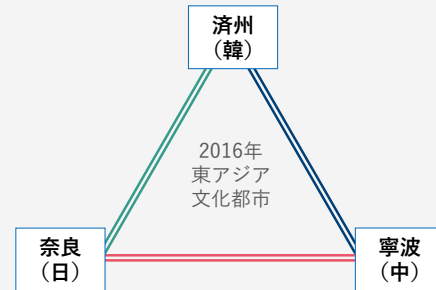
### 2022年(予定)

主催	日程	内容
清州市	未定	2022地域芸術文化交流及び2022都市文化芸術紹介映像文化交流予定

なら ニンポー チェジュ  
**奈良市（日） — 寧波市（中） — 濟州特別自治道（韓）**

「東アジア文化都市2016」

奈良県奈良市（日本）、浙江省寧波市（中国）、濟州特別自治道（韓国）の3都市は、2016年の1年間、「東アジア文化都市」として多彩な交流事業を展開した。閉幕にあたり、3都市は「東アジア文化都市2016奈良宣言」、「東アジア文化都市寧波提議」、「東アジア文化都市2016濟州文化宣言」を採択し、今後の文化交流の継続について約束した。これを受けて、現在3都市は、それぞれの地域で青少年交流事業を実施し、そこにパートナー都市が参加する形態で交流行事を実施している。



一方、濟州道は、各種行事への参加・招待を通じて、別の年の東アジア文化都市との交流も活発に実施しているのが特徴である。また、濟州道は日中韓をテーマにした多様な国際イベントを開催し、東アジア文化都市間に限らず他の日中の都市とも交流を拡大している。寧波市は、濟州道、奈良市における交流行事に青少年を派遣するとともに、同市にて開催される青少年交流プログラム等の行事に奈良市や濟州道の学生を招待している。また、同地で行われた文化行事に奈良市と濟州道の学生を招いた実績もある。



**2016年12月：寧波提議、奈良宣言、濟州文化宣言に署名、交流継続へ**

奈良市、寧波市、濟州特別自治道は2016年東アジア文化都市として活動を終え、1年間の協力を土台に、日中韓の都市の間で持続的な文化交流を行うため、「東アジア文化都市寧波提議」（12月7日）、「東アジア文化都市2016濟州文化宣言」（12月16日）、「東アジア文化都市2016奈良宣言」（12月26日）にそれぞれ署名をした。3都市はこの合意に基づき現在まで活発な青少年交流と文化交流を推進している。

**奈良市による取組み**

**東アジア文化創造NARAクラス**

奈良市は、寧波市及び濟州道の協力のもと、青少年交流事業を実施している。募集した奈良の若者は、まず、講義とガイダンスで日中韓の文化を学ぶと同時に、奈良を海外の人に紹介できるよう学習する。続いて、中韓から招いた若者に、奈良の文化を体験し、相互理解と交流を深める。さらに、希望者は、寧波市又は濟州道を訪問し、各都市で開催される青少年交流プログラムに参加する。最後に、全体の報告会を実施する形となっている。

本プログラムに参加した学生たちを、一定期間に複数の段階で行事に参加させることを通じて、より深く学び、相互理解を増進させる効果がみられる。また、3国で持ち回りで実施するのではなく、パートナー都市が実施する行事への参加を通じて事業を展開している点も特徴である。

**2019年の実施例（2018年以前も実施）**

- ① 「東アジア学びの扉」（6月16日：参加者ガイダンス、7月7日：フィールドワークとワークショップ、7月21日：ワークショップの成果発表会）
- ② 「日中韓 青少年交流プログラムin NARA」（8月24日及び25日、日中韓の大学生と高校生（奈良市から20人、寧波市から10人、濟州特別自治道から10人）が奈良市に集まり、「自身の地域、まちの隠れた魅力」をテーマに、写真+詩+音楽の形式で発表、演劇で意思疎通をするプログラム等、文化交流を実施）
- ③ 「東アジアへの旅」（寧波市青少年交流プログラムへの参加（8月8日～11日）濟州特別自治道青少年文化芸術キャンプへの参加（9月20日～23日）
- ④ プログラム報告会（9月29日）

**2020年の実施例**

オン・オフライン開催。新型コロナウイルスの感染拡大により当該年度は寧波市の「日中韓交流プログラムin Ningbo」及び濟州特別自治道の「日中韓文化都市濟州青少年文化キャンプ」と連携し3都市が共同主催した。

- ① 参加者ガイダンス・3都市交流スタートプログラム（9月21日）：奈良市の大学生や高校生16人、寧波市の大学生や高校生21人、濟州特別自治道の大学生や高校生12人が北九州市で行われた現地参加者ガイダンス・3都市交流スタートプログラムにオフライン参加。
- ② リモート型グループワーク（9月27日、10月24日）：各参加者がテレビ会議の形式で行われたグループワークに参加し、各グループワークの内容が各都市にSkypeで中継された。グループワークは大きく「『コロナ』と私たちの生活 街中リサーチ」、「自分がモデルの観光ポスターを作ろう!」、「私のまちのソウルフード! 作って食べて、料理レポート」といった三つのテーマに分かれる。
- ③ 成果発表会（11月23日）：奈良市の大学生や高校生18人、寧波市の大学生や高校生21人、濟州特別自治道の大学生や高校生12人が北九州市現地にて成果発表会にオフライン参加。



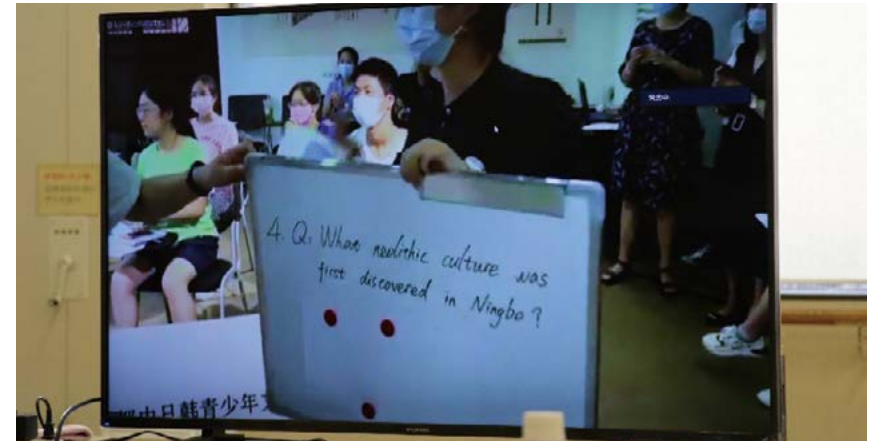
2019年度日中韓青少年交流  
プログラムin NARA

写真提供  
奈良市



2021東アジア文化創造  
NARAクラス

写真提供  
奈良市



### 2021年の実施例（オン・オフライン開催）

1. 参加者ガイダンス・3都市交流スタートプログラム（8月28日、奈良市主催）：奈良市11人、寧波市12人、済州道10人の参加者がオリエンテーション及び自己紹介、都市紹介クイズ等のオンライン活動に参加
2. リモート型グループワーク（9月11日、10月30日、済州道主催）：参加者がグループ別に分かれてオンラインディスカッションに参加
3. 音楽交流プログラム（9月25日、済州道）：3都市に分かれて済州で作曲されたオリジナル曲に作詞する
4. 奈良市アート体験ツアー（10月9日）：参加者限定で奈良市の西大寺などでワークショップを実施
5. 3都市書道交流プログラム（10月23日、寧波市主催）：書道講師によるレクチャーの後、好きな漢字を毛筆
6. 成果発表会（11月13日、済州道主催）：グループワークの成果をPPT形式でグループごとに発表

### 寧波市による取組み

寧波市では寧波国際大学生祭りや青少年交流プログラムなどを通じて、奈良市、済州特別自治道とそれぞれ活発な交流を続けてきた。また、毎年多様なテーマとプログラムに基づいて日中韓交流事業を運営している。

イベント名	日程	内容
寧波国際大学生祭り（済州道の大学生を招待）	2017年6月	2012年から開催されている同イベントは日中韓を含めた約200人の海外大学生と中国内の大学に在学中の留学生が約4日間交流するプログラム。中国文化体験、現地訪問、寧波市の大学生との交流等、様々な活動に参加する
	2018年7月	
	2019年6月	
	2021年4月	
2地域の青少年交流プログラム（奈良市の高校生を招待）	2017年11月	浙江省紡績職業技術学園への訪問、中国書画、伝統工芸等の体験
	2018年9月	博物館、天一閣、寧波市溶鋼職業高等学校への訪問、月餅作り体験
	2019年	「日中韓交流プログラムin Ningbo」として実施（下記参照）

日中韓交流プログラムin Ningbo	2017年11月	「日中韓の陶芸伝承者の展示会」と「日中韓伝統交流」(展示・ワークショップ)
	2018年6月	寧波市象山県第1回海洋漁業文化保護祭に奈良市、濟州道、清州市(2015年文化都市)参加
	2019年8月	「鏡像寧波」*日中韓学生の写真文化交流プログラム開催 専門家と共に寧波の歴史・文化遺跡を見学し、チーム別に撮影した展示作品を発表 *鏡像: 鏡に映して左右が反転している状態
	2020年9~11月	「初心・愛心・童心」をテーマに、奈良市・寧波市・濟州道から各20人の大学生と高校生混合チームが結成され、毎月オンライン活動に参加する。「都市観光ポスター」、「コロナと私たちの生活」、「故郷美食料理」等をテーマに交流活動実施
	2021年8~11月	「3都市間の友情」を象徴する歌の作詞、寧波市の「四知」書道等多様な文化交流活動をオン・オフラインで実施



2021年「第6回日中韓文化都市濟州青少年文化キャンプ」に参加した中国人学生の姿

出典  
寧波市



2021年「第6回日中韓文化都市濟州青少年文化キャンプ」に参加した中国人学生の姿

出典  
寧波市

## 濟州特別自治道による取組み

### 「濟州文化大使」

このプログラムは東アジア文化都市の文化交流事業の一環として行なっている。日中韓青少年文化芸術キャンプなど、国際文化交流に参加する青少年たちのような濟州の文化についての深い理解と国際理解を深めた人材を養成することを目指す教育プログラムである。

濟州道とUNITAR(国連訓練調査研究所)濟州国際研修センターが、2018年から共同で実施している。約40人の学生が選抜され、濟州文化クラス(国内、年4回実施)と日中韓青少年文化キャンプ(国外)など、多様な活動を行なっている。

### 日中韓文化都市濟州青少年文化キャンプ

2016年以降毎年4日間かけて実施している同キャンプは、初期には東アジア文化都市のフォローアップ事業の一環として3都市を中心に運営されていたが、2018年からは濟州道と交流のある各日中韓の各都市から100人前後の青少年が参加する大規模行事となっている。

回	日程	参加地域 (東アジア文化都市 指定年度)	内容
第1回	2016年7月 26~28日	日本: 奈良(2016) 中国: 寧波(2016) 韓国: 濟州(2016)	書道と写真の部門に分け、各分野の濟州の芸術家と交流
第2回	2017年8月 16~19日	日本: 奈良 中国: 寧波 韓国: 濟州	「持続可能な海の話」をテーマに、音楽・写真・美術の3分野のメンターが参加。50人の日中韓青少年に現場見学、討論、ワークショップ等の多様なプログラムを提供
第3回	2018年5月 9~12日	日本: 沖縄 (奈良市は濟州で開催された別のイベントに出席のため不参加) 中国: 泉州(2014)・寧波・大連・上海 韓国: 濟州・光州(2014)・清州(2015)・大邱(2017)	「アップサイクリングを通じた持続可能な生活と芸術」をテーマに日中韓の青少年が、音楽・美術・映像の3チームに分かれ、分野別にメンターと一緒にプロジェクトを実施
第4回	2019年9月 20~23日	日本: 奈良, 山梨, 佐賀 中国: 寧波 韓国: 濟州・清州(2015)	「地球の話」をテーマに日中韓青少年が写真・音楽・美術・ダンスの4チームに分かれ、使い捨て用品の削減、海水を活用した写真の焼き増し体験、地球模型の製作など環境に優しい芸術プロジェクトを実施

2020年9月 第5回	21日～11月 23日	日本: 奈良 中国: 寧波 韓国: 済州	「一杯の心」をテーマに50人の日中韓青少年が7つのチームに分かれ、オリエンテーション・文化授業・グループワークショップを行い成果共有会で共に作った成果物を共有（オンラインで合計6回開催）
2021年8月 第6回	13日～11月 13日	日本: 奈良 中国: 寧波 韓国: 済州	総勢34チームの日中韓青少年が5つのチームに分かれ、音楽ワークショップ・チーム別ネットワーキング・成果共有会を実施（オンラインで合計6回開催）
2022年5～ 第7回 *	11月 [予定]	日本: 奈良 中国: 寧波 韓国: 済州	未定



2020年「第6回日中韓文化都市済州青少年文化キャンプ」

写真提供  
済州特別自治道

### 耽羅文化祭における国際文化交流イベント

済州最大の文化行事「耽羅文化祭」に、過去の東アジア文化都市等の日中韓アーティストを招き、公演を行うとともに、地元の小学校で「子供たちへの日中韓文化体験教室」（公演とワークショップ）を実施している。この文化教室は、2016年に参加した日本（奈良）側公演者が、ぜひ子ども達に教えたいと申し出たことから実現し、好評だったことからその後定着するに至ったもの。毎年、済州内の小学校を一つ選定し、日中韓の伝統文化芸術の公演、日中の文化教室などを行なっている。済州の文化教室に招かれた他の日本側都市が、この方法を逆に日本の文化交流行事に取り入れた事例もある。

### 2019年参加生徒の感想

▲中国公演団の龍舞がかっこよく、中国に旅行に行きたくなった。▲日本の踊りを実際に踊ることができて嬉しかった。公演団の先生がハイタッチしてくれたことが記憶に残っている。▲また機会があれば、違う体験もしてみたい。

「子供たちへの日中韓文化体験教室」（寧波市）  
中国「牡丹」絵画プログラム

写真提供  
済州特別自治道



### これまでの開催状況

日程	日中参加地域(東アジア文化都市指定年度)
2016年	奈良(2016)
2017年	横浜(2014)、奈良、泉州(2014)、寧波(2016)
2018年10月	京都(2017)、泉州、寧波、上海、海南省
2019年10月	青森、東京・泉州、寧波、上海、海南省
2020年10月	奈良、横浜、青森、北海道、泉州、寧波、西安(2019)、上海 「COVID-19 & HUMANS」国際写真交流展へ写真出展
2021年10月	青森、北海道、西安、寧波 舞台芸術交流のための映像出展

### 2021年12月：日中韓東アジア文化都市奈良・寧波・済州芸術祭

済州特別自治道は2021年12月27日に奈良・寧波・済州の3都市間交流5周年を記念し特別企画公演を開催した。この企画は済州文化芸術振興院が主催し、韓国文化体育観光部の後援により企画され、「三色でよみがえる文化の和音」をテーマにオンライン形式で行われ、各都市を象徴する伝統音楽の源流を多様な音楽的な解釈により編曲し、クラシック・民謡・フュージョン韓国伝統国楽・ヒップホップ・ダンス等多様なパフォーマンスが行われた。

済州民謡を編曲し演奏している  
寧波の音楽家達の姿

写真提供  
済州特別自治道



ながさき シャンハイ プサン  
**長崎県（日） — 上海市（中） — 釜山広域市（韓）**

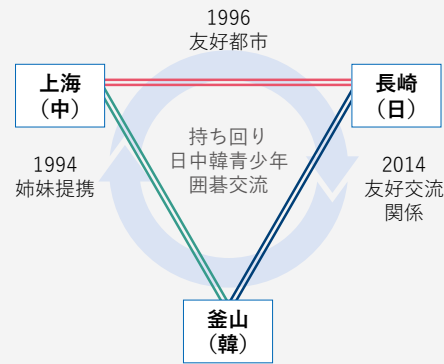
**青少年囲碁交流を通じた日中韓交流**

長崎県（日本）、上海市（中国）、釜山広域市（韓国）は、ともに互いの国への玄関口となる港湾を擁していることに共通点を有している。

上海市と釜山広域市は1993年に姉妹提携、96年には長崎県と上海市が友好都市締結、2014年には長崎県と釜山広域市が友好交流協定を締結し、3地域間のトライアングル交流が形成された。

以降、3地域は実務者会合を重ね、その成果として、2017年釜山で開催された第3回実務者会議の際に、長崎県の提案で青少年囲碁交流大会の開催が決定した。2018年1月に第1回の青少年囲碁交流大会が上海にて実施され、その後3都市で持ち回りで開催されている。

釜山広域市は、2018年の東アジア文化都市として、パートナー都市の金沢市とハルビン市と交流も継続している。



**2015年～：交流担当課長会議の開催**

日中韓の交流担当課長会議は2014年5月に開催された釜山市と長崎県の交流担当課長会議で、長崎県が長崎県—上海市—釜山市の3者会議を提案したことによって始まった。2015年に上海で開催された第1回交流担当課長会議以降、毎年6～8月に2泊3日の日程で持ち回りで開催されている。同会議では、推進事業の点検や各都市の希望交流事業についての議論が実施される。

**これまでの開催状況**

回	日程	開催地	テーマ
第1回	2015年	上海	2都市の青少年交流事業を3都市の事業に拡大
第2回	2016年	長崎	ウェブサイトの相互リンク、情報提供、クルーズ船の観光客誘致などの観光に関する提案
第3回	2017年	釜山	3都市の青少年囲碁交流大会と福祉交流
第4回	2018年	上海	高齢者福祉、都市PR、文化財の保護関連の交流事業
第5回	2020年	長崎（オンライン開催）	既存の交流事業の今後計画の議論及び新規事業の提案
第6回	2022年 [予定]	釜山	未定

第5回日中韓3都市交流担当課長会議

写真提供  
釜山広域市



**2018年～：青少年囲碁交流大会の持ち回り開催**

青少年囲碁交流大会は姉妹/友好都市関係にある3都市間の交流拡大を図るほか、参加者の囲碁競技レベルの向上、国際的視野の拡大や国際コミュニケーション能力の向上、3国の歴史と文化の理解の増進を目的としている。毎年約20人の日中韓の学生が参加し、3泊4日間囲碁競技、文化施設・歴史施設の見学、交流活動等を実施している。2021年第3回囲碁交流大会は新型コロナウイルス感染症の感染拡大によりオンライン形式で開催され、一日の間合計4チーム（長崎1チーム、上海1チーム、釜山2チーム、各チーム5名）の参加者に5対5団体戦及び2都市間対戦を3競技ずつ実施した。

囲碁を通じた3都市・地域間の交流は、他に「唐津市（日）—揚州市（中）—麗水市（韓）」と「金沢市（日）—蘇州市（中）—全州市（韓）」の事例がみられるが、「長崎県（日）—上海市（中）—釜山市（韓）」の場合、参加者の年代は13～18歳で、比較的年齢層が低いのが特徴である。囲碁は、3国共通の文化であり、共通のルールであるため言語の壁がないことも特徴である。主催者側は通訳を用意してはいるものの、参加者たちは、言葉は通じなくとも、囲碁の手を教え合うことは可能であり、通訳なしでコミュニケーションをとることも多かった。

**これまでの開催実績**

回	日程	開催地
第1回	2018年1月	上海
第2回	2019年1月	長崎
第3回	2021年4月	釜山（オンライン開催）
第4回	2022年 [予定]	上海



第3回日中韓3都市青少年囲碁  
交流大会

写真提供  
釜山広域市

きょうと チャンジャー テグ  
京都市（日）— 長沙市（中）— 大邱広域市（韓）

「東アジア文化都市2017」

京都府京都市（日本）、湖南省長沙市（中国）、大邱広域市（韓国）の3都市は、2017年の1年間、「東アジア文化都市」として多彩な交流事業を展開した。

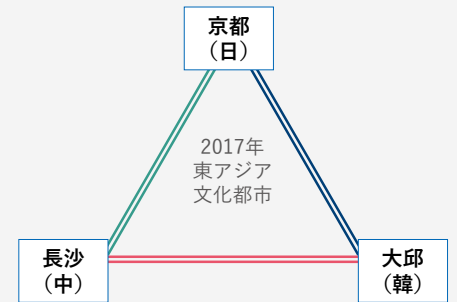
同年11月19日、京都閉幕式の際、3都市の市長は「東アジア文化都市2017京都共同宣言」に署名した。同宣言は、以下を骨子としている。

1. 次世代のアーティストの育成を目指し、芸術系大学生の交流等、若者の文化交流を継続していく。
2. 未来志向の関係構築のために、市民・文化芸術団体・大学・企業等・民間の文化交流活動の機会を創出し、都市の魅力を高め合う。
3. 東アジア文化都市のネットワーク構築のために幅広い交流促進に努め、持続可能な都市の発展を推進するとともに、東アジアの平和的発展に貢献する。

同宣言に基づき、2018年以降の交流は、主として「青少年交流」（芸術系大学生等の相互訪問・交流）と、「文化交流」（相手都市で行われる文化イベントに参加）の2つに大別される。

前者の青少年交流も、東アジア文化都市のフォローアップ事業という観点から、文化・芸術系の学生・若者の交流に比重が置かれているのが特徴である。

また、長沙市と大邱広域市は東アジア文化都市事業を通じた交流経験がきっかけとなり、2018年7月に友好協力都市協定を締結した。



写真提供 京都市



東アジア文化都市 2017 京都  
CULTURE CITY OF EAST ASIA 2017 KYOTO



东亚文化之都·长沙  
2017 Culture City Of East Asia · ChangSha



## 2018年8月：京都市及び大邱広域市で青少年交流事業を実施

「京都共同宣言」にもとづき、京都市及び大邱広域市において、青少年交流事業が実施された。

### 京都市における交流プログラム

8月10日から13日にかけて、京都市及び大邱広域市の文化芸術を学ぶ大学生が集い、京都の暮らしの文化、伝統産業に触れるフィールドワークやグループワークを通して、日本と韓国の文化の共通性・多様性について意見交換を行い、共同でマンガを制作し、成果発表を行った。

京都市からは京都市立芸術大学、京都造形芸術大学、京都美術工芸大学、「京都学生PR大使」の学生など8人が参加し、大邱広域市からは、慶北大学、大邱カトリック大学等より6人が参加した。



写真提供  
京都市



### 大邱広域市における交流プログラム

8月30日から9月2日にかけて、京都市及び大邱広域市の声楽を学ぶ大学生が大邱広域市に集まり、交流プログラムに参加した。大邱広域市の文化施設や声楽コンクール本選の見学、セミナーへの参加のほか、2018ポジャギフェスティバルでの公演等、多様な活動に参加した。京都市からは同志社女子大学学芸学部音楽学科の学生8人が、大邱広域市からは慶北大学及び啓明大学等から9人の学生が参加した。

## 2018年8月：大邱広域市

### 「2018東アジア・ポジャギフェスティバル」に京都市、長沙市から参加

8月31日から9月2日にかけて、京都市及び長沙市は、大邱広域市で行われた「2018東アジア・ポジャギフェスティバル」に前年に引き続き、参加した。「ポジャギ」とは、物を包む風呂敷のような布のこと。「大邱ポジャギフェスティバル」は、ポジャギの包容性と多様性を象徴とし、東アジアの代表的な文化フェスティバルを目指し、東アジア文化都市に指定されていた2017年から始めた。

期間中、日中韓の若手アーティストによる音楽、舞踊、美術分野などのストリート・パフォーマンス「青年芸術祭」が行われ、京都市から現代舞踊家が派遣された。また、「三国和合伝統公演」においては、3都市の音楽家による伝統音楽公演等が行われた。また、「ポジャギ作品・体験展」においては、日中韓の伝統工芸品が展覧され、市民向けの体験ワークショップが実施された。京都市及び長沙市から伝統工芸の職人が派遣された。

東アジア文化都市に選定された歴代韓国都市の広報ブースも設けられ、光州広域市（2014年）は観光名所VR体験、清州市（2015年）は「箸フェスティバル」に関連して箸づくり及び教具体験、済州特別自治道（2016年）は柿渋染体験プログラムを実施した。

### 2018年11月：京都市「kokoka（国際交流会館）オープンデー 2018・京都市平和祈念事業」に大邱広域市から参加

京都市には、約4万人（人口の約3%）の外国籍の人々が暮らしており、外国につながりを持つ人とのふれあいや交流の機会が、身近なものとなっている。11月3日、京都国際交流会館（kokoka）にて、国や地域を超えた人と人とのふれあいや異文化を楽しむことにより、異文化への理解を進めるとともに、平和の尊さを感じてもらうため、「kokokaオープンデー2018・京都市平和祈念事業」を開催した。同事業では、東アジア文化都市交流事業とタイアップし、日中韓3か国の芸術家によるステージパフォーマンスが行われ、大邱広域市からは伝統楽団が参加した。



## 2019年3月：「KYOTO STEAM」の日中韓ステージに長沙市、大邱広域市参加

3月23日から24日にかけて、京都市は、東アジア文化都市の交流の継続により、文化の力で東アジアの平和的発展に貢献するため、「KYOTO STEAM - 世界文化交流祭-Prologue」とタイアップし、日中韓3都市の文化芸術団体による日中韓ステージを実施した。京都市からはブレイクダンス、パントマイム及びマジック、長沙市からはクラシック音楽、大邱広域市からは伝統音楽、現代舞踊及びミュージカルガラのアーティストがそれぞれ参加した。



## 2019年7月～：青少年交流と相互の文化イベントへの参加によるフォローアップ事業持続

### 青少年交流

京都市実施：8月7日から11日、京都市及び大邱広域市の芸術分野（デザイン、写真）を専攻する大学生それぞれ9人が参加し、フィールドワークや文化体験プレゼンテーション等を実施した。

大邱広域市実施：11月8日から11日、京都市及び大邱広域市のフルートを専攻する大学生それぞれ9人ずつが参加し、文化体験や同時期大邱広域市で行われた「2019東アジア・ポジャギフェスティバル」の公演に参加した。

◀ (上)  
長沙市の芸術家たちによる公演  
(下)  
大邱広域市の芸術家たちによる公演

写真提供  
京都市

▶ 「2019東アジア・ポジャギフェスティバル」  
[日本]織物作り体験

写真提供  
大邱広域市

▶ 「2019東アジア・ポジャギフェスティバル」  
[中国]伝統アクセサリー「結」作り

写真提供  
大邱広域市

▶ 「2019東アジア・ポジャギフェスティバル」  
[韓国]天然黄土染色体験

写真提供  
大邱広域市

## 文化交流

京都市実施：11月3日の「kokokaオープンデイ」のステージで日中韓文化公演を実施し、大邱広域市から10人規模の公演団が参加した。

大邱広域市実施：11月9日から10日、「2019東アジア・ポジャギフェスティバル」にて京都市からDAISUKE STREET CIRCUS、長沙市から青年舞踊団の舞踊と変面、大邱広域市から大邱市立国楽団のハンバルム（韓国の古典舞踊の1種）が参加し、公演を行った。また、日中韓のアーティスト・イン・レジデンス展示、日中韓文化体験ブース、3国フードブース等が運営された。



2021年11月：大邱「2021東アジア物語祭り」開催

大邱広域市は11月26日から27日までの二日間にかけて、2017東アジア文化都市間で継続的に文化交流及び協力の場を設けるため、「2021東アジア物語祭り」をオン・オフラインのハイブリッド形式で開催した。本行事は「三国の人と本の物語」をテーマに人文交流、講演、公演、展示会、体験などの多様な活動が行われた。



「2021東アジア物語祭り」イベントポスター

出典  
大邱広域市

「2021東アジア物語祭り」『三国の人と本の物語コンサート』

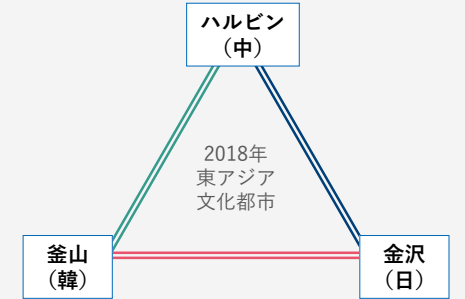
出典  
大邱広域市

かなざわ プサン  
金沢市（日）— ハルビン市（中）— 釜山広域市（韓）

「東アジア文化都市2018」

石川県金沢市（日本）、黒竜江省ハルビン市（中国）、釜山広域市（韓国）の3都市は、2018年の1年間、「東アジア文化都市」として多彩な交流事業を展開した。2019年からは、フォローアップ事業を掲げ、文化行事にアーティストを相互派遣している。

なお、金沢市は蘇州市（中国）及び全州市（韓国）との姉妹/友好都市関係を基盤に図書館や囲碁の交流を行っており、釜山広域市は、長崎県及び上海市と友好協力関係又は姉妹/友好都市関係にあり、青少年囲碁交流大会を持ち回りで実施しているなど、他の3都市トライアングル交流も実施している。



金沢市、ハルビン市、釜山広域市は2018年東アジア文化都市のフォローアップ事業を2019年以降にも継続している。3地域は、各都市で開催している多様な文化イベントにアーティストを相互に派遣するなど、活発に活動をしている。

2019年フォローアップ事業

日程	内容
8月2～3日	ハルビン市が主催の2019「魅惑的なハルビンの夏」第3回中国・ロシア文化芸術交流週間「文化都市・友好都市」クラシック公演シリーズにオーケストラ・アンサンブル金沢弦楽四重奏が参加
8月23～24日	ハルビン市が主催の2019「魅惑的なハルビンの夏」第3回中国・ロシア文化芸術交流週間「文化都市・友好都市」クラシック公演シリーズに釜山市立郷楽団金管五重奏団が参加
9月21～22日	釜山の文化行事「東アジア文化の森」に金沢市及びハルビン市の芸術家が参加（韓国人チェリスト、中国人バイオリニスト、日本人ピアニストによるクラシックの共演、日本横笛—中国二胡—韓国カヤグムによる日中韓伝統楽器の共演、釜山広域市のトンレ区で伝承される仮面劇であるトンレヤリュ、変面、雑技団等、伝統公演・日中韓の伝統遊び体験、東アジア茶道体験、金沢市の伝統工芸ブース出展など多様な文化体験行事を実施）
10月18～20日	金沢市が主催する金沢市立千坂小合唱団「ドリーム」との交流行事、「金沢駅鼓門ナイトパフォーマンス」、「創立70周年 金城民謡まつり」にハルビン歌劇院民族楽団員及び釜山市立少年少女合唱団が参加



◀ 「2019 東アジア文化の森」  
日中韓クラシック共演

出典  
釜山市立芸術団



◀ 金沢市主催「金城民謡まつり」  
に参加したハルビン芸術団

写真提供  
ハルビン市



◀ ハルビン市主催「文化都市・友好都市」クラシック公演シリーズに参加した釜山市立郷楽団

写真提供  
ハルビン市

▶ 釜山主催「2021 東アジア文化都市希望のメッセージ On-Live」イベントポスター

出典  
釜山広域市

### 2021年フォローアップ事業

日程	内容
10月8～9日	釜山広域市主催「2021東アジア文化都市希望のメッセージOn-Live」にて「釜山市立合唱団と共にする日中韓和解コンサート」開催 (YouTube生中継)



### 2022年フォローアップ事業

日程	内容
3月	図書交流事業の一環として金沢海みらい図書館より釜山図書館へ100冊の図書寄贈予定 *2023年には釜山図書館より金沢海みらい図書館へ寄贈予定
未定	金沢・ハルビン市文化映像制作及びホームページ公開予定
未定	釜山広域市主催の東アジア文化都市フォローアップ文化交流事業

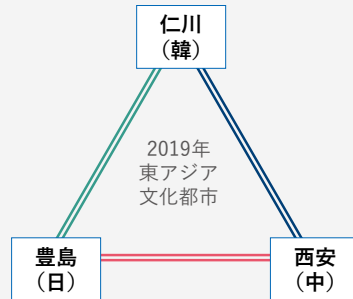
としま シーアン インチョン  
**東京都豊島区（日） — 西安市（中） — 仁川広域市（韓）**

「東アジア文化都市2019」

東京都豊島区（日本）、陝西省西安市（中国）、仁川広域市（韓国）の3都市は、「東アジア文化都市2019」に選ばれ、「東アジア（日本・中国・韓国）の文化交流と平和」というテーマで一年を通じて多様な文化交流プログラムを展開した。

また同年11月には、この一年間の交流を通して得た成果をもとに、これからの持続的な協力を促進するため「東アジア文化都市共同宣言2019」に署名した。12月には、「東アジア文化都市InXiTo文化観光事業協力合意書」を締結した。

一方、仁川市は中国大連市、日本北九州市と2010年から友好博物館交流事業の実施をはじめ、以後毎年博物館長会議と実務者会議を開催している。2012年からは隔年で巡回展と共同企画展を実施してきた。



2019年11月：「東アジア文化都市共同宣言2019」を締結、交流の継続に合意

豊島区、西安市、仁川広域市は2019年東アジア文化都市として文化交流、公演、フェスティバル、展示会と体験イベント、写真展、合唱団などの充実した交流事業を推進してきた。3都市は1年間の交流を通して得た成果をもとに、さらなる持続的な協力を促進するため、2019年11月に開催された東アジア文化都市2019の豊島区閉会式にて「東アジア文化都市共同宣言2019」に署名をした。宣言文の内容は以下のとおりである。

1. 3都市は、人的、文化的な都市間交流を積極的かつ継続的に実施することにより、相互の関係をより強固なものにしていく。
2. 3都市は、文化芸術をはじめ、産業・観光等様々な分野における民間レベルによる継続的な交流を促し、その活性化を図る。
3. 3都市の代表と関係部署は、相互の交流によって生み出された成果を毎年確認する。

2019年12月：「東アジア文化都市InXiTo文化観光事業協力合意書」締結、文化観光分野での協力拡大

3都市は2019年12月に開催された東アジア文化都市2019西安市閉幕式にて「東アジア文化都市InXiTo文化観光事業協力合意書」を締結し、文化観光の分野で協力を強化することに合意した。

2020年フォローアップ事業

開催地	日程	内容
西安	8月～9月	新型コロナウイルス感染拡大の脅威に3都市が助け合い対抗するという意味を込めて「一つの家族、一つの愛」をテーマに中国の医療従事者が制作した曲を、日中韓の3人の歌手が共に歌う映像をSNSで公開
仁川	11月29日	・韓国在住の東・東南アジア人で構成された合唱団を対象に「東アジア合唱祭」を開催
西安	12月10日	・「東アジア文化都市新春音楽祭」を開催し、日中韓交響楽進行、行事前日には西安文化、観光案内行事開催 ・歴代中国の東アジア文化都市及びASEAN10か国が参加

2020日中韓合唱共同制作映像広報ポスター

出典  
西安市



2021年フォローアップ事業

開催地	日程	内容
西安	1～2月	・「春の香りに満ちた文化都市、新年を迎える」をテーマにオンライン文化展公演を開催 ・豊島区・仁川市との間での相互映像交換、各都市のTwitter・Facebook・YouTube等のソーシャルメディアへ掲載
仁川	11月18～19日	・日中韓3国の音楽交流活性化を通じた相互友好増進を目的とした「2021東アジアフェスティバル」開催 ・豊島区・西安市のクラシック音楽と伝統音楽演奏映像参加 ・東アジア3国楽器イベント開催



仁川広域市主催「2021東アジア祭り・仁川」に参加した豊島区藤元林合奏団

写真提供  
仁川広域市



仁川広域市主催「2021東アジア祭り・仁川」に参加した西安シンフォニーオーケストラ

写真提供  
仁川広域市

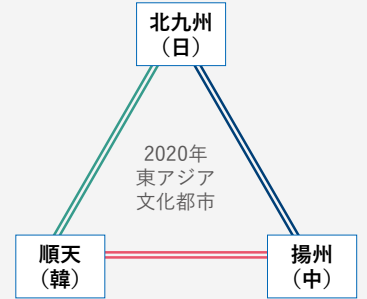
2022年フォローアップ事業

開催地	日程	内容
西安	2月	・東アジア文化都市新年音楽会 ・東京豊島区と仁川市でクラシック演奏・書道作品映像 出展予定
豊島	未定	・学生オンライン交流行事

きたきゅうしゅう ヤンチョウ スンチョン  
北九州市（日）— 揚州市（中）— 順天市（韓）

「東アジア文化都市2020」

福岡県北九州市（日本）、江蘇省揚州市（中国）、全羅南道順天市（韓国）の3都市は、自然環境と繋がりが強い「生態都市」という共通点を持っている。北九州市は工業都市として、急速な発展過程で発生した公害問題を克服したという経験により、2011年にOECDから「SDGs推進に向けた世界のモデル都市」として選ばれた。揚州市は「国家文化観光模範地域」である蜀岡瘦西湖風景名勝地区という観光地を有する都市である。順天市は湿地を有しており、世界初の「ラムサール条約湿地都市」として認定された。



2020年からの新型コロナウイルスの影響により、北九州市及び順天市は東アジア文化都市として様々な交流事業を2021年に延期し、継続して行うことにした。一方、揚州市は佐賀県唐津市と韓国全羅南道麗水市と共に1999年から日中韓交流都市囲碁親善大会を実施している。北九州市は中国大連市、韓国仁川広域市と2010年から友好博物館交流事業を実施している。



2020年東アジア文化都市選定式にて3国の文化担当大臣から盾を受け取る文化都市の代表（左側から北九州市長、順天市長、揚州市副市長）

出典  
日中韓三国協力事務局



## 2021年4～10月：「2021揚州国際庭園博覧会」に順천시参加

2021年4～10月、揚州市は約7ヶ月間「2021揚州国際庭園博覧会」を開催した。博覧会の展示にて、揚州市は順천시が提供した自然景観と都市の特徴に関する資料をもとに「順天園」を設計・造成した。順天園は順天湾湿地の癒し効果を足した景観構造物であり、韓国の民家建築の伝統材料及び様式をもとに造成された。



◀ 2021揚州世界園芸博覧会に造成された順天園の全景

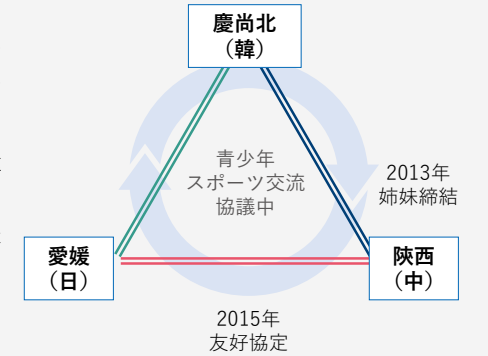
写真提供  
揚州市

## えひめ 愛媛県 (日) — シャンシー 陝西省 (中) — キョンサンブクト 慶尚北道 (韓)

### 日中韓3か国地方政府交流会議を機に、3県省道の青少年スポーツ交流推進に合意

愛媛県（日本）、陝西省（中国）、慶尚北道（韓国）の3県省道交流は比較的新しい。陝西省と慶尚北道は2013年4月に姉妹都市協定を、愛媛県と陝西省は2015年友好都市協定を結んだ。

2019年10月愛媛県で開催された「第21回日中韓3か国地方政府交流会議」を契機に、愛媛県—陝西省—慶尚北道の3者会合が開催された。同会合の場で、慶尚北道の提案を受け、3県省道で青少年スポーツ大会を開催することに合意した。



### 2019年10月「日中韓3か国地方政府交流会議」を契機に、初の3者会合

3地域は2019年10月28日、愛媛県で開催された第21回日中韓3か国地方政府交流会議のサイドイベントである「交流の広場」で初の3者会合を実施した。同会合における慶尚北道の提案を受け、現在、青少年交流事業を三国の持ち回りで実施する方向で実務者レベルで調整が進められている。

▶ 愛媛県-陝西省-慶尚北道  
3者会合

写真提供  
慶尚北道



## 2021年11月：実務者間のスポーツ交流テレビ会議開催

3地域の実務者は2021年11月5日大韓民国市道知事協議会が主催した第22回日中韓地方政府交流会議のサイドイベント「交流の広場」に参加し、テレビ会議を通じて青少年スポーツ交流の時期・種目・人数・経費支援・選手レベル・初回開催地域・持ち回り地域の決定方法・MOU締結の詳細について協議を行なった。



愛媛県—陝西省—慶尚北道オンライン実務者会議

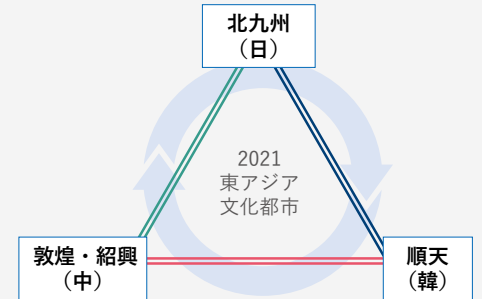
写真提供  
慶尚北道

## きたきゅうしゅう 北九州市（日） — シャオシン 紹興・敦煌市（中） — ドゥンホワン 順천시（韓）

### 「東アジア文化都市2021」

福岡県北九州市（日本）、浙江省紹興市・甘粛省敦煌市（中国）、全羅南道順천시（韓国）は「東アジア文化都市2021」として採択された。2020年の新型コロナウイルスの感染拡大により日本と韓国は2020年の東アジア文化都市を2021年に延期し、中国は紹興市と敦煌市を新たに東アジア文化都市として選定した。

4文化都市は新型コロナウイルスの影響で阻害された3か国間の文化協力及び停滞している国際的文化芸術活動を持続的に推進するために、一年間多様な交流事業を推進した。4都市は今後の継続事業や国際姉妹協定締結等を通じて東アジア文化都市としての協力と連帯感を強化して行く予定である。



### 2021年11月：「東アジア文化都市2021共同宣言」締結、交流継続に合意

2021年11月28日に開催された「東アジア文化都市2021閉幕式典」にて、北九州市、紹興市・敦煌市、順천시は過去1年間の交流経験をもとに、持続的な交流発展のため「共同宣言」を署名し以下のような事項を合意した。

1. 4都市の文化・芸術分野の都市間交流・産業・観光など多様な分野において民間レベルでの持続的な交流を促進し活性化を図る。
2. 4都市は東アジア文化都市の発展のために互いの知恵と経験を共有し、相互理解を増進させ、協力を通じた事業推進に挑む。
3. 4都市は持続可能な都市発展に努め、共に東アジア文化都市ネットワーク構築、東アジア文化の国際的影響力の強化を図る。



◀ 「東アジア文化都市2021共同宣言」調印式

写真提供  
北九州市

2022年継続事業 [予定]

開催地	日時	内容
順天	9月中	第2回絵本・ウェブトゥーン（ウェブ漫画）フェスティバル（北九州の作品・博物館紹介、サイドイベント、公演、フォーラム等）
順天	下半期	中韓「文学」交流行事（東アジアの青年達と共にする文学紀行）
順天	未定	日中韓「伝統衣装」関連事業（日中韓伝統衣装セミナー、伝統衣装体験館、伝統衣装写真公募展）
北九州	未定	「オンラインライブペインティング」（各都市の小学生がオンライン形式で共に絵を描く文化交流イベント）

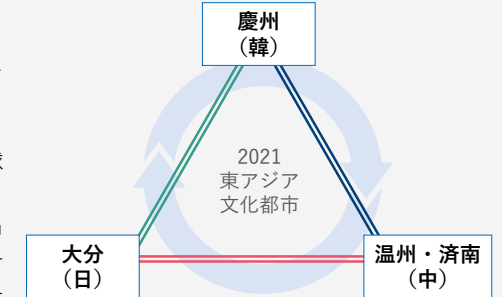
おおいた ウェンチョウ ジーナン キョンジュ  
大分県（日）— 温州・済南市（中）— 慶州市（韓）

「東アジア文化都市2022」

大分県（日本）、浙江省温州市・山東省済南市（中国）、慶尚南道慶州市（韓国）は、2021年8月30日にオンライン形式で開催された第12回日中韓文化大臣会合にて2022年の「東アジア文化都市」として公式採択された。

大分県は温泉の源泉数・湧出量ともに日本一を誇り、地球上に存在する10種類の温泉水の内8種類の温泉が存在することから温泉地域として名を知られている。中国温州市は中国南部対外貿易の中心地として三面が山と海で囲まれ、固有の文化と言語を築いている。中国山東省の省都である済南市は、72の有名な泉があることで有名で、泉の都市という意味を持つ「泉城」と呼ばれている。慶州市は、清浄海域及び海岸線の美しい自然景観を保有しており、都市全体が「露天博物館」だと呼ばれる程、歴史文化都市として豊富な文化的な財産を持っている。

これらの文化都市は2022年を起点にアジアの連帯、アジア的共感を通じた都市文化協力を促進させ、東アジア文化都市の持続的な発展のため多様な交流事業を推進する予定である。



▶ 三国の文化大臣から選定証書を授与される2022東アジア文化都市代表の姿

出典  
韓国文化観光部





## 第2章

### 3 国の地方都市交流メカニズムと行事



# 東アジア文化都市

## 文化を通じて3都市が交流する大型事業



「東アジア文化都市」事業は、2012年5月に行われた第4回日中韓文化大臣会合（上海にて開催）での合意に基づき、日本・中国・韓国の3か国において、その国の伝統文化を代表する文化都市または文化芸術による発展を目指す都市を1～2か所選定し、その都市において、様々な文化芸術イベント等を実施するとともに、3都市を行き来しながら文化交流行事を実施する事業である。これにより、東アジア域内の相互理解・連帯感の形成を促進するとともに、東アジアの多様な文化の国際発信力の強化を図ることを目指している。先行事例として、ヨーロッパ連合（EU）とASEANが1985年と2008年からそれぞれ実施している「欧州文化都市」事業と「ASEAN文化都市」事業がある。

また、東アジア文化都市に選定された都市がその文化的特徴を生かして、文化芸術・クリエイティブ産業・観光の振興を推進することにより、事業実施を契機として継続的に発展することも目的としている。この観点から、3都市は、その年以降も日中韓文化交流や青少年交流を継続してきた。また、各国が過去の東アジア文化都市との交流強化や、欧州文化首都やASEAN文化都市との連携にも力を入れている。



日中韓都市間のトライアングル交流は、東アジア文化都市のフォローアップ事業が順調に継続する場合、毎年一つずつ交流都市のトライアングルが増加していくため、日中韓三国の民間の相互理解の増進にとって貴重なレガシーとなっていくことが期待される。



### これまでの「東アジア文化都市」

選定年度	日本	中国	韓国
2014年	横浜市*	泉州市	光州広域市
2015年	新潟市	青島市*	清州市
2016年	奈良市	寧波市	済州特別自治道*
2017年	京都市*	長沙市	大邱広域市
2018年	金沢市	ハルビン市*	釜山広域市
2019年	東京都豊島区	西安市	仁川広域市*
2020年	北九州市*	揚州市	順천시
2021年	北九州市*	紹興市・敦煌市	順천시
2022年	大分県	温州市・済南市*	慶州市
2023年	未定	未定	全州市

\* 日中韓文化大臣会合開催地

東アジア文化都市2022の4地域のロゴ

資料提供  
上から中国温州市・済南市、韓国慶州市、日本・大分県

## 第12回日中韓文化大臣会合

出典  
日中韓三国協力事務局



## 東アジア文化都市、2014年以降日中韓文化大臣会合の開催地に

日中韓文化大臣会合は、3国が文化協力と交流に関して話し合うために、毎年持ち回りで開催されている大臣レベルの政府間会議である。文化分野の重要性の認識を共有し、共同事業を推進してきた。「東アジア文化都市2014」の事業を機に、開催国の該当年度の文化都市で開催されてきた。毎年大臣会合と連携し、次年度の東アジア文化都市選定式が開催される。

2021年第12回日中韓文化大臣会合は2021東アジア文化都市である北九州市でオンライン形式で開催され、次回の会合は2022年に中国で開催される予定。

### 2014年以降の開催実績

回	日程	開催地	共同文章
第6回	2014年11月29日	横浜市	「横浜共同声明」
第7回	2015年12月19～20日	青島市	「青島行動プラン」
第8回	2016年8月27～28日	済州特別自治道	「2016済州宣言」
第9回	2017年8月25～26日	京都市	「京都宣言」
第10回	2018年8月29～31日	ハルビン市	「ハルビン行動計画」
第11回	2019年8月30日	仁川広域市	「仁川宣言」
第12回	2021年8月30日	北九州市（オンライン開催）	「北九州宣言」

## 第12回日中韓文化大臣会合「北九州宣言」発表式

出典  
文化庁



## 2016年12月：寧波市主催「東アジア文化都市円卓会議」

2016年12月7日、寧波市は、東アジア文化都市閉幕式に合わせ、「東アジア文化都市円卓会議」を開催した。同年の東アジア文化都市である濟州特別自治道と奈良市をはじめとし、中国文化部（当時）、泉州市（2014年）、青島市（2015年）、長沙市（2017年）、光州広域市（2014年）、清州市（2015年）、大邱広域市（2017年）といった歴代の東アジア文化都市の代表が参加した。各都市の代表は、「東アジア文化都市事業が都市発展促進に果たした役割と、東アジア文化都市の交流・協力の強化策」をテーマに発表を行い、「東アジア文化都市寧波提議」に署名した。また2014年から2017年の12の東アジア文化都市の名前を日本語、中国語、韓国語で刻んだ「東アジア文化都市友好碑」除幕式が同時に開催された。



「東アジア文化都市円卓会議」

写真提供  
寧波市



「東アジア文化都市友好碑」  
除幕式

写真提供  
寧波市

## 2017年8月：京都で「東アジア文化都市サミット」開催

2017年8月26日、東アジア文化都市2017の京都市が主催、文化庁が支援をした同行事が国立京都国際会館で開催された。2014年から2018年の東アジア文化都市とASEAN文化都市などから19人の代表者が集まり、各都市の文化都市活動の成果を共有し、東アジア文化都市事業の発展について議論した。同行事で採択された「東アジア文化都市サミット京都宣言」では、以下の点が盛り込まれた。

1. 若い世代の交流に継続して取り組むとともに、市民、団体、企業などによる幅広い交流の機会を創出する。
2. 東アジア文化都市のネットワーク強化や事業充実にむけた方策を議論する有識者会議に参画し、事業の発展に貢献する。
3. 文化を通じた幅広い交流の促進と連携強化、ASEAN文化都市との連携を視野に入れた更なる発展に向け、今後も「東アジア文化都市サミット」を開催する。

参加国	参加した文化都市・地域（選定年度）・ASEAN
日本	横浜市(2014)、新潟市(2015)、奈良市(2016)、京都市(2017、主催都市)、金沢市(2018)
中国	泉州市(2014)、青島市(2015)、寧波市(2016)、長沙市(2017)、ハルビン市(2018)
韓国	光州広域市(2014)、清州市(2015)、濟州特別自治道(2016)、大邱広域市(2017)、釜山広域市(2018)
ASEAN	フィリピン、シンガポール、ベトナム、ブルネイ



東アジア文化都市サミット

写真提供  
京都市

## 2019年10月：中国・揚州市で「ASEAN+3文化都市ネットワーク」発足式開催

2019年10月25日、中国揚州市にて、「ASEAN+3 (APT)文化都市ネットワーク発足式」が開催された。同行事は、中国文化観光部が主催の下、日中韓の東アジア文化都市、ASEAN文化都市代表団、各国の関係者約200人が参加し、APT文化都市ネットワークの発足が宣言され、同宣言文において、①相互理解と信頼の向上、②文化交流事業の促進、③観光業界の協力の強化、④青少年交流の推進について合意された。



◀ 「ASEAN+3文化都市ネットワーク」発足式記念集合写真

出典  
日中韓三国協力事務局

## 2019年：東アジア文化都市事業発展のため、各国の文化都市の間で連帯強化の取り組み

### 中国「東アジア文化都市業務訓練プログラム」

2019年8月13日から14日にかけて、東アジア文化都市2019の中国西安市で初めての中国「東アジア文化都市業務訓練プログラム」が開催された。同プログラムは中国の文化観光部が主催した。2014年から2019年の中国の歴代文化都市と2020年に選定された揚州市、東アジア文化都市2019である日本東京都豊島区と韓国仁川広域市の代表団、文化省庁の関係者及び専門家等の約100人が出席した。このプログラムを通じて、歴代の東アジア文化都市は事業運営の経験と今後の事業計画を共有した。また、「東アジア文化都市の申請、審査、選定と管理の実施方法」、「東アジア文化都市の申請条件と評価基準」など東アジア文化都市のブランド発展のための提案についても専門家から発表された。



◀ 中国「東アジア文化都市業務訓練プログラム」

写真提供  
中国文化観光部

## 韓国「2019年度東アジア文化都市協力ワークショップ」

韓国の初代東アジア文化都市である光州広域市の（社）アジア文化センター都市造成支援フォーラムは、2019年12月10日から11日にかけて、「2019年度東アジア文化都市協力ワークショップ」を開催した。同ワークショップは、韓国の歴代東アジア文化都市の実務者が緊密なコミュニケーションと協力を通じて交流事業の向上を図り、3国で生じた環境の変化に対する文化都市の協力を議論するために2019年に初めて開催された。光州広域市の他、韓国の4地域（清州市、済州特別自治道、釜山広域市、順天市）、日中韓三国協力事務局など関係機関から15人が参加した。



▶ 2019年度東アジア文化都市協力ワークショップ

出典  
日中韓三国協力事務局

## 2021年：新型コロナウイルス感染症の感染拡大が続く中、東アジア文化都市のブランド力を向上させ、都市間交流を強力に推進して行くための持続的な努力を拡大

### 文化庁・同志社大学共同研究シンポジウム「東アジア文化都市の到達点と今後の課題」開催



2021年2月22日、日本文化庁と同志社大学は「東アジア文化都市の到達点と今後の課題」をテーマにシンポジウムを開催した。本シンポジウムは東アジア文化都市事業の意義と成果を再確認し、今後の発展を議論するために文化庁と同志社大学が共同で実施した共同研究プロジェクト「東アジア文化都市に係る成果と今後の在り方に関する調査研究」の総括として行われたイベントである。シンポジウムは主催側の挨拶に続けて日本の歴代の東アジア文化都市が交代で発表し、約3時間にわたり行われた。

▶ 文化庁・同志社大学共同研究シンポジウムの広報ポスター

出典  
同志社大学

## 中国ハルビン「東アジア文化都市」建設都市フォーラム開催

2021年7月20日、都市ブランド祝典イベント及び「東アジア文化都市」建設都市フォーラムが中国ハルビン市で開催された。中国泉州・寧波・長沙・西安・揚州・紹興・敦煌・濟南・温州など歴代の中国側東アジア文化都市代表団約60数人が当行事に参加し、東アジア文化都市の未来志向的な発展について議論した。各都市の代表は本行事が都市文化の体系的な発展と都市発展のための推進力を高め都市イメージの改善において重要な役割を果たすと評価し、文化遺産保護、公共文化サービスの向上、文化産業・観光業の発展等における各都市の成功事例を共有した。



都市ブランド祝典イベント及び「東アジア文化都市」建設都市フォーラム

出典  
ハルビン市

## 北九州市第2回東アジア文化都市サミット開催

2021年10月25日、北九州市で第2回東アジア文化都市サミットを開催した。本サミットは「東アジア文化都市を通じた新たな文化価値創出」をテーマとし、日中韓文化都市・欧州文化首都・ASEAN文化都市など28都市の代表がオン・オフライン形式で参加した。参加者は「ポストコロナ時代の技術革新とデジタル化を通じた都市文化交流増進」、「都市の持続可能な発展における文化芸術の役割」などについて意見交換を行った。主催側の北九州市の代表を含め、2021年東アジア文化都市である韓国順天市、中国紹興市・敦煌市の代表が都市交流及び文化交流を通じた相互学習にをテーマに発表を行った。



第2回東アジア文化都市サミット

写真提供  
文化庁

## 日中韓3か国地方自治体交流会議

第22回日中韓3か国地方自治体交流会議

写真提供  
大韓民国市道知事協議会



### 3か国の地方自治体が一堂に会する大型行事、1999年以来毎年開催

「日中韓3か国地方自治体交流会議」は、歴史的、地理的にも密接な関係にある日中韓3か国の地方政府間の国際交流・協力を一層促進することを目的に、3か国の国際交流機関（日本・自治体国際化協会、中国・中国人民対外友好協会、韓国・大韓民国市道知事協議会）が主催し、持ち回りで1999年より毎年実施しているものである。毎回数百人の地方自治体関係者が出席する大型行事である。

2021年第22回交流会議は新型コロナウイルス感染症の拡大により大韓民国市道知事協議会のYouTube中継を通じてオン・オフラインを連携する形で開催された。当会議は「ポストコロナ時代をリードする日中韓地方自治体の取り組み」をテーマに、基調講演・テーマ発表・映像パフォーマンス等で構成された。本会議以外にも33の日中韓地方自治体が参加する17のオンライン実務者会議「交流の広場」が併催された。会議には、日中韓地方公務員及び関連機関から合計約1300人がオン・オフラインで参加した。

### ○主な内容

- ・日中韓地方自治体の交流協力のグッドプラクティスの共有
- ・日中韓地方自治体交流協力のあり方及び地方行政に関する懸案事項の討論
- ・日中韓広報ブース及び「交流の広場」の運営
- ・開催都市の地方行政グッドプラクティスの現場視察

これまでの実績

年度	回	開催地	メインテーマ
1999	第1回	ソウル特別市（韓）	日中韓自治体間交流協力の増進のための国際会議
2000	第2回	北京市（中）	ニュー・ミレニアムにおける日中韓3か国地方自治体間の交流と協力の展望
2001	第3回	東京都（日）	グローバリゼーションの時代における「新たな地域のあり方」をさぐる
2002	第4回	ソウル特別市（韓）	北東アジア地域の経済協力を通じた地方自治体の共同発展
2003	第5回	無錫市（中）	地域経済の振興と地域協力の促進における地方自治体国際交流の役割
2004	第6回	新潟県（日）	3か国の相互発展に向けた地域政策のあり方～交流の促進と地域間連携
2005	第7回	江原道（韓）	北東アジア地域の共同発展のための日中韓地方自治体の役割
2006	第8回	ハルビン市（中）	北東アジアの友好を促進し、共同発展と繁栄を実現
2007	第9回	奈良県（日）	北東アジアにおける交流の拡大と地方自治体の役割
2008	第10回	全羅南道（韓）	地域活性化による発展方案
2009	第11回	長春市（中）	地方自治体の交流と協力を強化し、北東アジア地域の共同発展を促進
2010	第12回	長崎県（日）	地域間協力の推進による北東アジア地域の発展
2011	第13回	全羅北道（韓）	地域の特色を活かした北東アジアの地方自治体間の交流活性化
2012	第14回	昆明市（中）	交流協力を深め、地方自治体の共同発展を促進する
2013	第15回	富山県（日）	地域の特色を生かした取組みと北東アジアの相互発展
2014	第16回	亀尾市（韓）	人文交流の拡大による日中韓交流の活性化
2015	第17回	義烏市（中）	持続可能な都市間交流及び都市の国際化による発展
2016	第18回	岡山市（日）	地方自治体交流による北東アジア地方の活性化
2017	第19回	蔚山広域市（韓）	新しいパラダイム提示（発想の転換）を通じた北東アジア地方自治体発展施策の模索
2018	第20回	開封市（中）	北東アジア地域における互恵的連携協力体制の構築
2019	第21回	愛媛県（日）	北東アジア地方自治体における地域資源を活かした魅力の創造
2021	第22回	ソウル特別市（韓） （オン・オフライン開催）	ポストコロナ時代をリードする日中韓地方政府自治体の取り組み
2022	第23回	江西省（中） [予定]	

◀  
出典  
大韓民国市道知事協議会

## 東アジア経済交流推進機構（OEAED）

▶  
2018年仁川総会

写真提供  
北九州市



### 90年代初頭から続く日中韓の地域経済協力

東アジア経済交流推進機構（OEAED）は、日中韓の沿岸11都市により構成される経済交流に特化したプラットフォームである。会員都市の連携、経済交流、相互のネットワークの強化等により、経済活動及び都市間交流の活性化を推進し、環黄海地域における新たな広域経済圏を形成するとともに、東アジア経済圏の発展に貢献することを目的に設立された。

OEAEDでは①「東アジアFTA」創設推進、②環黄海において環境にやさしいモデル地域の創出、③新ビジネスモデル創出システムの構築、④「環黄海観光ブランド戦略」の展開、⑤技術交流・人材育成プラットフォーム形成の5つの重点課題が設定されている。

このプラットフォームは、現在も継続している日中韓の地域交流の中で最も歴史が長いものの一つであり、そのルーツは1991年にまでさかのぼる。同年、環黄海地域における新たな経済圏を形成することを目的として、「東アジア都市会議」及び「東アジア起業家サミット」がスタートした。当初は、北九州市・下関市（日本）及び両市の姉妹/友好都市である大連市・青島市（中国）、仁川広域市・釜山広域市（韓国）の6都市で構成した両会議は、その後、天津市・煙台市（中国）、蔚山広域市（韓国）、福岡市（日本）の4都市が加わり、2004年に経済交流に特化したプラットフォームづくりを目指して、日中韓の10都市で東アジア経済交流推進機構が設立され、2014年の熊本市（日本）の加入を経て、現在の11都市体制になった。

機構の組織は、総会・執行委員会・部会・第三者評価委員会・事務局から構成される。

## ○ 総会

会員都市の行政と経済団体（商工会議所・国際商会）の代表が構成する機構の意思決定機関。会員都市の持ち回りにより開催する。

## ○ 執行委員会

総会を開催しない年に開催する実務者会議。総会を補佐し、諸課題について協議する。

## ○ 部会

専門事項を協議し共同事業を実施する機関として4部会を設置している。（国際ビジネス部会、環境部会、観光部会、ロジスティクス部会）

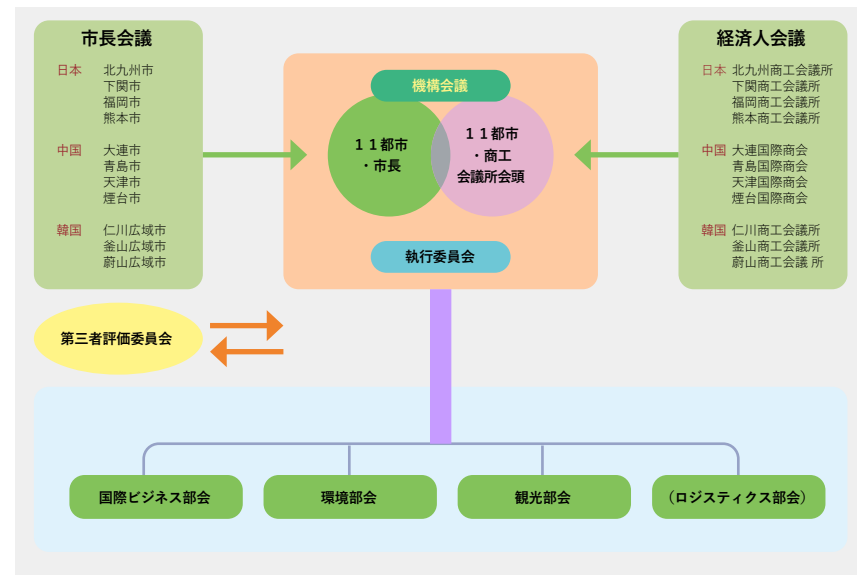
## ○ 第三者評価委員会

機構活動・運営を有機的に機能させるため、専門的知見かつ客観的視点から助言・評価を行う機関。日中韓各国から1人ずつの専門家で構成する。

## ○ 事務局

機構の庶務を行う機関。北九州市・下関市の行政・商工会議所が共同で北九州市に設置。

東アジア経済交流推進機構組織図



出典  
東アジア経済交流推進機構 (OEAED)

出典  
東アジア経済交流推進機構 (OEAED)ホームページ及び公式パンフレット

## 過去の総会

回	日程	開催地	議題
第1回	2004年11月	北九州市 (日)	・東アジア経済交流推進機構の設立
第2回	2006年11月	天津市 (中)	・各部会の活動実績報告 ・第三者評価委員会の評価 ・各都市の市長・商工会議所会長による提案 ・東アジア都市経済協力に関する天津宣言採択
第3回	2008年11月	蔚山広域市 (韓)	・各部会の活動報告 ・共同プロジェクトの提案と導入 ・各都市の市長・商工会議所会長の提案 ・機構の活動と共同プロジェクトに関する第三者評価委員会の評価
第4回	2010年11月	青島市 (中)	・各部会の活動報告 ・共同プロジェクト環黄海アクションの報告 ・各都市の市長・商工会議所会長の提案発表 ・環黄海アクションに関するMOU締結 ・青島宣言採択
第5回	2015年11月	煙台市 (中)	・各都市行政の代表・商工会議所・国際商会代表による発表 ・各部会による活動報告 ・第三者評価委員の選任 ・煙台宣言採択
第6回	2018年10月	仁川広域市 (韓)	・各都市の代表による発表 ・各部会都市の代表による報告 ・機構改革案 ・仁川宣言採択
第7回	2022年 [未定]	下関市 (日)	

## 過去の環境部会

回	日程	開催地	併催事業/共同プロジェクト
第1回	2004年8月	北九州市 (日)	環境産業シンポジウム
第2回	2006年6月	大連市 (中)	中国国際環境保護博覧会
第3回	2007年6月	蔚山広域市 (韓)	環境セミナー
第4回	2008年10月	下関市 (日)	環境セミナー
第5回	2009年8月	仁川広域市 (中)	環境セミナー、仁川世界都市祝典、海岸クリーンアップ事業、ライトダウンキャンペーン

第6回	2010年10月	北九州市 (日)	エコテクノ2020、九州・韓国・中国環境ビジネス商談会、海岸クリーンアップ事業、ライトダウンキャンペーン
第7回	2012年6月	青島市 (中)	中国国際循環経済成果貿易博覧会、海岸クリーンアップ事業、ライトダウンキャンペーン
第8回	2013年8月	煙台市 (中)	技術交流セミナー、海岸クリーンアップ事業、ライトダウンキャンペーン
第9回	2014年5月	蔚山広域市 (韓)	技術交流セミナー、海岸クリーンアップ事業、ライトダウンキャンペーン
第10回	2015年10月	北九州市 (日)	技術交流セミナー、海岸クリーンアップ事業、ライトダウンキャンペーン
第11回	2016年7月	大連市 (中)	技術交流セミナー、海岸クリーンアップ事業、ライトダウンキャンペーン
第12回	2017年5月	釜山広域市 (韓)	技術交流セミナー、海岸クリーンアップ事業、ライトダウンキャンペーン
第13回	2018年10月	北九州市 (日)	技術交流セミナー、海岸クリーンアップ事業、ライトダウンキャンペーン
第14回	2019年11月	青島市 (中)	技術交流セミナー、ビジネス商談会、海岸クリーンアップ事業、ライトダウンキャンペーン
第15回	2022年 [予定]	仁川広域市 (韓)	

#### 過去の観光部会

回	日程	開催地	併催事業/共同プロジェクト
第1回	2005年9月	釜山市 (韓)	釜山国際観光展(BITF)、観光ビジネス交流会
第2回	2006年10月	煙台市 (中)	観光ビジネス交流会、アジア欧州会合(ASEM)旅行協力発展フォーラム・展覧会
第3回	2007年11月	下関市 (日)	国際観光推進シンポジウム、観光ビジネス交流会、10都市ポスター展
第4回	2008年10月	釜山広域市 (韓)	世界観光投資サミット(WTIS)、アジア太平洋都市観光振興機構(TPO)会議、観光ビジネス交流会
第5回	2009年8月	青島市 (中)	観光ビジネス交流会、「2009環黄海イヤー」スタートイベント、青島国際ビール祭り
第6回	2010年9月	福岡市 (日)	産業観光セミナー、「2010環黄海イヤー」2010中国国際旅遊交易会(上海)
第7回	2011年10月	仁川広域市 (韓)	ビジネス交流会
第8回	2013年10月	下関市 (日)	10都市観光パネル・ポスター展 第26回韓国国際観光展(ソウル)
第9回	2014年9月	天津市 (中)	2014中国旅行産業博覧会

第10回	2015年9月	蔚山広域市 (韓)	第国際旅行博2015(バンコク)2月25日～3月1日 ツーリズムEXPOジャパン(日本・東京)9月24日～27日
第11回	2016年11月	北九州市 (日)	2016ホーチミン市国際旅行博覧会、観光説明会
第12回	2018年11月	大連市 (中)	2020日本大阪観光展示会(2020年10月24日～27日)

#### 過去のロジスティック部会

回	日程	開催地	併催事業/共同プロジェクト
第1回	2005年7月	仁川広域市 (韓)	港湾PRセッション
第2回	2006年7月	青島市 (中)	物流ビジネス交流会、専門家フォーラム
第3回	2007年11月	福岡市 (日)	物流ビジネス交流会、記念講演会
第4回	2008年10月	釜山広域市 (韓)	物流企業プレゼンテーション・交流会、ワークショップ
第5回	2009年8月	仁川広域市 (韓)	ワークショップ物流ビジネス交流会、仁川世界都市祝典
第6回	2010年11月	天津市 (中)	

#### 過去の国際ビジネス部会

回	日程	開催地	併催事業/共同プロジェクト
第1回	2014年7月	釜山広域市 (韓)	
第2回	2015年7月	青島市 (中)	
第3回	2016年11月	北九州市 (日)	西日本国際福祉機器展
第4回	2017年10月	蔚山広域市 (韓)	
第5回	2018年11月	煙台市 (中)	煙台市都市計画展覧会訪問



## 環黄海経済・技術交流会議



第19回会議  
(オンライン開催)

写真提供  
経済産業省九州経済産業局

### 「環黄海地域経済圏」形成を目指し、黄海沿岸地域等が参加

「環黄海経済・技術交流会議」は、日中韓の「黄海」を取り巻く地域からなる経済圏域（環黄海地域経済圏）発展・深化を目指す交流プラットフォームである。1999年にフィリピン、2000年にシンガポールで開催されたASEAN+3サミットで日中韓の経済協力の必要性が認識され、環黄海圏の安定的な協力体制を構築することに合意し、2001年3月から正式に始まった。

同会議は、日本経済産業省九州経済産業局、中国商務部アジア司、韓国産業通商資源部通商協力局の3か国政府機関をはじめ、関係する自治体や経済団体、企業、研究者等が一堂に会し、貿易・投資、技術・人材等の相互協力について話し合うとともに、具体的なビジネスのきっかけをつかむ場として発展している。

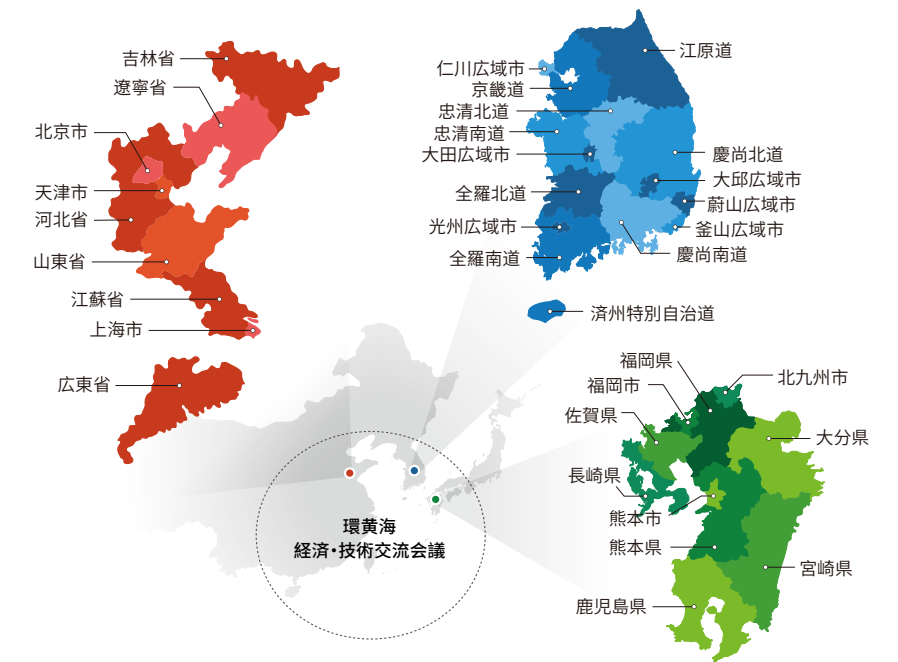
環黄海経済・  
技術交流会議交流都市・地域

### ○参加地域

日本：福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、大分県、宮崎県、鹿児島県、福岡市、北九州市、熊本市（九州地域7県3市）

中国：遼寧省、吉林省、河北省、山東省、江蘇省、北京市、広東省、天津市、上海市（6省3市）

韓国：京畿道、忠清北道、忠清南道、全羅北道、全羅南道、江原道、慶尚北道、慶尚南道、済州島、仁川広域市、大田広域市、光州広域市、釜山広域市、大邱広域市、蔚山広域市（9道6市）



### これまでの開催状況

回	日程	開催地
第1回	2001年3月	福岡県福岡市（日）
第2回	2002年10月	全羅北道全州市（韓）
第3回	2003年9月	山東省威海市（中）
第4回	2004年10月	宮崎県宮崎市（日）
第5回	2005年11月	大田広域市（韓）
第6回	2006年9月	山東省日照市（中）
第7回	2007年11月	熊本県熊本市（日）
第8回	2008年10月	仁川広域市（韓）
第9回	2009年7月	山東省煙台市（中）
第10回	2010年10月	福岡県北九州市（日）
第11回	2011年11月	大田広域市（韓）
第12回	2013年11月	江蘇省連雲港市（中）
第13回	2014年11月	長崎県佐世保市（日）
		釜山広域市（韓）
第14回	2015年11月	テーマ「医療・バイオ、新・再生エネルギー、産業団地、人材育成」
第15回	2016年7月	江蘇省塩城市（中） テーマ「環境に配慮したイノベーションと開放的な融合」
第16回	2017年11月	鹿児島県鹿児島市（日） テーマ「地域間交流の促進」「イノベーションを通じた新産業・新市場の創出」
第17回	2018年11月	全羅北道群山市（韓） テーマ「地域間交流の促進」「イノベーションを通じた新産業・新市場の創出」
第18回	2019年11月	山東省済寧市（中） テーマ「地域間交流の促進」「イノベーションを通じた新産業・新市場の創出」
第19回	2021年11月	熊本県熊本市（日）（オン・オフライン開催） テーマ「社会課題の解決に向けた新たな環黄海域経済交流モデルの構築と地域間交流の促進」
第20回	2022年 [予定]	釜山広域市（韓） 未定

◀  
出典  
九州経済国際化推進機構  
ホームページ

## 韓・日・中公務員三国協力ワークショップ

▶  
2019年ワークショップの  
団体写真

写真提供  
韓国外交部



### 韓国外交部主催、日中韓の若手地方公務員の交流の場

「韓・日・中公務員3国協力ワークショップ」は、①3国協力に対する理解の増進、②3国の地方レベルの協力の発展の方策についての意見交換、③3国の公務員間のネットワーク構築を目的に韓国外交部が2012年から毎年実施しているワークショップである。主な参加者は、韓国の地方都市で国際協力関連業務に携わる地方公務員と、韓国で勤務又は研修中の日本人及び中国人公務員である。韓国で勤務中の日本・中国の公務員の多くは、姉妹/友好都市関係にある道や市に派遣された日中の若手地方公務員であり、将来にわたるネットワーク形成と、それを通じた地方間交流に役立っている。

2019年5月に実施された直近のワークショップは慶州で実施され、韓国人38人、日本人15人、中国人35人の計88人が参加した。日中韓三国協力事務局（TCS）山本恭司事務次長が「3国協力の現況とTCS」とのタイトルで講演を行い、続いて丁相基（チョン・サンギ）元東北アジア協力大使による日中韓の文化比較に関する講演、日中韓の参加公務員による3国協力の事例の発表などが行われた。1泊2日の期間中、文化公演観覧・文化体験活動等も実施された。

## これまでの開催状況

回	日程	開催地	活動内容
第1回	2012年12月	ソウル特別市 (韓)	<ul style="list-style-type: none"> <li>自治体間の協力を通じた3国協力の発展に関する議論</li> <li>それぞれの自治体で実施されている3国協力政策を紹介</li> </ul>
第2回	2013年9月	ソウル特別市 (韓)	<ul style="list-style-type: none"> <li>3国協力の現状を紹介</li> <li>自治体別で3国協力事業を発表</li> <li>3国協力政策に関して討論</li> <li>文化イベント</li> </ul>
第3回	2014年5月	慶州市 (韓)	<ul style="list-style-type: none"> <li>3国協力の現状と重点の紹介</li> <li>日中韓3国協力事務局の機能と業務紹介</li> <li>3国公務員交流事業の例を紹介</li> <li>文化公演</li> </ul>
第4回	2016年6月	江原道平昌 (韓)	<ul style="list-style-type: none"> <li>3国協力の現状と日中韓3国協力事務局紹介</li> <li>3国の公務員交流事例の発表と討論</li> <li>平昌オリンピックの準備状況を紹介します</li> </ul>
第5回	2017年6月	京畿道広州市 (韓)	<ul style="list-style-type: none"> <li>3国協力の現状と日中韓3国協力事務局紹介</li> <li>3国公務員交流協力事業例の発表</li> <li>3国文化関連公演</li> </ul>
第6回	2018年10月	江原道江陵市・東草市 (韓)	<ul style="list-style-type: none"> <li>3国協力の現状と日中韓3国協力事務局紹介</li> <li>3国公務員交流協力事業例の発表と文化公演</li> <li>伝統文化体験と見学プログラム</li> </ul>
第7回	2019年5月	慶州市 (韓)	<ul style="list-style-type: none"> <li>3国協力の現状と日中韓3国協力事務局紹介</li> <li>3国公務員交流協力事業例の発表と文化公演</li> <li>伝統文化体験と見学プログラム</li> </ul>
第8回	2022年[予定]		

## 特別セッション： 自治体・地方政府首長インタビュー



### 山口県 村岡嗣政知事

**TCS: 現在推進中または参加中の日中韓トライアングル交流事業について紹介をお願いします。(事業内容、年間予算規模、交流事業参加者等)**

**村岡知事:** 本県と、友好協定・姉妹提携を結んでいる山東省(中国)、慶尚南道(韓国)の3地域において、毎年持ち回りで交流事業を実施しています。これまでに、環境シンポジウムの開催や、3地域の大学生による文化交流、高校生のスポーツ交流、伝統芸能フェスタの開催など、様々な分野での交流を行ってまいりました。これらの交流事業には、県内の関係団体や企業、学生など、県民の方にもご参加・ご協力をいただいております。

**TCS: 当トライアングル交流事業を推進するようになった背景及びきっかけは何でしょうか。**

**村岡知事:** 山口県と山東省が1982年に、山口県と慶尚南道が1987年に、それぞれ友好・姉妹提携を結んでおりましたが、これに続いて1993年に山東省と慶尚南道が友好協定を締結したことにより、山口県、山東省、慶尚南道のトライアングルの関係が構築されました。そこで1997年に、山口県と山東省の友好協定15周年、山口県と慶尚南道の姉妹提携10周年を契機としまして、3地域による広域連携・施策連携を図るため、共同交流事業を開始することとなりました。

**TCS: 新型コロナウイルスが交流事業にどのような変化をもたらしたのでしょうか。**

**村岡知事:** これまでの交流事業は、その年の主催地域での現地開催という形を取っていましたが、新型コロナウイルスの影響により海外渡航が困難となったため、オンラインでの事業実施という新しい形を取り入れることとなりました。現地での開催に比べて実施可能な内容は限られてしまいましたが、事業にご参加いただく関係団体の方の協力を得られやすいなどのメリットも感じられました。

**TCS: 今まで試したことはないが、新たに日中韓3か国間で推進したい交流分野や事業がある場合教えてください。**

**村岡知事:** 具体的にこの分野を、ということではないのですが、3地域が共通して関心を持っていたり、課題を抱えていたりするような分野での交流を積極的に進めていけたらと考えております。近年重点的に行っている、高齢者福祉分野での交流もその一つです。

**TCS: トライアングル交流事業が当地域にどのような直接的に・間接的な影響を及ぼすでしょうか。(市民の相互認識変化、観光者数、訪問客の多様化、留学生人口の変化など)**

**村岡知事:** インバウンド関係の他事業も実施しているため、本事業が観光客や留学生の人数等にどのような影響を与えているかという点については正確なことは言えませんが、事業にご協力いただいた関係団体の方からは「日本以外の国の取り組みを知ることで、これまでとは違う視点を持つことが出来た」、「普段にない経験で刺激を受けた」といった感想をいただいております。県民の国際的な視野の広がりや、異文化理解の向上に繋がっていると考えております。

**TCS: 日中韓地方都市間の交流を活性化する動きを支援するために、各国政府及びTCSはどのような役割を担うべきだと考えますでしょうか。**

**村岡知事:** 交流事業を行うにあたり、他自治体の事業の実施状況を参考にさせていただくことも多いので、貴事務局がまとめられている調査レポートは大変参考になります。こうした情報提供を、引き続きお願いしたいと思います。また、日中韓交流の今後一層の活性化を図るためには、自治体間のみでなく、民間同士の交流活動の推進に繋がる環境整

備が求められると考えております。

**TCS: 2022年に予定されている日中韓トライアングル交流事業計画について簡単な紹介をお願いします。**

**村岡知事:** 2022年度の交流事業としましては、山東省の主催で、各地域の伝統楽器を用いた青少年の音楽交流が予定されています。山東省での現地開催となるか、オンラインでの開催となるかは、新型コロナウイルスの感染状況等を踏まえながら今後検討していくこととなっております。

**TCS: 毎年3地域間の交流実務会議と共に多様な交流事業を開催されておりますが、会議の議題及び交流事業の内容はどのような方式で決定しておりますでしょうか。**

**村岡知事:** 毎年交流事業と同時に開催している実務者会議において、来年度の事業内容に関する提案や調整を行っています。事業の実施にあたり、3地域が持ち回りで主催を担当する形をとっておりますが、基本的には次の主催地域が事業内容を提案し、それを軸に実施時期や方法などを3地域で話し合いながら固めていくという流れになることが多いです。

**TCS: 山口県は1997年より長期間に渡り日中韓交流事業を推進して来ましたが、今まで注目すべき交流事業の成果としてどのようなものがありますでしょうか。**

**村岡知事:** 2014年に、青少年によるスポーツ交流事業として、山東省にて卓球の友好交流試合を行いました。こちらが好評で、その翌年には慶尚南道での青少年バスケットボール交流事業が企画され、更に2017年には本県において、大学生を中心とした青少年による伝統芸能のステージイベントを開催するなど、青少年による交流事業が続くこととなりました。このように、将来を担う若い世代が様々な分野で交流し、互いを理解し合いながら国際的な視点を育むことは、これからの3地域における協力関係深化のために大変重要なことですので、今後も本事業を通じ、こうした場を提供していきたいと考えております。

**TCS: 山口県では中国山東省、韓国慶尚南道とそれぞれ友好／姉妹協定を締結し、以降もトライアングル交流を推進して来たと同っています。それについて以下の2点について教えてください。**

**▶ 既存の両者間交流から三者間交流に拡大させた効果・メリット**

**村岡知事:** 3か国、3地域が同時に交流することにより、一度の交流事業において、より多様な文化やグローバルな視点に触れる機会が得られること、事業規模や交流分野の幅が広がることなどがメリットであると考えております。

**▶ 両者間交流と比較し、トライアングル交流が持つ難点や克服方法**

**村岡知事:** 3地域での交流では、2地域間の交流に比べて事業内容の決定や日程調整などの面で折り合いをつけることが難しい場合があります。また、メールや電話でやり取りをする場合、3地域が同時に情報を共有することが難しく、認識に齟齬が生じやすいという難点があります。ですので、各々の事情を考慮した上で、より細やかに連絡を取り合いながら調整を進めていくことが重要だと感じています。

**TCS: 近年高齢者福祉分野の交流について議論がなされていると同っていますが、具体的にどのような事業が推進される予定でしょうか。**

**村岡知事:** 具体的な事業として話が進んでいるわけではありませんが、今後も引き続き高齢者福祉政策に関する情報交換の場を設けること、そして、新型コロナウイルスの感染状況が落ち着き次第、民間の関係団体を含めた訪問団を派遣し、各地域の高齢者福祉施設の視察等を行うことを予定しています。

**TCS: 現在、推進または参加している日中韓トライアングル交流事業についてご紹介をお願いします。（事業内容、年間予算規模、交流事業参加者等）**

**王市長:** 揚州市は古来より開放的で寛容な都市として知られています。鑑真の故郷であり、朝鮮漢文学の祖である崔致遠の第二の故郷でもあります。揚州市は2008年に韓国の慶州市、2010年に日本の奈良市とそれぞれ友好都市関係を結び、2019年にアジア文明対話会議の開催に成功した後「東アジア文化都市」に選定されました。同年10月には「ASEAN+3文化都市ネットワーク」の立ち上げに成功し、ASEAN事務局、日中韓三国協力事務局、ASEAN文化都市から200名近い指導者やゲストが揚州市に集まりました。参加都市が共同で発表した「揚州イニシアチブ」は、第22回ASEAN+3首脳会議での李克強首相のスピーチに盛り込まれました。また、「世界運河都市フォーラム」を毎年開催し、日本の北九州市や韓国の順천시などの姉妹都市から首長を招き、オンライン会議を行っています。2020年のフォーラムでは、世界の運河都市における文化観光産業の持続的発展について議論し、その成果として「揚州イニシアチブ」がまとめられました。

2022年6月に開催される第1回「江蘇省『一帯一路』友好都市協力ハイレベルフォーラム」に、日本の奈良市と韓国の慶州市を招待し、両友好都市の市長にオンラインで参加してもらう予定です。また、今年はそれぞれの都市を紹介する短編映像コンテストを開催し、日本・韓国の友好都市に参加を呼びかける予定です。

**TCS: 上記のトライアングル交流事業を実施することになった背景やきっかけを教えてください。**

**王市長:** 揚州市は日本、韓国と長い交流の歴史があります。改革開放以来、日本の唐津、厚木、奈良、韓国の麗水、龍仁、済州、大邱と相次いで友好都市関係を結んでいます。揚州泰州国際空港は日本の大阪と韓国の済州島への直行便を開通させました。

親族も友人も、会う機会が多いほどより仲が深まるものです。日本や韓国と交流する中で、オープンなコミュニケーションは現代における重要なテーマであり、発展のトレンドであり、国民の期待であることを深く実感しました。2020年11月、習近平総書記は揚州市を視察し、「揚州は良いところだ。特に文明、文化、歴史的な古都であるという点で、中国において重要な役割を果たしている」と賞賛されました。文化的内容について更に探求し、日本・韓国との文化交流と経済貿易協力を強化し、3地域のイメージを協力して広め、地域の経済と文化の繁栄を推進し、三者の相互理解を促進し、精神的な絆を深め、「人類運命共同体」に寄与していきたいと考えています。

**TCS: 交流事業の実施にあたり、どのような困難に直面し、それをどう克服しましたか。**

**王市長:** 現在3都市は交流と協力の面で一定の成果を上げていますが、まだまだ拡大の余地があります。客観的に見ても、新型コロナウイルスの感染拡大により、3都市間の直接の交流は制限されています。現在、積極的にアイデアを出し、変化に対応した革新を追求し、「顔をつきあわせた交流」から「画面越しの交流」に切り替え、新しい国際交流・協力の形態を模索しています。

交流の内容としては、これまでは文化の探求に重きを置いていましたが、国際化が進むにつれ、技術・人材・産業などの分野でも協力し、3地域の相互協力を深めていくことができるようになりました。揚州市には揚州大学や様々な職業・技術高等専門学校があります。奈良市と慶州市も人材が豊富で、3地域の産業も補完し合っている部分があります。今年、中国・日本・韓国がRCEP協定（地域的な包括的経済連携協定）に加入しました。私たちはこの好機を逃さず、さまざまな協力を推進し、Win-Winの関係を実現したいと考えています。

**TCS: 新型コロナウイルスの感染拡大は交流事業にどのような影響を及ぼしましたか。**

**王市長:** 変化は主に次のような点に見られました。第一に、3都市間の交流人口が近年著しく減少していること。第二に、コミュニケーションの方法が変化し、かつての「対面コミュニケーション」から「オンライン・コミュニケーション」へと変化したこと。第三に、経済貿易交渉や投資促進などの現場活動が大幅に減少し、交流の効果に一定の影響があったこと。現在、「デジタル揚州」の建設を進めていますが、「オンライン観光」、「オンライン投資誘致」などの活動をさらに強化し、特に若者の科学技術に対する高い知識を生かし、効果を増幅させることができると考えています。

**TCS: 今後、新たに日中韓三国で取り組みたい交流分野や事業があれば、教えてください。**

**王市長:** 今年はRCEP協定が発効された最初の年です。中国・日本・韓国は、最大の人口、最も多様な加盟国構成、そして最も大きな発展の可能性を持つ世界的な自由貿易圏に参加しました。この動きは、三国間のより高いレベルでの経済統合、三国のサプライチェーンと産業チェーンの連結、国際貿易と投資の自由化と円滑化につながります。

私たちは、RCEP協定の実施を契機に、日本・韓国との経済貿易協力をさらに強化したいと考えています。第一に、貿易交流の深化です。日本と韓国は揚州市の重要な貿易相手国です。バイオテクノロジー、新医療機器、新化学素材、繊維、衣料などの分野で多くの商品が日本と韓国に輸出されています。今年の第1四半期、揚州市の日本・韓国への輸出入量はそれぞれ1.3%、6.9%増加しました。RCEP協定がもたらした利益を有効に活用し、より多くの産業と企業が地域産業チェーンの統合に参加することを促進し、ニーズに合った製品を開発し、越境ECサプライチェーン・システムの改善を支援し、海外倉庫や海外サブ市場の発展を促し、「世界から買って、世界に売る」ことを目標としています。第二に、プロジェクト構築です。揚州市党委員会と市政府は、常に外資プロジェクトを投資促進の重要な方向とし、「530」投資促進アクション（5年間でフォーチュン500や多国籍企業から30社を誘致）を継続的に行ってきました。日本の日清紡、住友精化、韓国のWOOREE、Power Logicsなど100社以上の日本・韓国企業が揚州に投資し、工場を建設しました。近年は「イベント開催による経済的ネットワーク構築」も注目されています。2021年に「東アジア文化都市揚州」を国際経済貿易観光祭「花火行進」と同時開催しました。祭りの期間中、合計180のプロジェクト契約が締結され、その中で先進的な製造業と現代サービス業のプロジェクトの投資総額は1224億6000万人民币元に達しました。次のステップとして、2022年日中（揚州）経済文化交流、2022年崔致遠学術セミナー&中韓国際協力フォーラムなどの機会を活用し、より多くの日韓の大企業が揚州に注目し、投資することを期待しています。

第3に、科学技術イノベーションにおける協力です。日本と韓国は科学教育資源が豊富であり、揚州の企業が科学技術研究と技術転換を行う上で重要な研究開発パートナーです。揚州の伝芸科技と韓国の光云大学のプロジェクト、中国の金豊機械電子と韓国の全北大学工学院のプロジェクトなど、多くの研究開発プロジェクトが省の科学技術協力事業として評価されています。揚州市は、600万平方メートルの科学技術産業団地を建設し、総額300億人民元の産業指導基金、20億円の創業・革新基金、5億円の技術転換特別基金を設立し、科学技術開発・商品化の実現のための支援サービスが整っています。特に揚州市は現在、企業のための「技術転換とデジタル転換」の行動計画を実施しています。今年、数千の工業企業を対象とした「スマート化・デジタル化」プロジェクトが実施される予定です。産業ソフトウェア、オートメーションなどの分野で科学的、人的なリソースを持つ日本や韓国の大学と協力することで、揚州の企業がより良く、より速く発展することを期待しています。

**TCS: 交流事業においてSNSを活用されている場合は、活用状況と方法をご紹介ください。**

**王市長:** 「東アジア文化都市」に選定後、揚州市は広報とコミュニケーションにおけるソーシャルメディアプラットフォームの役割に注目し、ポータルサイト、ネットブロッガー、観光専門家などと協力しながら、オンラインでの広報活動を拡大してまいりました。「東アジア文化都市揚州」の検索件数は400万件に達しています。また、「ASEAN+3文化都市ネットワーク」の公式サイト（中国語と英語）とWeChatの公式アカウントも構築されました。毎号、1つの東アジア文化都市を取り上げ、その都市の成り立ちや人間的な魅力、観光地の特徴などを紹介し、読者より高く評価されています。WeChat公式アカウントの累計読者数は100万人を突破しました。「東アジア文化都市」と「ASEAN文化都市」の両方を宣伝する重要なチャンネルとなっています。「揚州出版」アプリと揚州市のYouTube、Facebookなど海外ソーシャルメディアを通じて、「東アジア文化都市揚州」のプロモーションビデオを公開し、定期的に揚州市の文化や最新状況を紹介しながら、「揚州の新しいイメージ」や「揚州の声」も配信しています。

**TCS: トライアングル交流事業は地域にどのような直接的・間接的な影響を及ぼしたと考えられますか。（市民の相互認識の変化、観光者数、訪問客の多様化、留学生人口の変化など）**

**王市長:** 国家間の友好は人々の親密な触れ合いや心と心の交流によって形成され、そのためには文化交流が不可欠です。揚州市は、日本や韓国との交流を深めるために、文化人の起用に力を入れてきました。2010年には、奈良県と協力し日本の東大寺にある鑑真和上坐像を揚州市に移し、「鑑真精神フォーラム」を開催しました。両市の市民が共同で寄付を行い、鑑真桜通りを建設するなどの活動を行いました。2007年からは、中国外交部の認可を受けた初の海外著名人記念館である「崔致遠記念館」の建設を開始しました。現在も、鑑真桜通りと崔致遠記念館は、中国人や外国人観光客に人気の観光スポットとなっています。また、三者間の友好と協力の基盤を築くために民間の力も大きい役割を果たしています。1999年以来、揚州市、韓国の麗水市、日本の唐津市は「日中韓友好都市囲碁交流大会」を開催しており、これは日中韓の地域交流の中で最も長い歴史を持つ事例の1つとなっています。2003年には、日本の西武新聞社と揚州市政府が協力して「鑑真マラソン大会」を開催しました。今では国際陸上競技連盟（IAAF）のワールドラベル大会に登録され、毎年3万人以上のランナーが参加しています。2021年には、1万6100人の宿泊

観光客を受け入れましたが、そのほとんどが日本人と韓国人でした。また、日韓を訪れる際の交通の利便性を高めることにも重点をおいています。揚州市は、上海と南京といった大都市圏の間に位置します。揚州泰州国際空港では、韓国の済州島や日本の大阪を含む13の国際路線が開通されており、年間300万人の旅行客の往来があります。現在、私たちは揚州泰州国際空港第2期プロジェクトの推進に全力を注いでいます。完成後は、旅客1000万人以上、貨物・郵便3万6000トンに対応できるようキャパシティを拡大する予定です。人材交流と生産要素の循環もさらに促進していきます。教育分野での協力強化にも力を入れており、揚州市と日本、韓国間の交換留学生の数は増加しています。国交樹立当初は数十人だった人数が、現在では562人にまで増え、3都市の大学交流や学術交流の発展に寄与しています。

**TCS: 日中韓地方都市交流の活性化を推進するために、各国政府及びTCSはどのような役割を担うべきでしょうか。**

**王市長:** 日中韓三国協力事務局は、地方都市交流を推進する専門機関です。一方では、日中韓政府間の協力メカニズム及び経済界の交流・協力への支援やオンライン・オフラインのイベントを開催することができます。様々な活動において、日中韓の地方都市に参加を呼びかけ、交流の水準や範囲を拡大することができますと思います。他方では、事務局のユニークな立場を活かして、日中韓の都市間交流の成功事例を収集し、運営しやすく、効果的で、人々の心に寄り添う事業を推進することで、最終的に日中韓の地方都市間の活発な交流を実現させることができます。

**TCS: 「東アジア文化都市」選定のためには激戦を通過すると伺いましたが、選定過程はどのようなものなのでしょうか。揚州市が東アジア文化都市2020に選ばれた秘訣があれば、教えてください。**

**王市長:** 現在、中国における「東アジア文化都市」の申請には、次の六つの手続きが必要です。まずは、申請です。「東アジア文化都市申請書」に必要事項を記入し、省の文化観光行政局に届け出ます。第二に、省の予備審査があります。省の文化観光行政局は申請都市の予備審査を行い、より説得力のあるいくつかの都市を選び、文化観光部に推薦します。第三に、候補都市の決定です。文化観光部は各省の予備審査をもとに、候補都市を決定します。第四に、候補都市の準備です。候補都市は「東アジア文化都市」申請条件及び受入採点ガイドラインを基準とし、準備作業を進めます。第五に、市民の受け入れ態勢のチェックです。文化観光部は専門家を雇い、予備審査、抜き打ち現地伺い視察、最終審査答弁というプロセスで審査を行います。第六に、承認です。審査結果は文化観光部に報告され、承認を受けるとともに、文化観光部国際交流協力局から選定都市に文書で通知されます。結果は日中韓文化大臣会合の場で発表されます。

揚州市が選考を通過した要因は、大きく分けて2つあります。第一に、東アジアの文化交流における揚州の歴史的役割を十分にアピールしたことです。揚州は「陸のシルクロード」と「海のシルクロード」が交差する地点に位置しています。東アジアの文化交流と文明間の相互学習における重要なパイプです。また、長い歴史を持つ都市であり、国家や東アジアの文化交流の歴史において極めて重要な役割を担ってきました。揚州市が日中韓の文化交流における重要な役割を担っているという点を説明する際に、「2人の人（鑑真と崔致遠）」「1つの川（北京杭州大運河）」「1つの詩（煙花三月下揚州）」を引用しました。煙花三月下揚州は、揚州の歴史と文化を最もよく表す作品のうちの一つです。まさに揚州の古代文化と現代文明の美しさを表現していると言えます。第二に、国際文化交流における揚州の影響力をアピールすることです。揚州は文化的な建築物の開発、文化の保存、文化の繁栄、文化交流の面で多く尽力してまいりました。文化的建築物の開発では、中国揚州大運河博物館、東関街歴史文化区、鑑真記念館、崔致遠記念館などがあります。文化保存の側面では「揚州古城保護条例」を制定し、国連ハビタット名誉スクロール賞を獲得しました。文化の繁栄の面では、揚州の古詩、漢学、伝統的なオペラの発展を推進し、文化交流の面では、ユネスコ世界遺産である中国大運河の主要登録都市として、ヨーロッパ、アメリカ、日本、韓国、アフリカなどと広範囲な交流を保ち、その影響力を拡大しています。

**TCS: 「東アジア文化都市」がその地域の人々にどのような影響を及ぼすことを期待していますか。どのようなメリットがあるでしょうか。**

**王市長:** 「東アジア文化都市」は、日中韓が共同で取り組むアジア初の国際文化都市認定イベントであり、3か国の文化交流の重要な成果でもあります。「東アジア文化都市」が東アジアにおける地域文化協力の最高のプラットフォームとなるだけでなく、東アジア地域の経済、社会、文化交流の水準を高める国際的な枠組みとなること願います。揚州市を例にとると、2019年に「東アジア文化都市」に認定されて以来、日本や韓国との経済・貿易交流も新路線に入りました。揚州市政府は「東アジア文化都市2020揚州活動実施計画」を発表しました。「揚州の美を見つける」をテーマに、「東アジア文化都市揚州活動年」、「東アジア文化首都」提携ワークショップや「世界運河都市フォーラム2020」、「日中韓書道篆刻合同展」「大運河文化観光促進」など一連の国際文化交流活動を開催しました。「CCEA+貿易」「CCEA+食」「CCEA+スポーツ」「CCEA+ガーデニング」など多様な角度、形態、要素を持ち合わせ、揚州の人的魅力を伝えることに成功しました。「東アジア文化都市」のブランド力を借りて、東アジア各都市

の経済・社会・文化の全面的な協力と交流を強化し、市民の文化的生活を更に豊かにし、生活の質を向上させ、先進的な都市文化システムを構築し、都市文明と経済の発展を促進し、文化主導の都市の開発と質の高い発展を実現したいものです。

**TCS: 多くの「東アジア文化都市」がフォローアップで交流を続けているようですが、揚州市・順천시・北九州市の2022年の計画を教えてください。**

**王市長:** 2019年に「東アジア文化都市」として選出されて以来、揚州市は東アジアの都市の間で、若者のオンライン交流、文化的な贈り物の交換、文化製品や創作料理の展示、ショートビデオコンテストなどの幅広い活動を継続して行っています。2020年の新型コロナウイルス感染症の大流行に直面し、揚州市は日本の北九州市と韓国の順천시に防疫物資を寄贈し、防疫における交流と協力を強化しました。韓国の順천시は、揚州市に5000枚以上のKF94マスクを寄贈しました。日本の北九州市は、防護服48セットを揚州市に寄贈し、3都市間の友好をさらに深めることに繋がりました。揚州市の大明寺の鑑真記念館前にある「山川異域、風月同天」（山河を隔てても、同じ空と同じ月を共有するの意）の石碑は、日中友好を表す心温まるフレーズとなっています。次のステップでは、CCEA日中韓書画展、2022年日中（揚州）経済文化交流のサブイベントである「文化創作商品マーケット」を準備する予定です。同時に、順천시、北九州市との友好/姉妹都市関係構築の可能性を積極的に模索し、今後の3都市間の友好交流拡大に向けた基盤作りを進めていく考えです。

**TCS: 「東アジア文化都市事業」の継続的な発展と今後のフォローアップ事業推進のためにTCSに期待する役割がありましたら教えてください。**

**王市長:** 現在、新型コロナウイルス感染症の拡散は依然として危険な状態にあり、国際経済貿易交流は大きな打撃を受けました。特に対面での交流や大規模な博覧会等は大幅に減少してしまいました。このような背景の下、TCSと東アジアの都市が、経済・社会・文化の分野における協力や人材交流を積極的に提唱し、三国のビジネス・産業界に経済・貿易協力を引き続き深めるための機会と窓口を提供することを期待します。また、TCSが東アジア各国・都市の相互理解、相互信頼、協力のためのプラットフォームやパイプとなり、より多くの三国間協力活動を計画し（現段階ではオンライン活動も計画可能）、地域・国際経済の回復を後押しすることを期待しています。今後も引き続き揚州市の経済・社会発展への支援をお願い致します。状況が許す限り、TCSの代表の方々には揚州市を訪問していただき、揚州市の経済、社会、文化の発展をその場で見て、他国と一緒に揚州市の経済、文化交流を促進していただけると幸いです。

## ハン・ボムドク 韓国清州市 韓凡憲市長

**TCS: 現在推進中または参加中の日中韓トライアングル交流事業について紹介をお願いします。（事業内容、年間予算規模、交流事業参加者等）**

**韓市長:** 清州市は1986年から日本の鳥取市にはじまり、中国の武漢市(1998年)とアメリカのペリンガム市(2005年)と公式に姉妹都市提携をし、その後も世界の多くの都市と姉妹/友好都市関係を結び多様な交流を続けてきました。そのような中、2015年中国の青島市、日本の新潟市とともに韓国の清州市が東アジア文化都市に選定され、日中韓3都市の交流事業が本格化しました。その間、政治的問題等による困難な時期もありましたが、長年培った信頼関係を土台に清州、青島、新潟の3都市はこれまで7年間交流を続けています。主要事業としては、各都市の青少年を対象とした交流事業と公演芸術団体を中心とした文化交流事業です。もちろん新型コロナウイルスの感染拡大のため、直近の二年間は現地訪問の代わりにオンラインプラットフォームを活用した非対面の交流を進めるしかありませんでした。それにもかかわらず毎年各国から選ばれた約10人~20人の青少年が写真展、K-POPダンスなどMZ世代ならではの方法でお互いの都市について理解を深め、友情を育んでいます。また、清州と青島、新潟を代表する芸術団は、現地の祭りでの公演や公演コンテンツを映像化したものを共有する方法で交流を続けています。清州市では、毎年1億4000万ウォン程度の予算を東アジア文化都市交流事業に投入しています。予算の規模は大きいとは言えませんが、青少年から芸術団体、実務者まで各都市から年間平均100人余りが持続的に参加する、清州の代表的な国際交流事業であることは間違いありません。

**TCS: 当トライアングル交流事業を推進するようになった背景及びきっかけは何でしょうか。**

**韓市長:** きっかけとなったのは2012年5月、中国上海で開催された第4回日中韓文化大臣会合でした。当時3国が東アジア文化都市の交流事業推進に合意し、2014年に各国政府が自国の伝統と文化及び芸術を代表する都市を一つずつを選定し交流事業を開始しました。最初に選定された東アジア文化都市は、韓国の光州広域市、中国の泉州市、日本の横浜市でした。翌年の2015年に清州市が中国の青島市、日本の新潟市とともに2番目の東アジア文化都市に選定されました。今年韓国の慶州市と中国の済南市・温州市、日本の大分県が選定され、3月25日慶州で2022東アジア文化都市の開幕式が行われました。その際に清州市は東アジア文化都市の先輩格として参加しました。

**TCS: 交流事業推進時の障壁や克服方法について教えてください。**

**韓市長:** 国際交流はどうしても世界情勢の影響を受けやすく、先程も述べたとおり国家の利益に関わる重大な政治的問題が発生すると、文化交流事業は頓挫してしまいます。しかし、そのような対立は政治的事案であり、国家間のいさかきの要因にはなりえても、地方都市間の文化交流の花がそれにより枯れることはありませんでした。自国への招待や現地の祭りへの参加など、すぐに直接交流することは難しいとしても、いつでも再び会えるように電話やメールなどでネットワーキングを続けてきました。実際、政治的な問題よりもっと致命的な危機は、「コロナ・パンデミック」でした。人類の日常が完全に止まってしまい、世界の国境が閉ざされたため、文化芸術交流事業への関心と重要度は以前よりはるかに低くなってしまいました。防疫と国民生活の安定を優先しなければならない時期だったため、各都市では交流事業のための予算を確保することも容易ではありませんでした。そのような中、清州・青島・新潟の3都市は「オンライン非対面交流」という方法を選びました。オンラインの特徴として、時間や場所の制限なく3都市間でいつでも交流することができました。また、リアルタイムのテレビ会議、映像や写真での交流、伝統食品の配送など、多様な非対面の交流方法を試みながらお互いの文化に対する理解と好感を高めることができました。当然対面交流ができないことは大変残念でしたが、コロナ禍という大きな障壁を前にしても、諦めたり中止したりせずに、迅速に新しい方式の交流に切り替え、多様なチャレンジをしたという点で意味のある経験だったと思います。また、このような経験は私達の大切な資産になったと思います。

**TCS: 新型コロナウイルスが交流事業にどのような変化をもたらしたでしょうか。**

**韓市長:** コロナパンデミックがエンデミックに向かっているとはいえ、以前のような活発な対面交流が可能になるかについては誰も保障することはできません。そのような観点からオンラインとオフラインの両方を念頭において事業を推進するようになったという点が最も大きな変化だと言えます。青少年文化交流においては、オンラインのおかげでむしろコミュニケーション方法が多様化し、自由性が高くなりました。旧世代とは違って、生まれた瞬間からデジタル環境やSNSプラットフォームの活用に慣れてきた今の10代の青少年た

ちだからこそ可能だった変化であり、彼ら自らが国際交流の主体となり、積極的に互いの興味関心や楽しみを共有しながらコンセンサスを築こうとする姿がとても印象的でした。対面交流が可能な時期が来ても、予算や訪問日程などには制限があるのでオンラインを並行して年中交流を続けていけば、日中韓三国の持続的な友好関係を一層推進できるのではないかと思います。

**TCS: 今まで試したことはないが、新たに日中韓3か国間で推進したい交流分野や事業がある場合教えてください。**

**韓市長:** これまでの東アジア文化都市交流事業において重点が置かれていたのは、各都市の代表的な名所または各国の伝統文化に対する相互理解を深めることでした。この点についてはこれまでの交流を通じて既にそれなりの成果を収めたと考えています。コロナ禍という未曾有の危機を乗り越える中で、オンラインという新しい交流方法を試みることになり、東アジアの未来の主役である青少年たちの自発的な参加に対する意志を確認することができました。

上記の2つの観点を融合させ相乗効果を発揮できるような事業を企画したいと思います。例えば、「ゲーム」に着目した「東アジア文化都市・eスポーツ大会」を開催してはどうかと考えています。既存のゲームを使用したeスポーツ大会を更に発展させ、清州市・青島市・新潟市の青少年が自分の暮らす都市の個性やアイデンティティを取り入れたゲームを開発し、そのゲームを使って大会を開催するというものです。

清州市ではすでに忠北グローバルゲームセンターを拠点に地域に根差した多様なゲームコンテンツが開発され、世界市場に進出していこうとしています。また、「ゲームジャム」と呼ばれる、アマチュアたちが集まり、決まった期間内にゲームを開発する大会やイベントも毎年開催されていますが、そのレベルの高さは予想をはるかに上回るものでした。このような才能と掛け合わせた試みを通じて、これまでのやり方とは全く異なる国際交流の新たな形を開拓できるのではないのでしょうか。もちろん、この構想は交流都市である青島市と新潟市の賛同と協力があってこそ実現できる夢です。

**TCS: 日中韓トライアングル交流事業において、SNSを活用している場合は活用状況と方法をご紹介下さい。**

**韓市長:** コロナ禍でオンライン交流が中心となり、SNSの活用も拡大しました。従来は、各都市のホームページとメールが主なコミュニケーションの手段でしたが、現在はYouTube、Instagram、中国のWeiboなど様々なオンラインツールを活用して、各都市の文化芸術コンテンツを収めた映像をリアルタイムで配信しています。また、公式の交流事業以外にも参加した青少年や芸術団体がWeChat、LINEなど個人の連絡手段を使い、継続的にコミュニケーションを取り合い友情を深めているという点も印象的です。そして今年2022年は各国の青少年の間で人気の「TikTok」のようなショートフォームビデオを積極的に活用し、自由で個性あふれる映像パフォーマンスでオンライン交流の新たなトレンドを作っていく予定です。

**TCS: トライアングル交流事業が当地域にどのような直接的に・間接的な影響を及びたでしょうか。（市民の相互認識変化、観光者数、訪問客の多様化、留学生人口の変化など）**

**韓市長:** まず清州市民の青島市と新潟市に対する心理的距離が一段と近くなったことが挙げられます。きっと青島市と新潟市の市民も同じでしょう。ここには3都市が東アジア文化都市に選定された2015年から2019年まで清州で開催されてきた「箸フェスティバル」が一役買っていると思います。「箸フェスティバル」は東アジア3国の長い歴史の中に存在する、共通の生活道具であり文化コンテンツである「箸」をモチーフにした展示・公演・学術行事・デモンストレーションや体験など、多様なプログラムで構成されたフェスティバルでした。毎年平均約5万人の内外の来場客が参加するほど注目を集めています。また、このフェスティバルを通じて発掘された「箸コンテンツ」は、東アジア文化都市の新潟市、青島市だけでなく、ニューヨーク、パリ、タイ、カザフスタンなど様々な国や都市からの招待があり海外特別展を展開しました。フェスティバルは終了しましたが、清州では正しい箸文化を広げるために養成した「箸教育者」たちがいまだに活動を続けており、文化コンテンツとしての可能性を認識できたということも貴重な成果であったと思います。三国の東アジア文化都市が協力したおかげで、「箸」という、また一つのK-コンテンツが発掘されたとも言えるわけです。

**TCS: 日中韓地方都市間の交流を活性化する動きを支援するために、各国政府及びTCSはどのような役割を担うべきだと考えますでしょうか。**

**韓市長:** 日中韓三国の平和と繁栄を目的とする国際機関であるだけに、TCSの役割は大変重要だと考えます。国際情勢は、1つの国の意志と努力だけでは解決できない複雑に利害が絡み合った問題であり、国際情勢が混迷すると地方都市間の文化交流は大きな打撃を受けるしかありません。そのため、どのような状況下でも文化芸術や民間交流が動揺しないよう、緊密かつ強固なネットワークを構築する必要があります。そのような役割を担うのがまさにTCSだと考えています。持続的な平和と地域の繁栄、文化の共有を目指すTCSであるので、設立目的のとおり、東アジア文化都市交流事業はもちろん、日中韓の多様な利害関係者の間を調整し、国境を越えた支援と協力を引き出すハブになっていただきたいと思います。

**TCS: 2022年に予定されている日中韓トライアングル交流事業計画について簡単な紹介をお願いします。**

**韓市長:** コロナ禍が今も続いているため、まずはオンライン交流に主眼を置いて事業を展開して行く予定です。先程も言いましたが、ショートフォームビデオの配信プラットフォームを活用して青少年のオンライン交流の領域を拡大し、各都市の公演芸術団体の活動を映像コンテンツとして共有し、互いの文化と芸術への理解の幅を広げようとしています。何よりも今年は日中韓文化都市交流の活性化のためのフォーラムを準備していますが、東アジア文化都市交流事業がこれまで歩んできた道のりを共に振り返り、今後進むべき方向に対する新たな里程標を設定する、重要なきっかけになると期待しています。「東アジア文化都市・eスポーツ大会」の実現のため3都市のコンセンサスを形成することができれば、これ以上ない良い年になるでしょう。

**TCS: 清州市は中国の青島市、日本の新潟市とともに2015東アジア文化都市に選定されて以来、七年間継続して交流事業を推進していると伺いましたが、秘訣があれば教えてください。また、青島市と新潟市も交流事業に積極的なのでしょうか。**

**韓市長:** 清州市・青島市・新潟市の3都市が今年を含め七年間も交流を続けることができたのは、東アジア文化都市交流事業の必要性と価値について3都市ともに共通認識があるからではないかと思います。清州市は2015年から清州市文化産業振興財団が中心となって交流事業を担当しています。新潟市も2015年の担当者が今も関連業務を担当しています。青島市は少し状況が当時とは異なっていますが、東アジア文化都市交流事業に対する情熱だけは今もまったく変わっていません。

このように3都市とも東アジア文化都市交流を主要事業として認識しているという点が秘訣と言えれば秘訣でしょう。何より参加した青少年と公演芸術団体の満足度が高いことが良い影響を及ぼしていると思います。一つの事業を継続して長期間推進するには、市民の積極的な支持ほど大きな原動力となるものはないからです。

**TCS: 3都市は毎年夏季青少年交流プログラムと公演団派遣を通じた文化芸術交流を実施していると聞いています。毎年の東アジア文化都市のフォローアップ事業の内容、時期などはどのように決めていますか。**

**韓市長:** 3都市の担当者が継続的にメールや電話などを通じて、プログラムの基本的な枠組みやスケジュールなどを議論し、年末ごろになると、翌年の事業の具体的な方向性が決まっていきます。青少年交流の場合、各国の学校の試験や休みなど学業日程が異なるため、日程調整には細心の注意を払っています。直近二年間はコロナ禍で各都市の公演芸術団の現地派遣が難しくしなり、現在も停止している状況ですが、各都市の代表的な祭りや観光プログラムと連携して交流事業を推進してきたため、関連分野の動向を把握することも主要な業務の1つです。今年はパンデミックの状況が転換期を迎えると予想されますので、各国の新型コロナウィルス感染症の状況を監視しながら状況の変化に瞬発力をもって対応していく考えです。

**TCS: 新型コロナウィルス感染拡大以降もオンライン交流、映像の交換など新しい交流方法を積極的に取り入れて交流事業を推進されてきたようですが、その過程で困難だった点はありませんか。また、今後の交流事業推進のために得られた教訓などあれば教えてください。**

**韓市長:** 迅速にオンラインに切り替えたおかげで、コロナ禍でも国際交流を中断することなく続けることができました。また、従来の形式から抜け出し新しい時代に合った交流方法を試みたという点においても非常に良い経験でした。しかし、いくらオンラインのメリットが多いとしても、直接会い、話を聞き、会話を交わし、相手の息遣いまで感じられるような、対面交流の感動を越えることはできないでしょう。文化芸術交流にはこのような特殊性が存在するため、オンラインだけでは限界があります。また、各都市のインターネット通信速度やネットワークシステムの環境などが異なるといった、現実的な問題が存在するため、オンライン交流を進めながら試行錯誤することも多くありました。しかしコロナ禍は現在も続いており、いつ深刻な状況が再び到来するかわかりません。そのため、今回の経験を財産とし、今後もオンライン・オフラインを並行する複合的な交流方式をとることになるのではないかと思います。

**TCS: 東アジア文化都市事業の継続的な発展と今後のフォローアップ事業推進のためにTCSに期待する役割がありましたら教えてください。**

**韓市長:** すでにお答えしましたとおり、東アジア文化都市に選定された都市、そしてこれから選定される都市が、いかなる政治・経済的な変化にも揺らぐことなく国際交流を続けることができるように、日中韓三国の緊密かつ強固なネットワークプラットフォームを構築していただきたいです。また、TCSは内外のメディアとも厚い信頼と協力関係を維持しているので、東アジア文化都市交流事業の価値と重要性を内外に広く知らせる窓口になっていただければ、日中韓三国の関係がさらに友好的に発展すると思います。今後もTCSには東アジア文化都市交流事業に関心を持っていただき、日中韓三国の様々な地方都市が有機的につながり、共に成長できる環境を作ってくださいますようお願いいたします。

## 協力機関

レポートの編纂にあたり情報提供をいただいた自治体・機関・団体の皆様に、心より感謝申し上げます。

### 地方自治体

#### 中国

- ・北京市人民政府
- ・上海市人民政府
- ・吉林省人民政府
- ・江蘇省人民政府
- ・山東省人民政府
- ・陝西省人民政府
- ・遼寧省人民政府
- ・温州市人民政府
- ・漢中市人民政府
- ・済南市人民政府
- ・紹興市人民政府
- ・西安市人民政府
- ・青島市人民政府
- ・泉州市人民政府
- ・蘇州市人民政府
- ・大連市人民政府
- ・長沙市人民政府
- ・敦煌市人民政府
- ・寧波市人民政府
- ・ハルビン市人民政府
- ・北京市東城区人民政府
- ・臨沂市人民政府
- ・揚州市人民政府

#### 日本

- ・東京都庁
- ・石川県庁
- ・愛媛県庁
- ・大分県庁
- ・神奈川県庁
- ・鳥取県庁
- ・長崎県庁
- ・山口県庁
- ・北九州市役所
- ・京都市役所
- ・新潟市役所
- ・横浜市役所
- ・厚木市役所
- ・金沢市役所
- ・唐津市役所
- ・佐渡市役所
- ・東京都豊島区役所
- ・東京都目黒区役所
- ・奈良市役所

#### 韓国

- ・ソウル特別市庁
- ・仁川広域市庁
- ・光州広域市庁
- ・大邱広域市庁
- ・釜山広域市庁
- ・江原道庁
- ・京畿道庁
- ・慶南道庁
- ・慶北道庁
- ・全北道庁
- ・済州特別自治道庁
- ・軍浦市庁
- ・慶州市庁
- ・順天市庁
- ・清州市庁
- ・全州市庁
- ・麗水市庁
- ・昌寧郡庁
- ・ソウル特別市中浪区庁

### 関係省庁・関係機関

#### 中国

- ・文化観光部
- ・中国人民対外友好協会 (CPAFFC)

#### 日本

- ・文化庁
- ・一般財団法人自治体国際化協会 (CLAIR)
- ・経済産業省九州経済産業局
- ・公益財団法人長崎県国際交流協会
- ・東アジア経済交流促進機構 (OEAED)

#### 韓国

- ・文化体育観光部
- ・韓国外交部
- ・大韓民国市道知事協議会 (GAOK)
- ・(社) アジア文化センター都市造成支援フォーラム
- ・昌寧郡牛浦沼トキ事務所
- ・済州国際訓練センター (JITC)
- ・清州市文化産業新興財団

#### 中国

- ・首都博物館
- ・瀋陽故宮
- ・旅順博物館
- ・蘇州図書館
- ・曲阜師範大学

#### 日本

- ・江戸東京博物館
- ・北九州市立自然史・歴史博物館 (いのちのたび博物館)
- ・金沢海みらい図書館
- ・長崎大学
- ・山口県立大学

#### 韓国

- ・仁川広域市立博物館
- ・全州市完山図書館
- ・ソウル歴史博物館
- ・慶南大学校

### 博物館・図書館・大学

## その他TCS出版物およびウェブサイト

### 日中韓共通語彙集

日中韓共通語彙集は三国の人々の相互理解を深め、コミュニケーションを促進し、漢字の専門家及び言語学者間の交流と共同研究を増進することを目的としています。日中韓の日常生活において頻繁に使用される658語の語彙が含まれており、日本語、中国語、韓国語の3言語で出版されています。



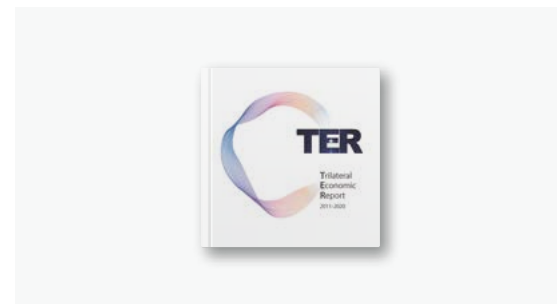
### 日中韓ハンドブック

日中韓ハンドブックは三国の基本情報(地理、国旗、言語等)、各国の伝統文化及びライフスタイルの特徴(衣食住等)を紹介し、3国の人々の相互理解を促すことを目的としています。日・中・韓・英の4言語で出版されており、写真や統計情報も含まれています。



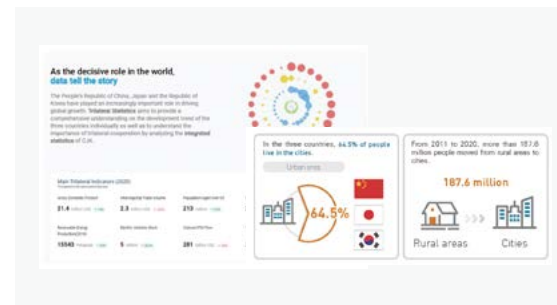
### 日中韓経済レポート2011-2020

日中韓の6つの著名シンクタンクが執筆に関わった「日中韓経済レポート2011-2020」は、過去10年間の日中韓の経済協力を振り返り、国内・地域・国際レベルでの三国連携について紹介しています。また、本レポートは、共栄を目指す地域の取組みに拍車をかけるべく、次の10年間の協力についての洞察を示しています。



### 日中韓統計ハブ

「日中韓統計ハブ」は、統合された統計を分析することにより、三国協力の重要性及び3国それぞれの発展傾向に関する総合的な理解を深めて頂けるよう、三国協力の様々な枠組みやプロジェクトに関する具体的なデータを入手できる、オンラインのポータルサイトです。







日中韓三国協力事務局の出版物は全て、[日中韓三国協力事務局ホームページ \(www.tcs-asia.org\)](http://www.tcs-asia.org) よりダウンロードが可能です。

## 調査レポート「日中韓地方都市トライアングル交流 2022」

2022年6月初版

大韓民国ソウル市鍾路区新門安路82 Sタワー 2 0階 3185

T +82-2-733-4700

F +82-2-733-2525

E tler@tcs-asia.org

編集・取材・資料収集 日中韓三国協力事務局 社会・文化部

プロジェクトチーム 孫ハイェスル、金主榮（キム・ジュヨン）、李倫周（イ・ユンジュ）、飯田彩恵子、澤山凌介、戸田明秀、徐碩（シュー・シュオ）、李政承（イ・ジョンソン）

監訳 欧渤芊（オウ・ポーチエン）、白範欽（ベク・ポムフム）、坂田奈津子、金知恩（キム・ジウン）、李冠玉、山本真澄

専門家諮問委員会 毛受敏浩 日本国際交流センター執行理事  
張振興（ジャン・ジェンシン） 中国人民対外友好協会弁公室副主任  
金珍我（キム・ジンア） 大韓民国市道知事協議会 国際協力部長

Copyright © 2022 Trilateral Cooperation Secretariat

無断複製・転載を禁じます。



Trilateral  
Cooperation  
Secretariat

비매품/무료  
95350



9 791188 016945

ISBN 979-11-88016-94-5 (PDF)

[www.tcs-asia.org](http://www.tcs-asia.org)

